

Ⅲ 調査結果

① 第1回アンケートの結果

1 東日本大震災への対応について

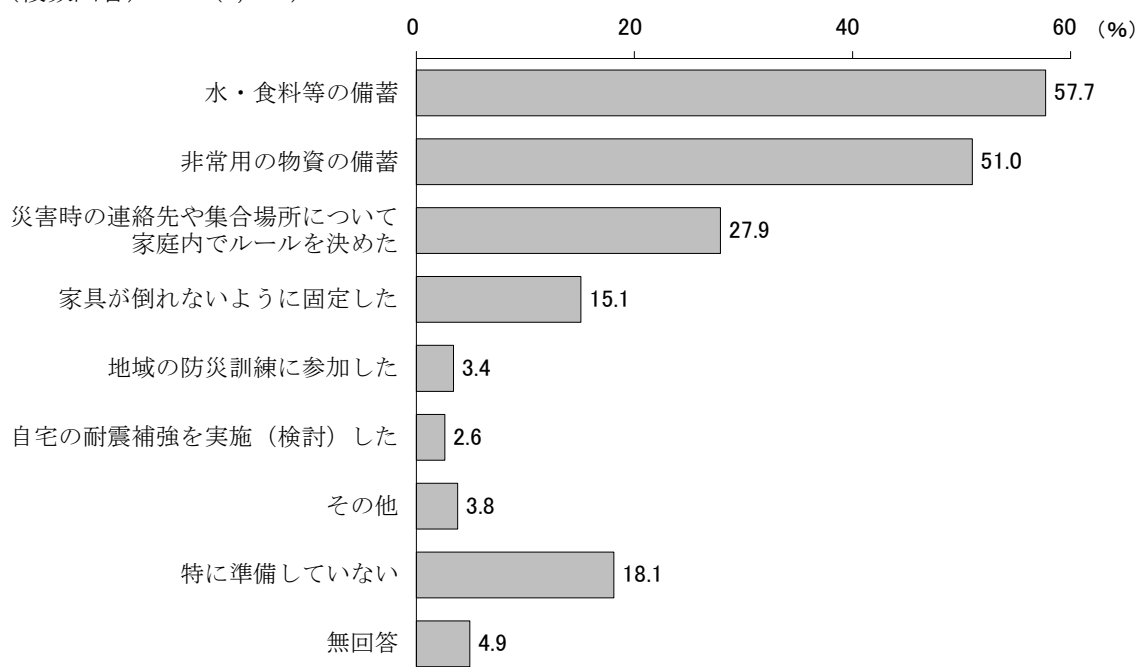
1-1 東日本大震災を機に地震等の災害に備えて新たに行ったこと

◎「水・食料等の備蓄」が57.7%

問1 今回の東日本大震災を機に、あなたは、家庭で地震等の災害に備えて新たに行ったこと（検討したことも含む）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

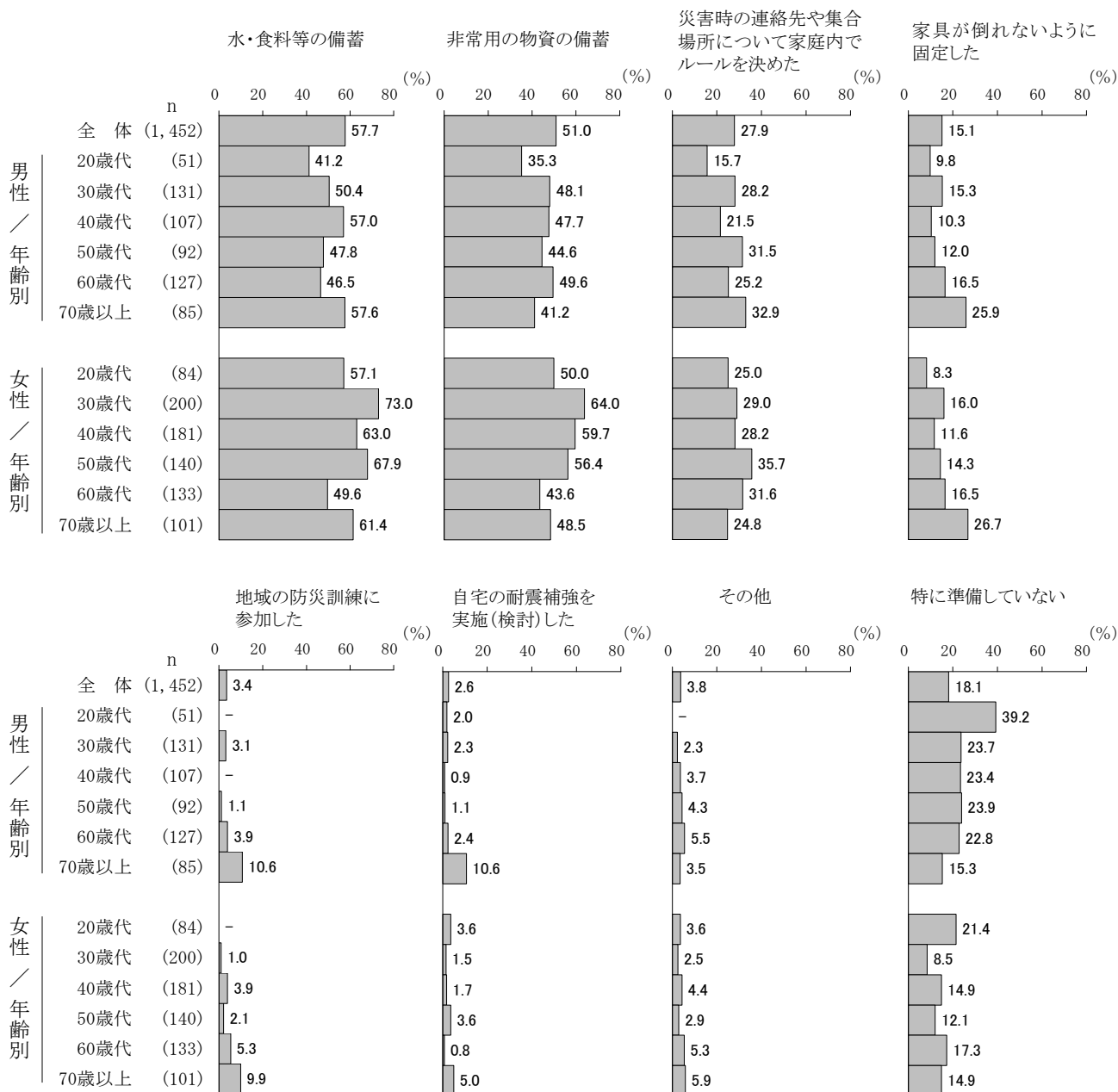
図表1-1 東日本大震災を機に地震等の災害に備えて新たに行ったこと

(複数回答) n = (1,452)



東日本大震災を機に災害に備えて新たに行ったことは、「水・食料等の備蓄」(57.7%)、「非常用の物資の備蓄」(51.0%)がそれぞれ5割台で多くなっている。次いで、「災害時の連絡先や集合場所について家庭内でルールを決めた」(27.9%)、「家具が倒れないように固定した」(15.1%)の順となっている。一方、「特に準備していない」(18.1%)は2割弱となっている。(図表1-1)

図表1-2 東日本大震災を機に地震等の災害に備えて新たに行ったこと (性/年齢別)



性/年齢別では、「水・食料等の備蓄」は、女性30歳代(73.0%)が最も多くなっており、また、全体的に男性より女性の方が多くなっている。「非常用の物資の備蓄」についても、女性30歳代(64.0%)が最も多くなっている。一方、「特に準備していない」は、男性20歳代(39.2%)が最も多くなっている。(図表1-2)

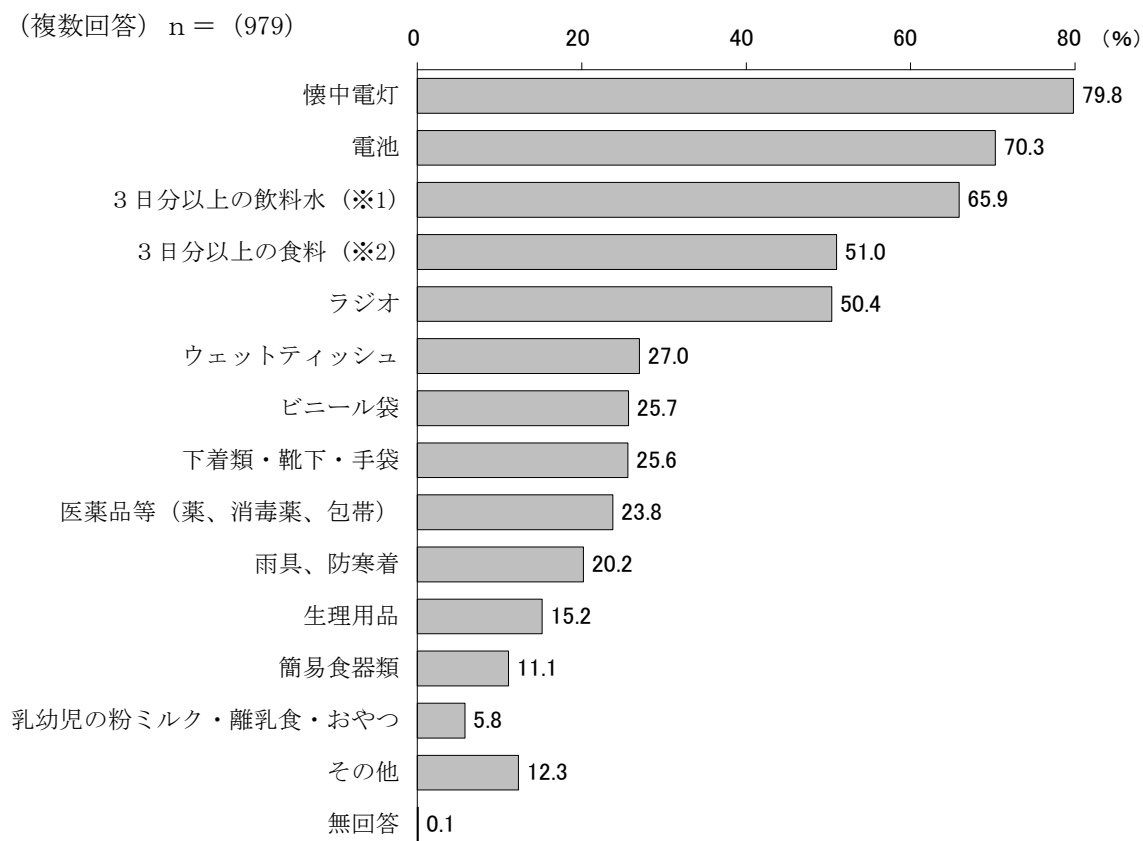
1-2 東日本大震災を機に備蓄した物資について

◎「懐中電灯」が79.8%

(問1で「1 水・食料等の備蓄」「2 非常用の物資の備蓄」のいずれかに回答した方にかがいます。)

問1-1 備蓄した物資は次のうちのどれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-3 東日本大震災を機に備蓄した物資

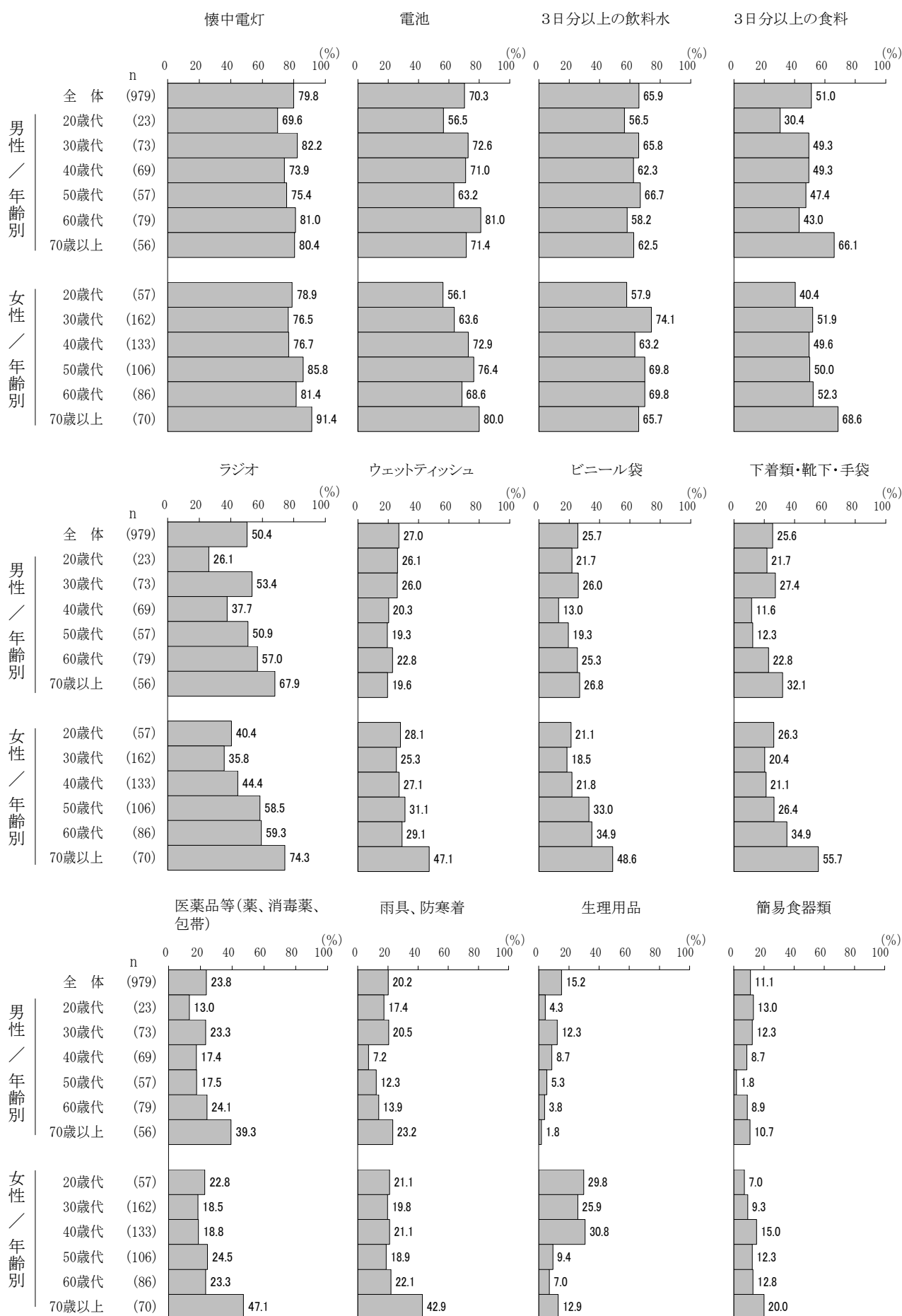


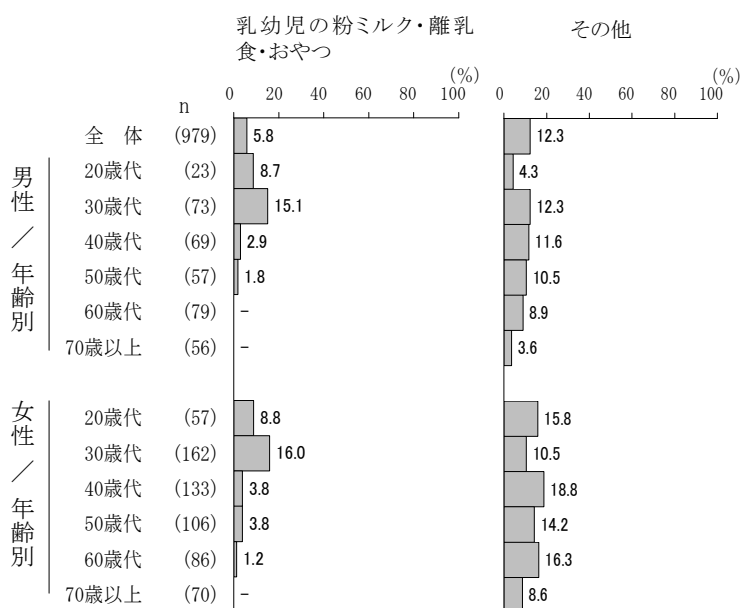
※1 清涼飲料水 (お茶、ジュース等) や、酒類は除く。

※2 いわゆる非常食だけではなく、日常使うインスタント麺やレトルト食品、缶詰など、簡単な調理やそのまま食べられるものも含む。

東日本大震災を機に備蓄した物資は、「懐中電灯」(79.8%)が最も多くなっている。次いで、「電池」(70.3%)、「3日分以上の飲料水」(65.9%)の順となっている。(図表1-3)

図表1-4 東日本大震災を機に備蓄した物資(性/年齢別)





性／年齢別では、「懐中電灯」は、女性70歳以上(91.4%)が最も多くなっている。「電池」は、男性では60歳代(81.0%)が、女性では70歳以上(80.0%)が最も多くなっている一方、男女ともに20歳代が5割台と少なくなっている。「3日分以上の飲料水」は、女性30歳代(74.1%)が最も多くなっている。「3日分以上の食料」は、男女ともに70歳以上が6割台後半と最も多くなっており、20歳代が男性で30.4%、女性で40.4%と少なくなっている。そのほか、「ラジオ」「ウェットティッシュ」「ビニール袋」「下着類・靴下・手袋」「医薬品等(薬、消毒薬、包帯)」「雨具、防寒着」「簡易食器類」で、女性70歳以上が最も多くなっている。(図表1-4)

1-3 東日本大震災の際の川崎市からの災害情報入手手段 今後入手したい災害情報入手手段

◎震災時「地上デジタル放送、データ放送（テレビ神奈川）」が33.1%

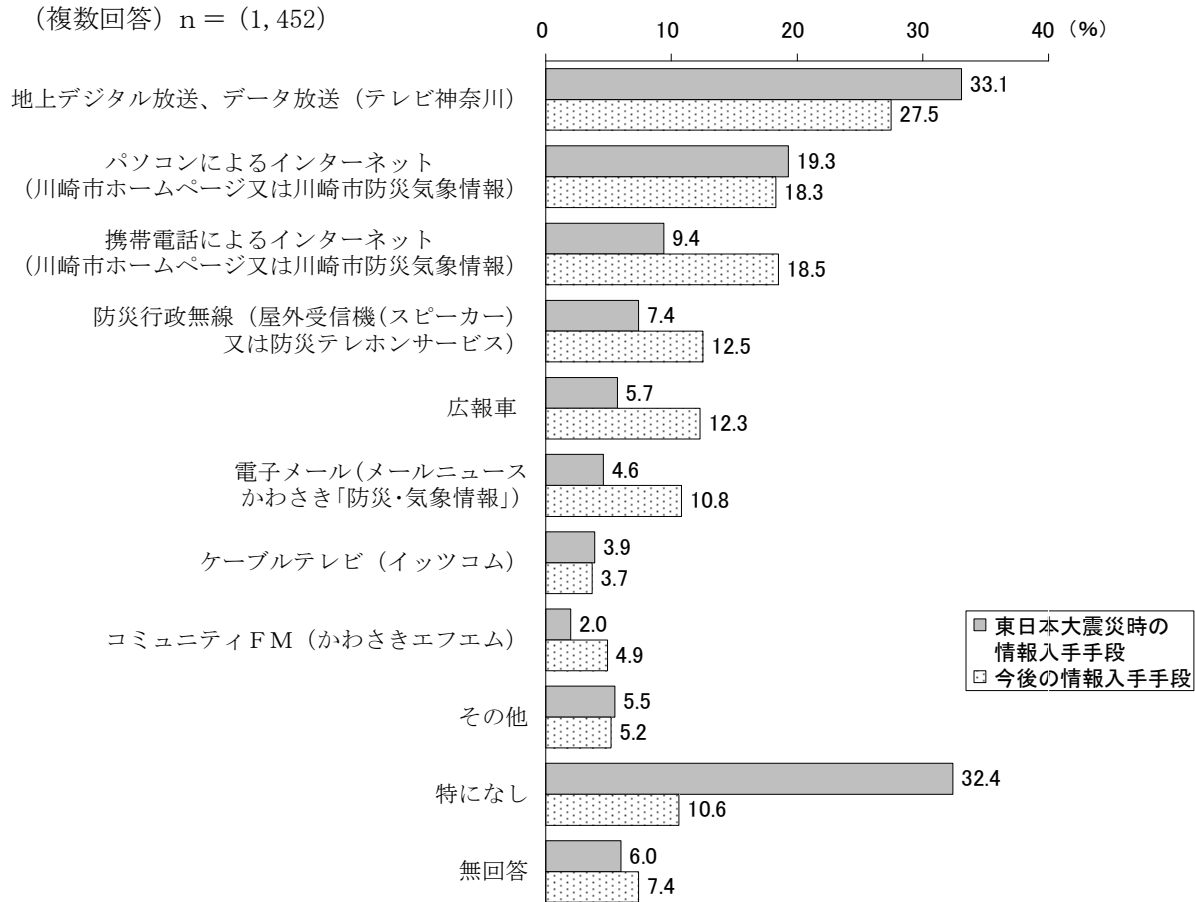
問2 あなたは、東日本大震災に際して川崎市からの災害情報を主にどのような手段で入手しましたか。（あてはまるものすべてに○）

また、今後、川崎市から災害情報を入手する場合に主にどのような情報伝達手段から入手したいですか。（○は1つだけ*）

*複数回答での回答多数により、複数回答分を含めた集計結果を掲載している

図表1-5 震災時の川崎市からの災害情報入手手段、今後入手したい情報入手手段

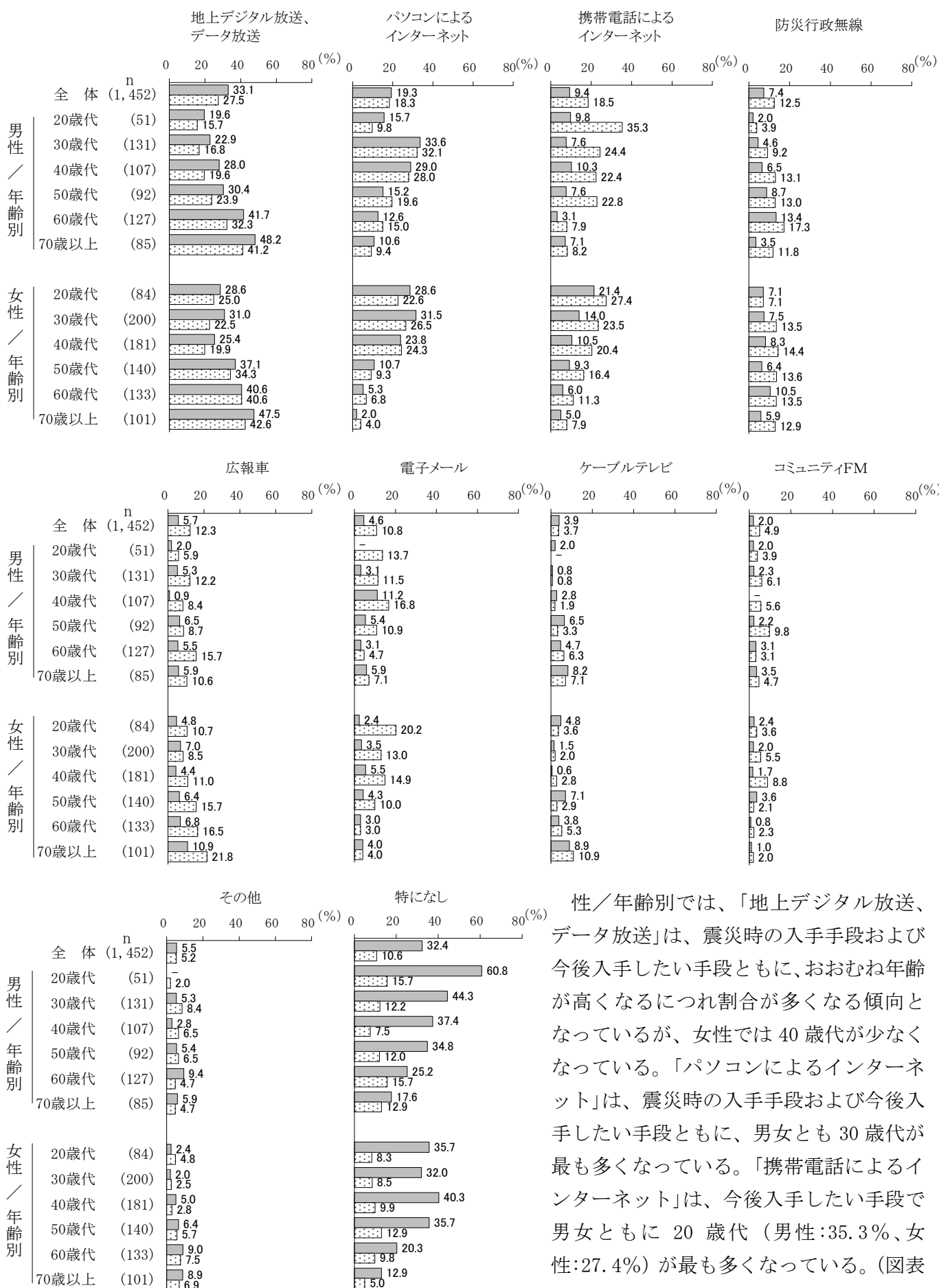
（複数回答）n = (1,452)



東日本大震災の際の川崎市からの災害情報入手手段は、「地上デジタル放送、データ放送（テレビ神奈川）」（33.1%）が最も多くなっている。次いで、「パソコンによるインターネット（川崎市ホームページ又は川崎市防災気象情報）」（19.3%）、「携帯電話によるインターネット（川崎市ホームページ又は川崎市防災気象情報）」（9.4%）の順となっている。

今後入手したい川崎市からの災害情報入手手段も、「地上デジタル放送、データ放送（テレビ神奈川）」（27.5%）が最も多くなっているが、次いで「携帯電話によるインターネット（川崎市ホームページ又は川崎市防災気象情報）」（18.5%）が「パソコンによるインターネット（川崎市ホームページ又は川崎市防災気象情報）」（18.3%）をわずかに上回っている。（図表1-5）

図表1-6 震災時の川崎市からの災害情報入手手段、今後入手したい情報入手手段(性/年齢別)



性/年齢別では、「地上デジタル放送、データ放送」は、震災時の入手手段および今後入手したい手段ともに、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっているが、女性では40歳代が少なくなっている。「パソコンによるインターネット」は、震災時の入手手段および今後入手したい手段ともに、男女とも30歳代が最も多くなっている。「携帯電話によるインターネット」は、今後入手したい手段で男女ともに20歳代(男性:35.3%、女性:27.4%)が最も多くなっている。(図表1-6)

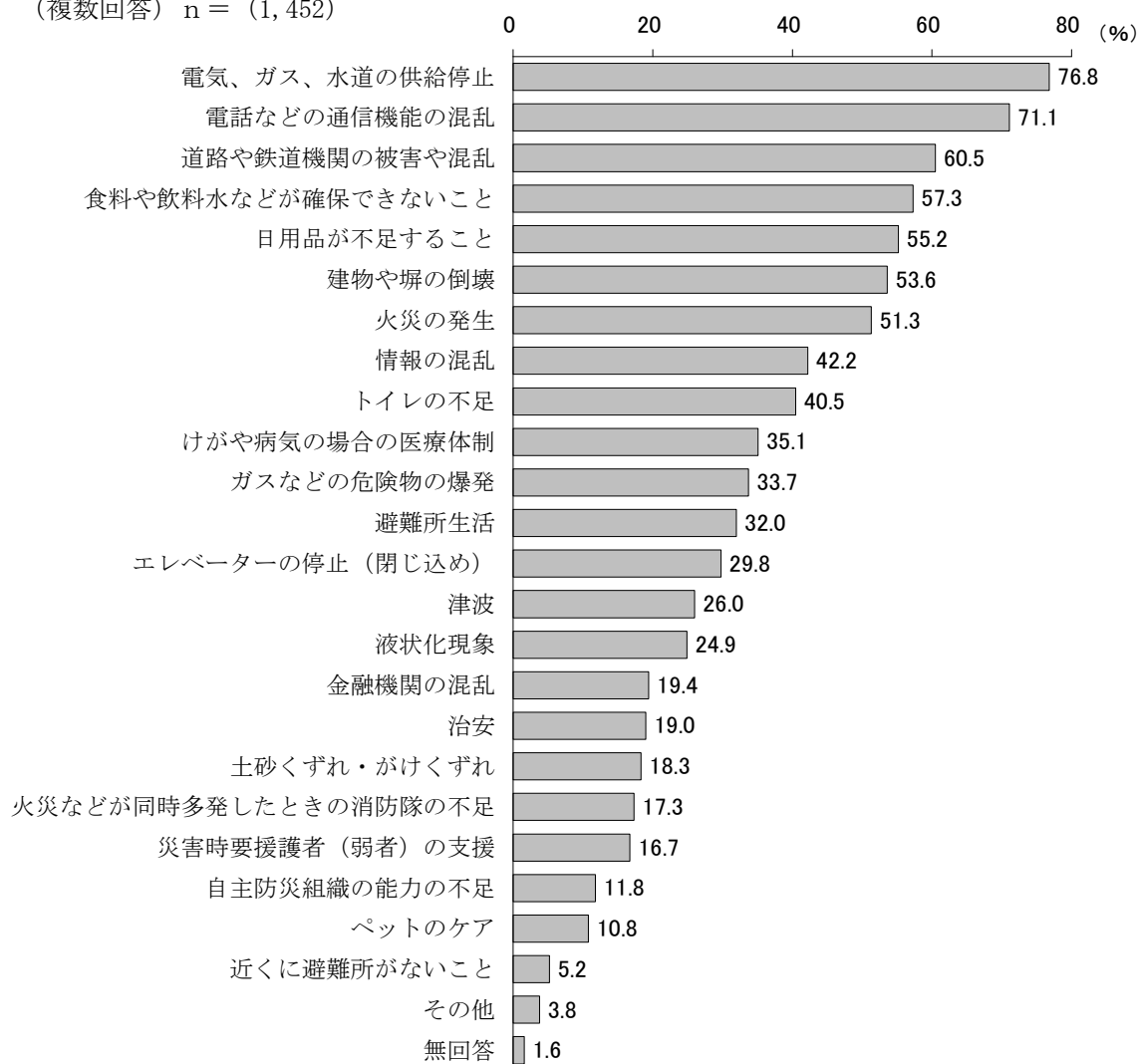
1-4 東日本大震災に際して、被害の発生を心配したり不安に感じたこと

◎「電気、ガス、水道の供給停止」が76.8%

問3 あなたが、東日本大震災に際して、被害の発生を心配したり不安に感じたりした事項は次のうちのどれですか。(あてはまるものすべてに○)

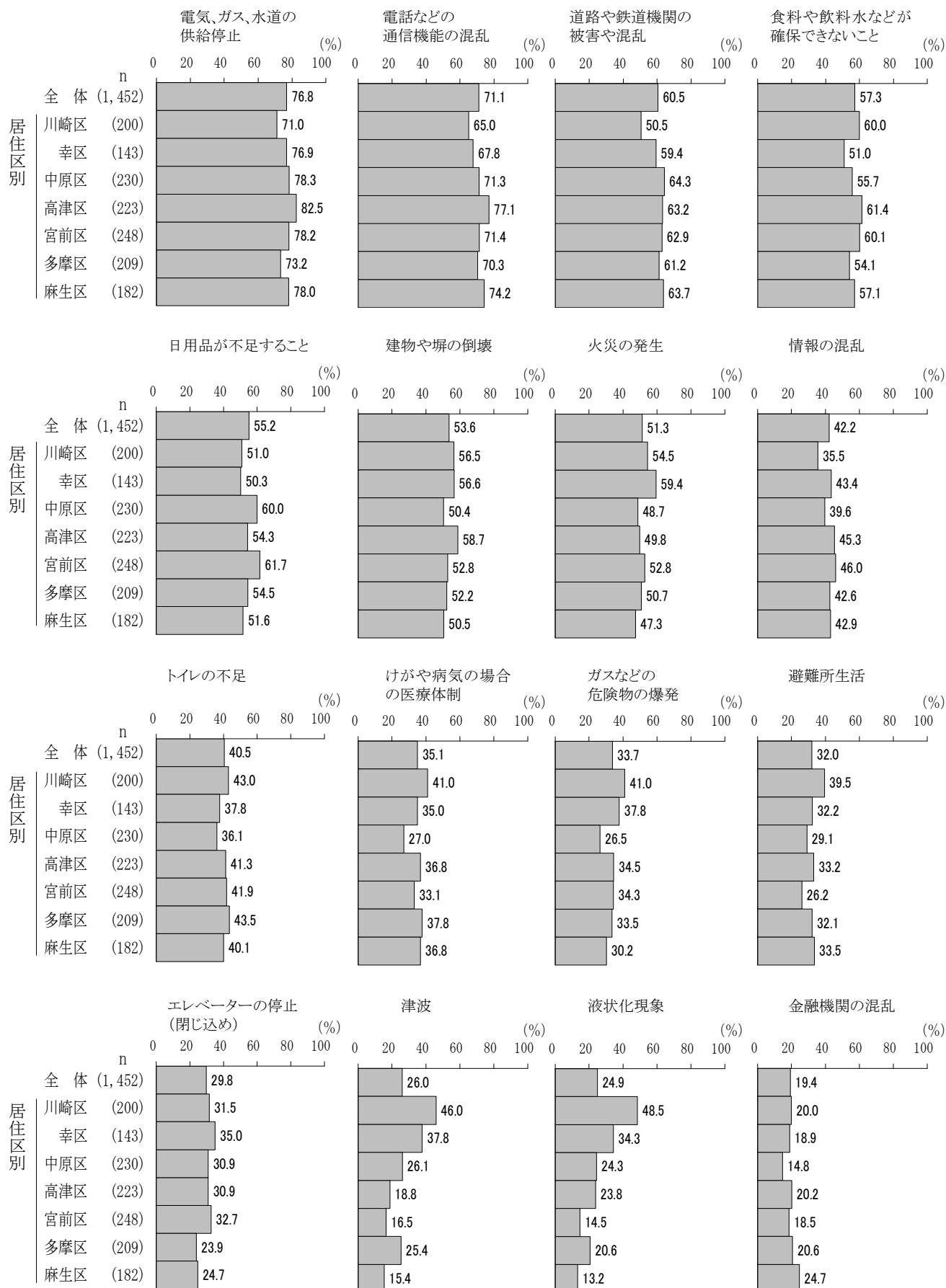
図表1-7 東日本大震災に際して、被害の発生を心配したり不安に感じたこと

(複数回答) n = (1,452)

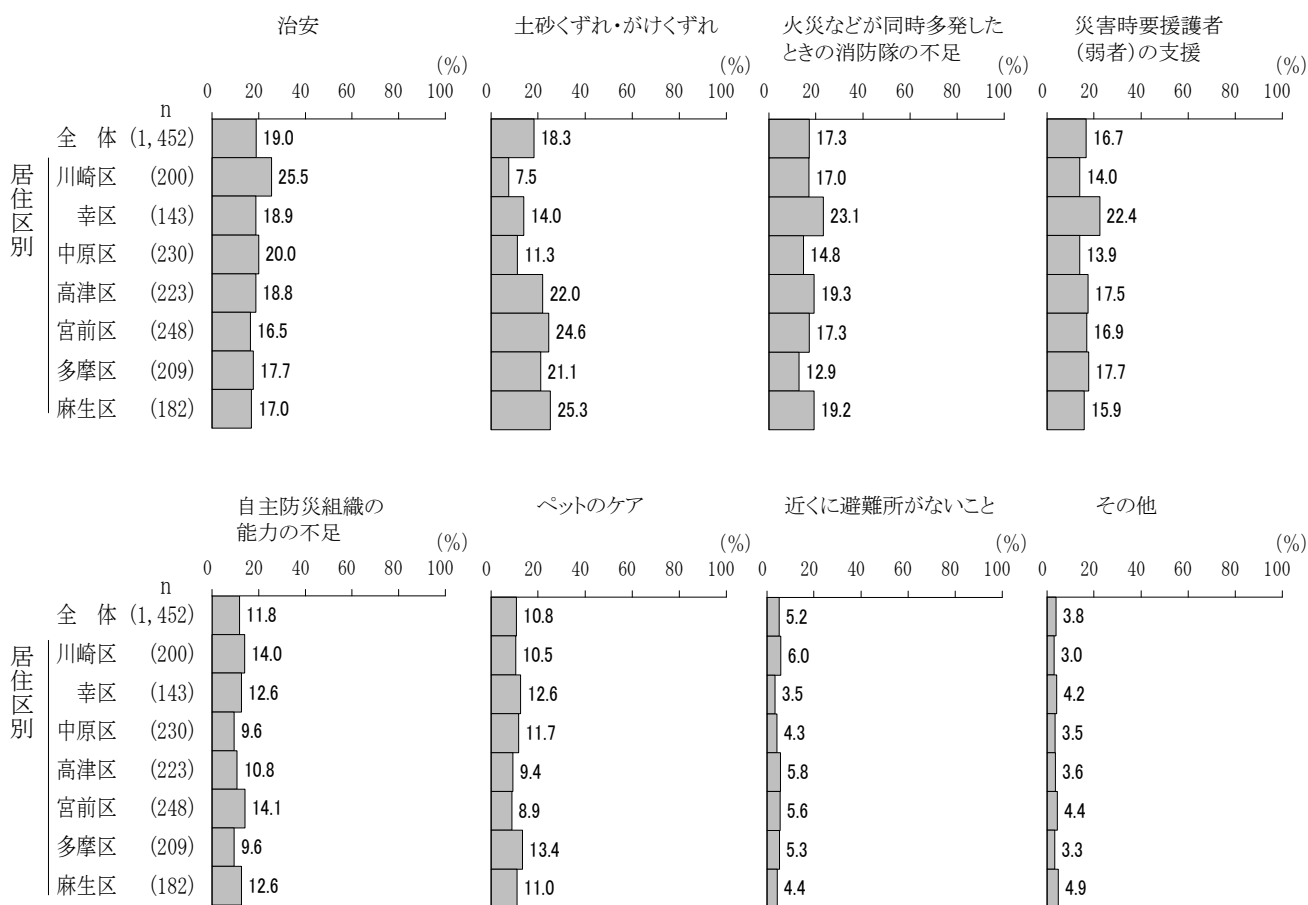


東日本大震災に際して、被害の発生を心配したり不安に感じたことは、「電気、ガス、水道の供給停止」(76.8%)、「電話などの通信機能の混乱」(71.1%)がそれぞれ7割台で多くなっている。次いで、「道路や鉄道機関の被害や混乱」(60.5%)、「食料や飲料水などが確保できないこと」(57.3%)の順となっている。(図表1-7)

図表1-8 東日本大震災に際して、被害の発生を心配したり不安に感じたこと（居住区別）



(第1回アンケート)



居住区別では、「電気、ガス、水道の供給停止」は、高津区(82.5%)が最も多く、川崎区(71.0%)が最も少なくなっている。「電話などの通信機能の混乱」は、高津区(77.1%)が最も多く、川崎区(65.0%)が最も少なくなっている。「道路や鉄道機関の被害や混乱」は、川崎区(50.5%)が最も少なくなっている。「津波」は、川崎区(46.0%)が最も多く、麻生区(15.4%)、宮前区(16.5%)、高津区(18.8%)がそれぞれ1割台と少なくなっている。「液状化現象」は、川崎区(48.5%)が最も多く、麻生区(13.2%)、宮前区(14.5%)がそれぞれ1割台と少なくなっている。(図表1-8)

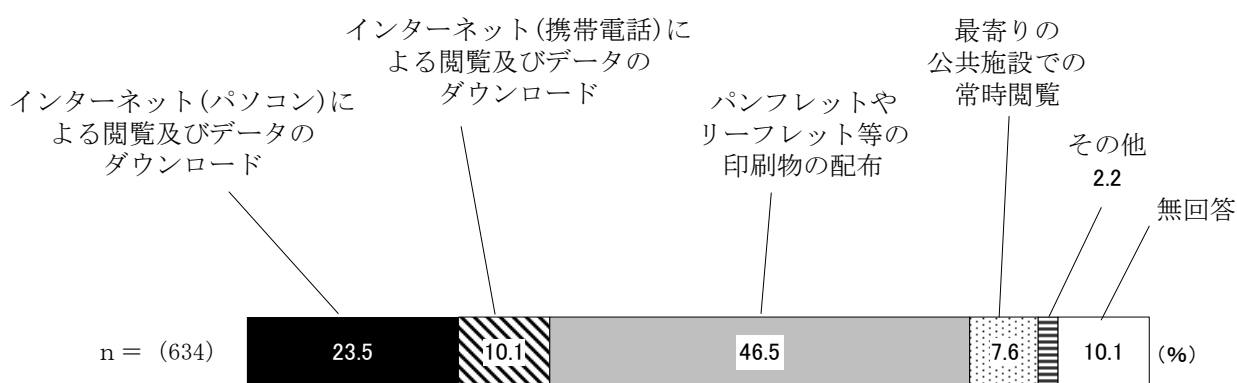
1-5 ハザードマップの情報入手手段

◎「パンフレットやリーフレット等の印刷物の配布」が46.5%

問3-1 (問3で「1 津波」「2 土砂くずれ・がけくずれ」「3 液状化現象」のいずれかに回答した方にうかがいます。)

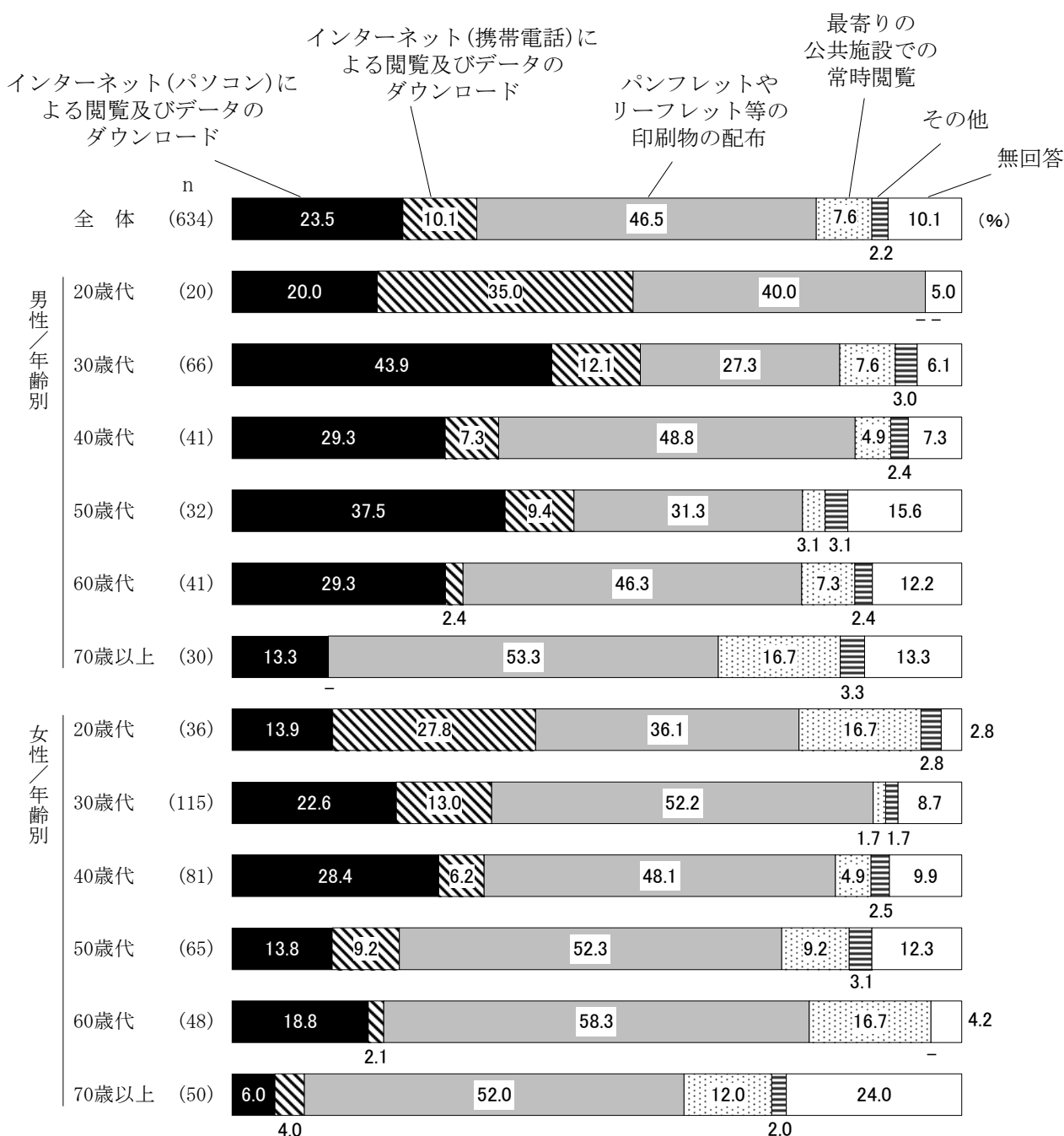
川崎市ではこれらの災害に備えて、ハザードマップ(被害予測図)の整備を進めていますが、ハザードマップの情報を入手するとしたら、どのような手段で最も取得したいと思いますか。(〇は1つだけ)

図表1-9 ハザードマップの情報入手手段



ハザードマップの情報入手手段は、「パンフレットやリーフレット等の印刷物の配布」(46.5%)が最も多くなっている。次いで、「インターネット(パソコン)による閲覧及びデータのダウンロード」(23.5%)、「インターネット(携帯電話)による閲覧及びデータのダウンロード」(10.1%)、「最寄りの公共施設での常時閲覧」(7.6%)の順となっている。(図表1-9)

図表1-10 ハザードマップの情報入手手段(性/年齢別)



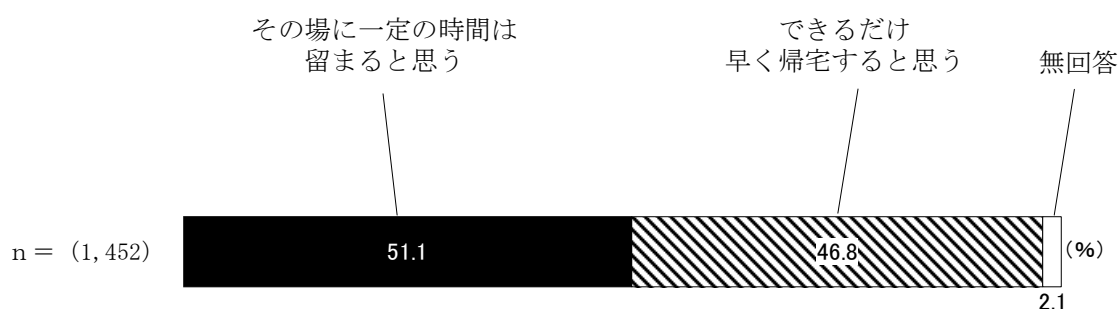
性/年齢別では、「パンフレットやリーフレット等の印刷物の配布」は、男性では70歳以上(53.3%)が最も多く、30歳代(27.3%)が最も少なくなっている。女性では、60歳代(58.3%)が最も多く、20歳代(36.1%)が最も少なくなっている。「インターネット(パソコン)による閲覧及びデータのダウンロード」は、男性では30歳代(43.9%)が、女性では40歳代(28.4%)が最も多くなっている。「インターネット(携帯電話)による閲覧及びデータのダウンロード」は、男女ともに20歳代(男性:35.0%、女性:27.8%)が最も多くなっている。(図表1-10)

1-6 勤務先や外出先で大地震にあった場合、すぐに帰宅するか

◎「その場に一定の時間は留まると思う」が51.1%

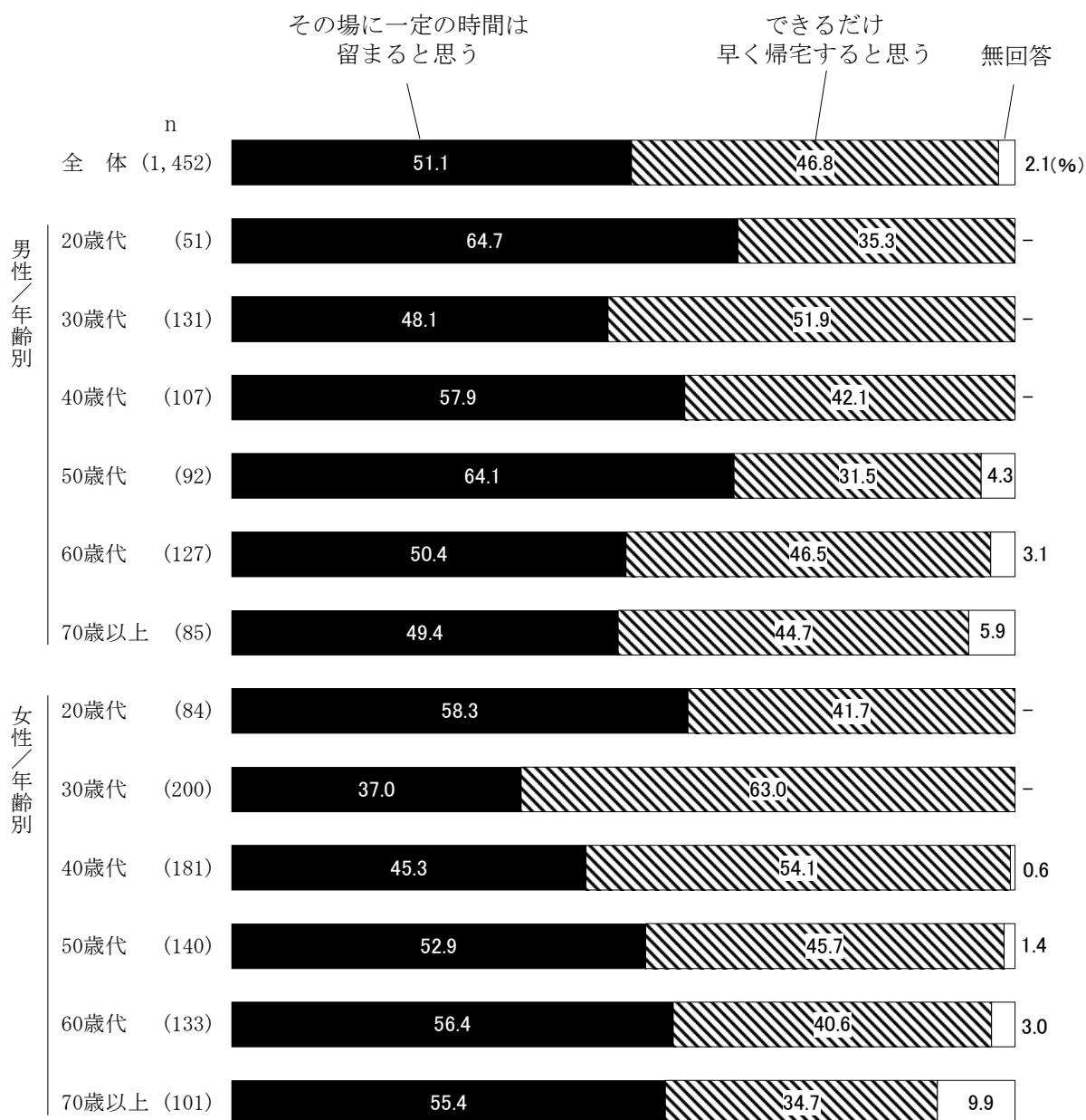
問4 あなたが勤務先（通学先）や外出先（買物等）で大地震にあった場合、どうだと思いますか。
（○は1つだけ）

図表1-11 勤務先や外出先で大地震にあった場合、すぐに帰宅するか



勤務先や外出先で大地震にあった場合、すぐに帰宅するかについては、「その場に一定の時間は留まると思う」は51.1%、「できるだけ早く帰宅すると思う」は46.8%となっている。（図表1-11）

図表1-12 勤務先や外出先で大地震にあった場合、すぐに帰宅するか(性/年齢別)



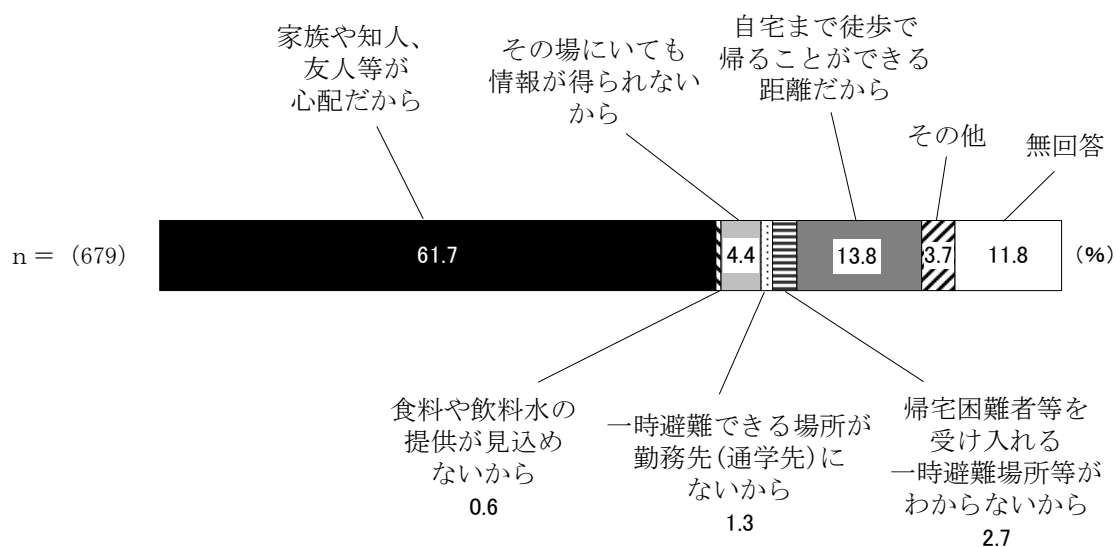
性/年齢別では、「できるだけ早く帰宅すると思う」が男性30歳代(51.9%)、女性30歳代(63.0%)、女性40歳代(54.1%)で5割以上と多くなっている。(図表1-12)

1-7 その場に^{とど}留まらないで帰宅する理由

◎「家族や知人、友人等が心配だから」が61.7%

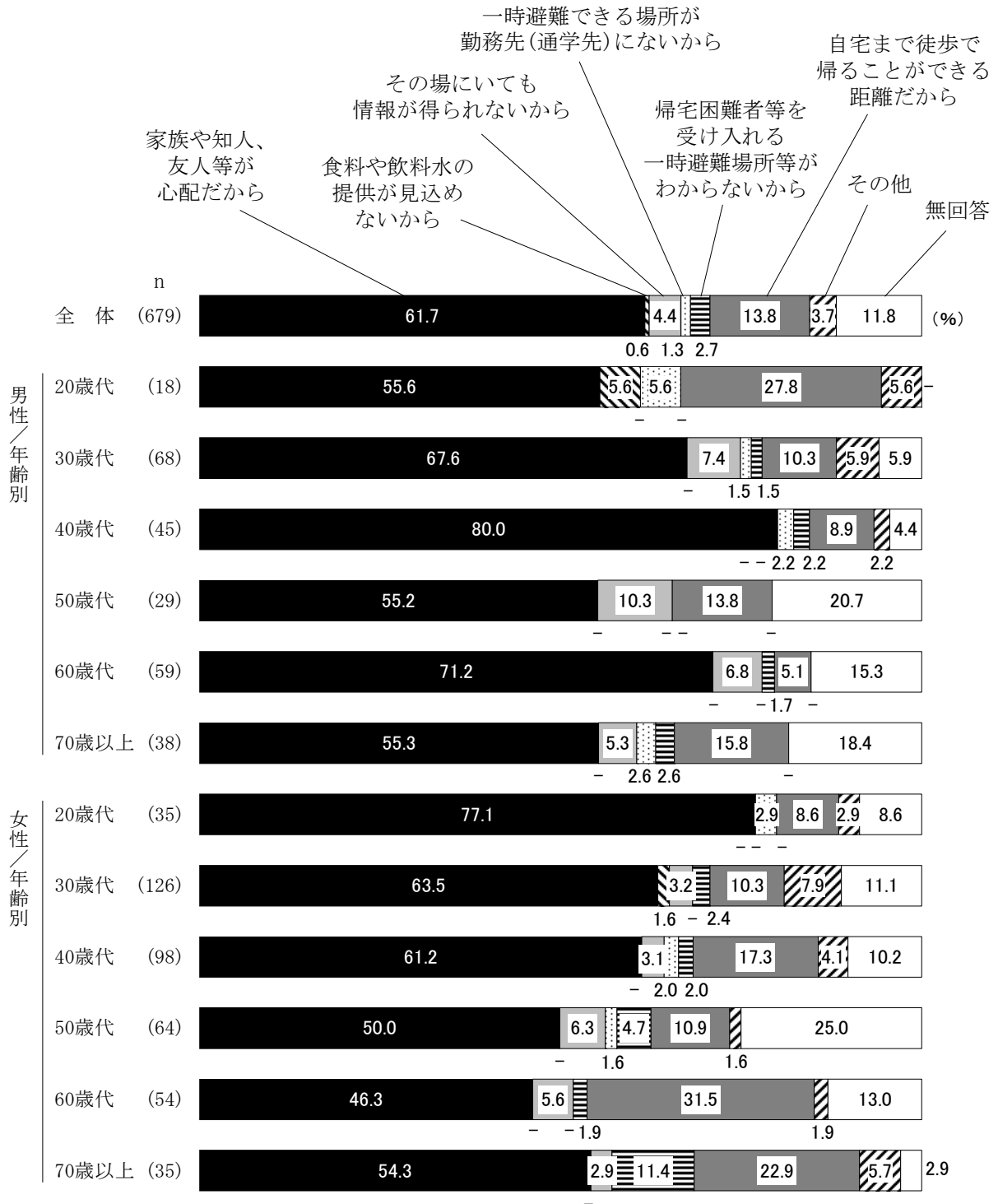
問4-1 (問4で「2 できるだけ早く帰宅すると思う」と回答した方におうかがいします。)
その場に留まらないで帰宅を選択する最大の理由をお答えください。(○は1つだけ)

図表1-13 その場に留まらないで帰宅する理由



その場に留まらないで帰宅する理由は、「家族や知人、友人等が心配だから」(61.7%)が最も多くなっている。次いで、「自宅まで徒歩で帰ることができる距離だから」(13.8%)、「その場にいても情報が得られないから」(4.4%)の順となっている。(図表1-13)

図表1-14 その場に留まらないで帰宅する理由（性／年齢別）



性／年齢別では、「家族や知人、友人等が心配だから」は、男性では40歳代（80.0%）が、女性では20歳代（77.1%）が最も多くなっている。「自宅まで徒歩で帰ることができる距離だから」は、男性では20歳代（27.8%）が、女性では60歳代（31.5%）が最も多くなっている。（図表1-14）

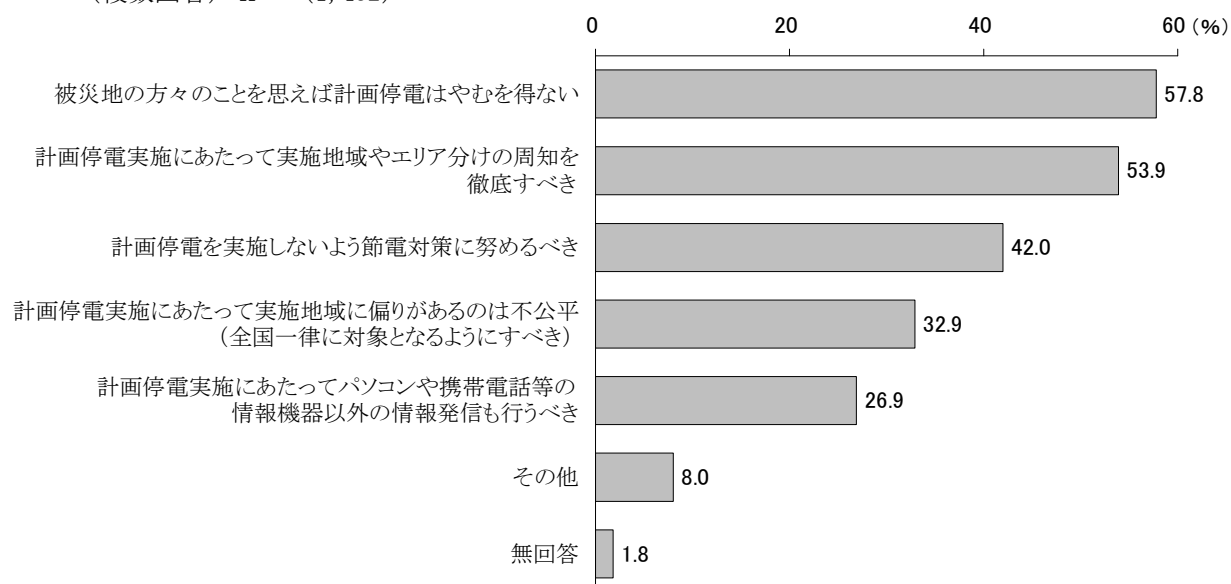
1-8 計画停電について感じたこと

◎「被災地の方々のことを思えば計画停電はやむを得ない」が57.8%

問5 東日本大震災の影響によって計画停電が実施されましたが、川崎市にも多くのご意見等が次の寄せられました。計画停電について感じたことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

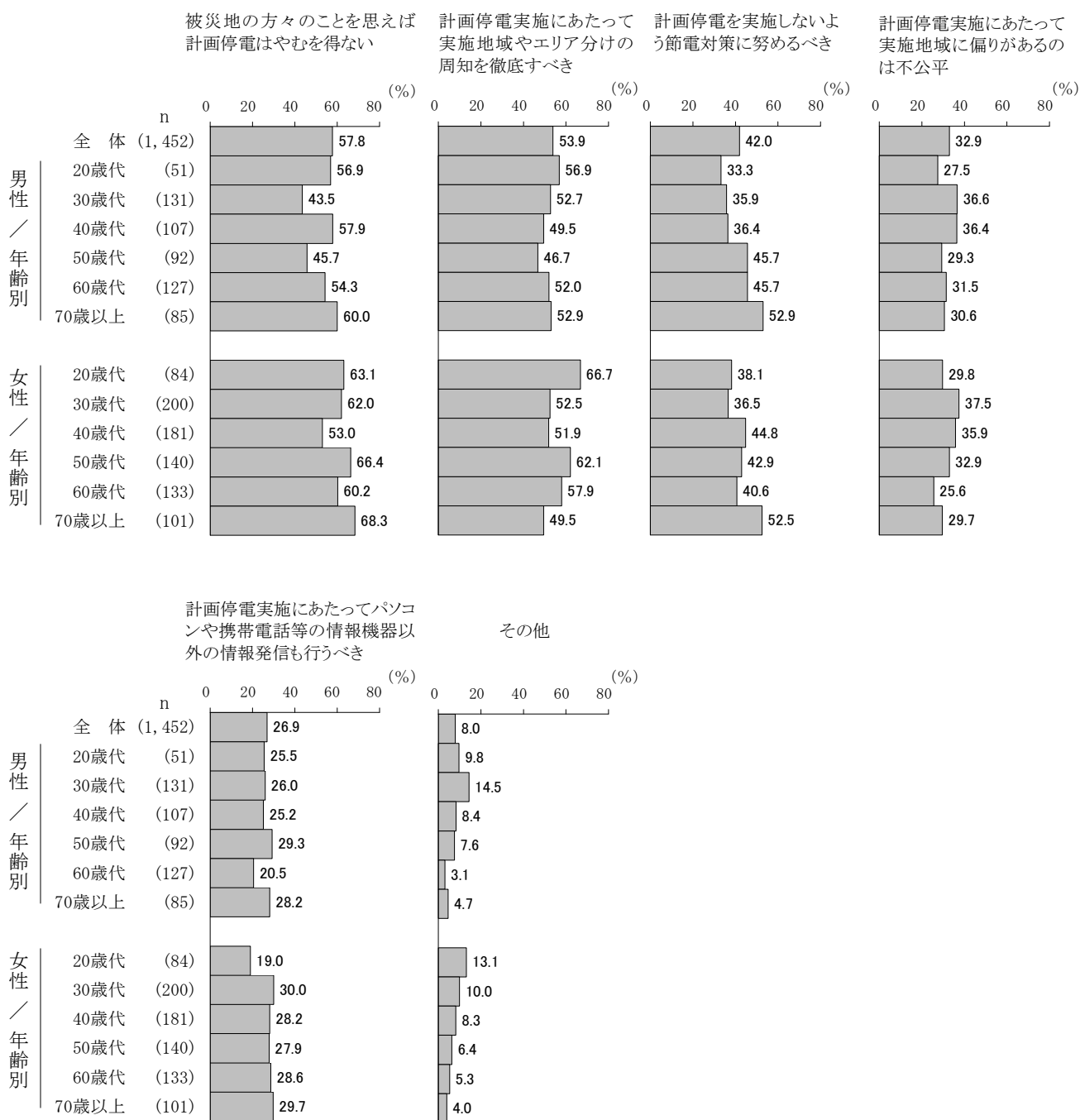
図表1-15 計画停電について感じたこと

(複数回答) n = (1,452)



計画停電について感じたことは、「被災地の方々のことを思えば計画停電はやむを得ない」(57.8%)、「計画停電実施にあたって実施地域やエリア分けの周知を徹底すべき」(53.9%)がそれぞれ5割台で多くなっている。次いで、「計画停電を実施しないよう節電対策に努めるべき」(42.0%)、「計画停電実施にあたって実施地域に偏りがあるのは不公平(全国一律に対象となるようにすべき)」(32.9%)の順となっている。(図表1-15)

図表1-16 計画停電について感じたこと(性/年齢別)



性/年齢別では、「被災地の方々のことを思えば計画停電はやむを得ない」は、男性では70歳以上(60.0%)が最も多く、30歳代(43.5%)、50歳代(45.7%)が少なくなっている。「計画停電実施にあたって実施地域やエリア分けの周知を徹底すべき」は、男女ともに20歳代(男性:56.9%、女性:66.7%)が最も多くなっている。「計画停電を実施しないよう節電対策に努めるべき」は、男女ともに70歳以上(男性:52.9%、女性:52.5%)が最も多くなっている。(図表1-16)

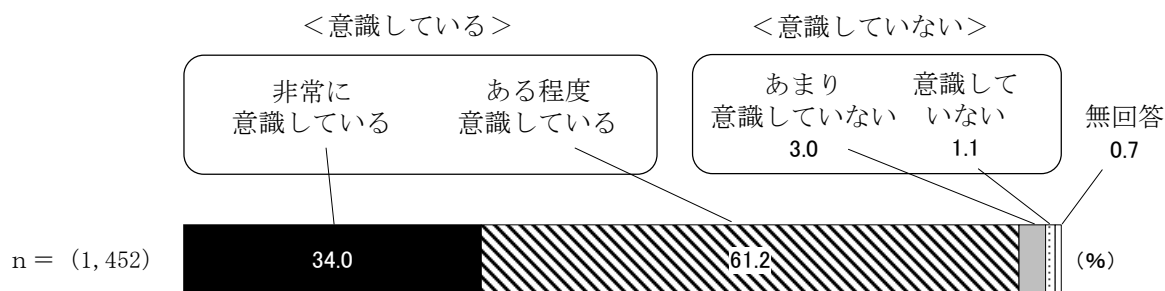
2 節電について

2-1 日常生活における節電についての意識状況

◎<意識している>が95.2%

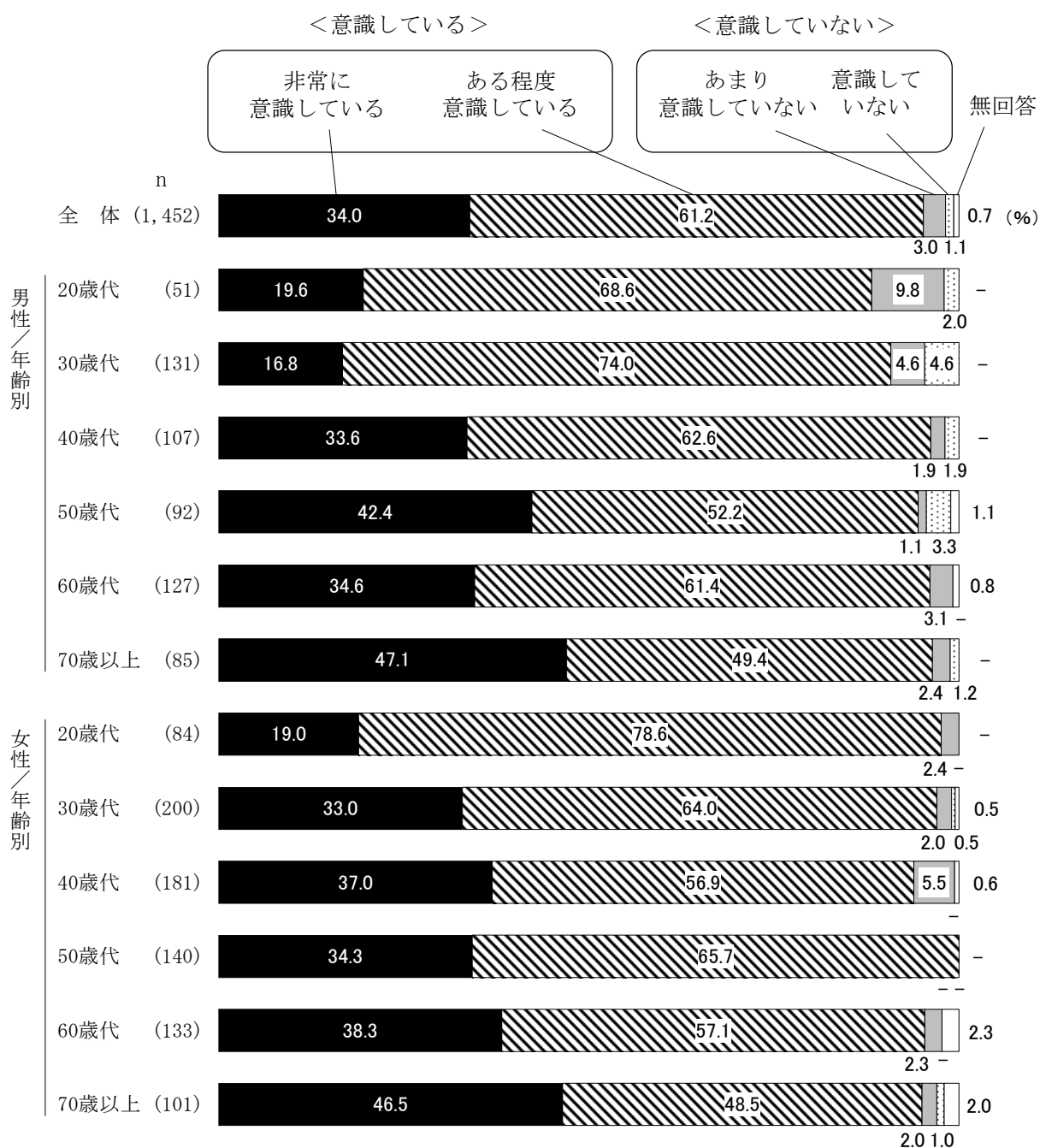
問6 日常生活の中で、節電について意識していますか。(○は1つだけ)

図表2-1 日常生活における節電についての意識状況



日常生活における節電についての意識状況は、「ある程度意識している」(61.2%)が最も多く、次いで「非常に意識している」(34.0%)となっている。「非常に意識している」と「ある程度意識している」をあわせた<意識している>は、95.2%となっている。一方、「あまり意識していない」(3.0%)と「意識していない」(1.1%)をあわせた<意識していない>は、4.1%となっている。(図表2-1)

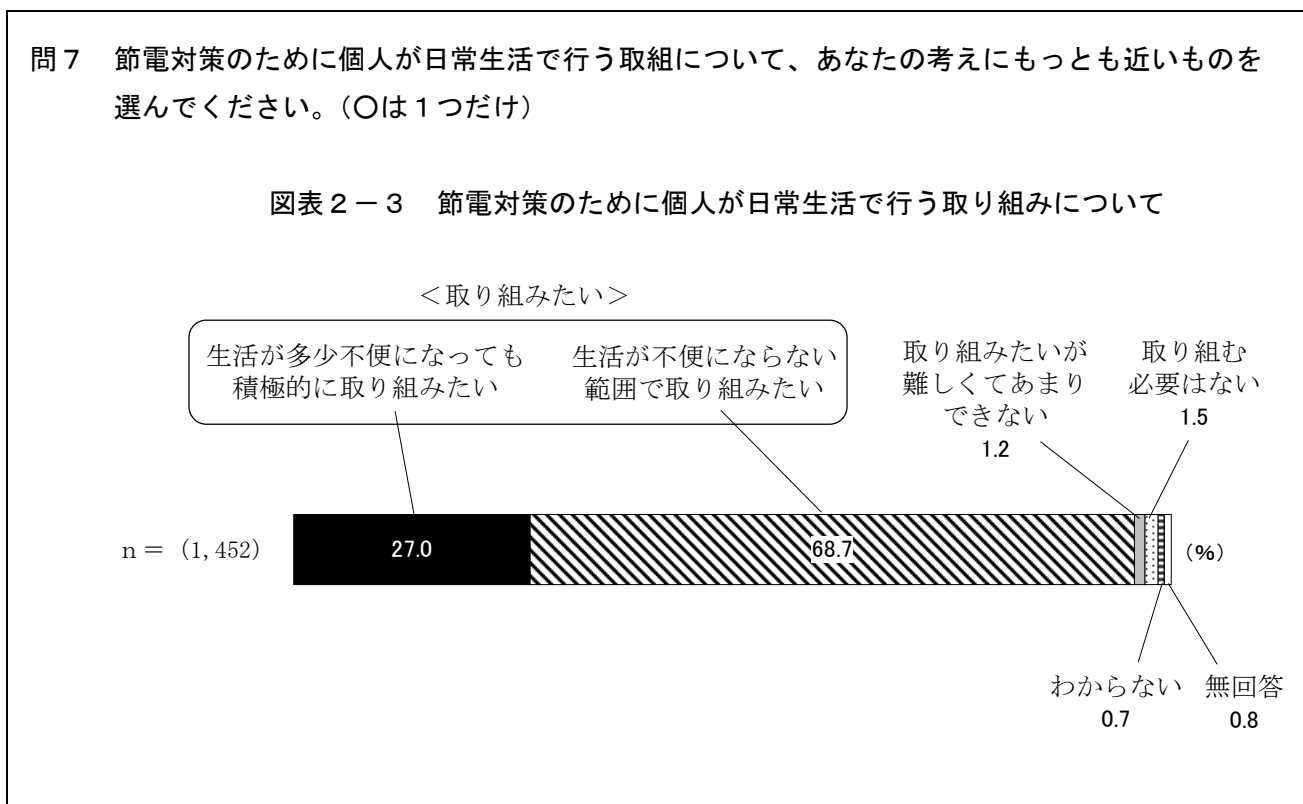
図表2-2 日常生活における節電についての意識状況 (性/年齢別)



性/年齢別では、「非常に意識している」は、男性では70歳以上(47.1%)が最も多く、20歳代(19.6%)、30歳代(16.8%)が少なくなっている。女性では70歳以上(46.5%)が最も多く、20歳代(19.0%)が最も少なくなっている。なお、女性50歳代では「非常に意識している」(34.3%)と「ある程度意識している」(65.7%)をあわせた<意識している>が100.0%となっている。一方、男性20歳代では、「あまり意識していない」(9.8%)と「意識していない」(2.0%)をあわせた<意識していない>が11.8%となっており、最も多くなっている。(図表2-2)

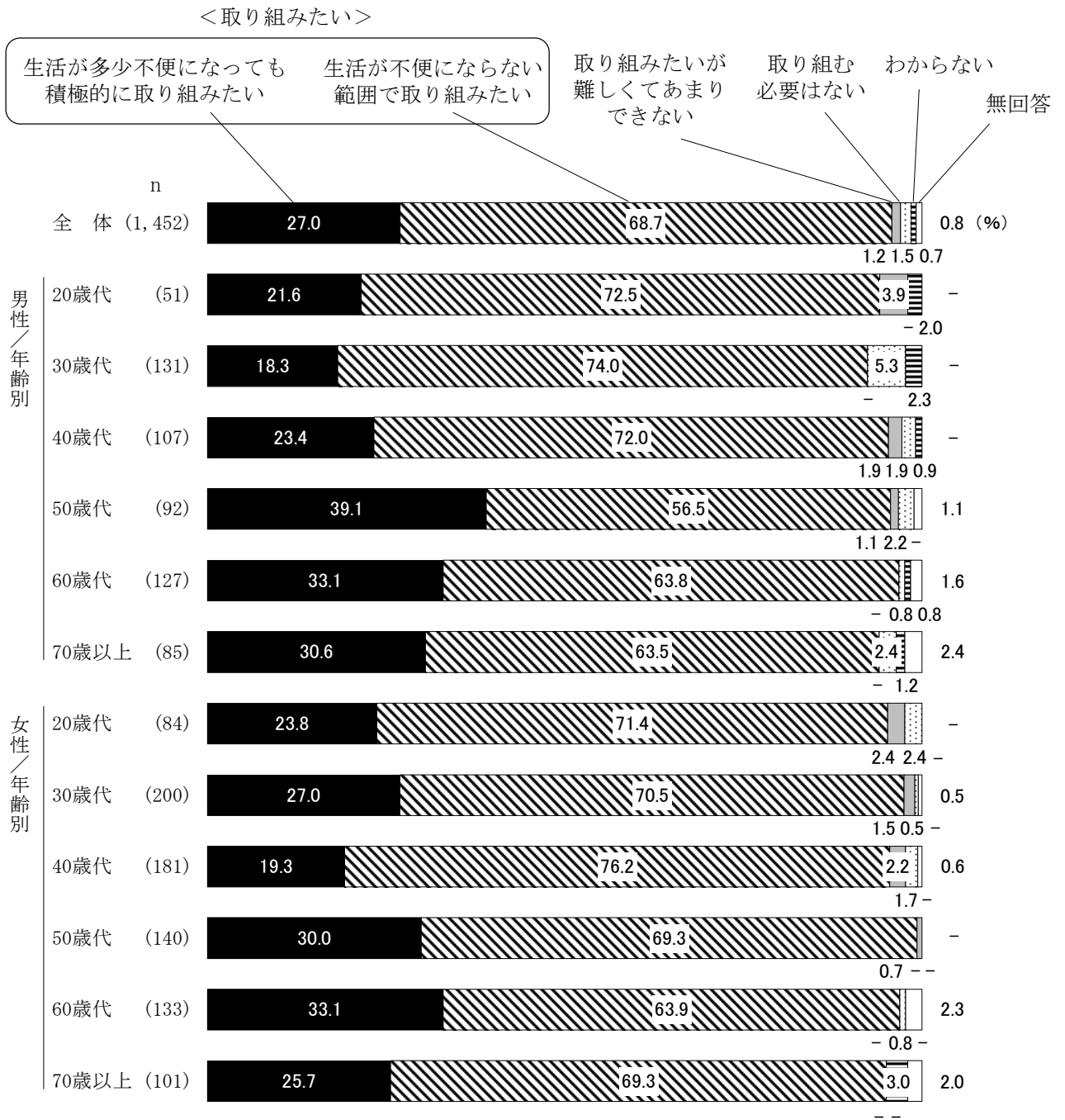
2-2 節電対策のために個人が日常生活で行う取り組みについて

◎「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が68.7%



節電対策のために個人が日常生活で行う取り組みについては、「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」(68.7%)が最も多く、次いで「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」(27.0%)となっている。「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」と「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」をあわせた<取り組みたい>は、95.7%となっている。(図表2-3)

図表2-4 節電対策のために個人が日常生活で行う取り組みについて (性/年齢別)



性/年齢別では、「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」は、男性では50歳代(39.1%)が最も多く、30歳代(18.3%)が最も少なくなっている。女性では60歳代(33.1%)が最も多く、40歳代(19.3%)が最も少なくなっている。(図表2-4)

2-3 節電対策への取り組みが十分にできない理由

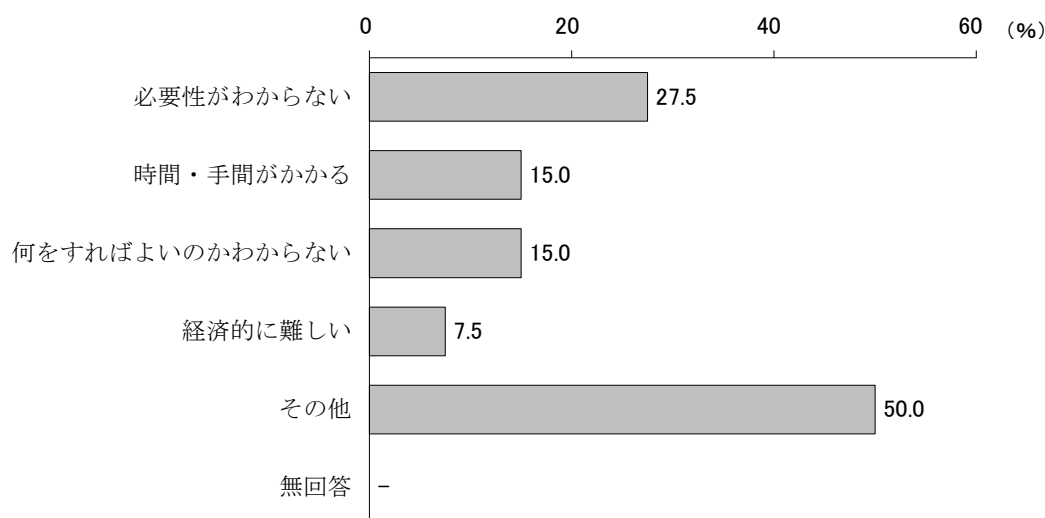
◎「必要性がわからない」が27.5%

問7-1 (問7で3、4のいずれかに回答した方におうかがいします。)

取り組みが十分にできない(しない)理由は何でしょうか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-5 節電対策への取り組みが十分にできない理由

(複数回答) n = (40)



節電対策への取り組みが十分にできない理由は、「必要性がわからない」(27.5%)が最も多くなっている。次いで、「時間・手間がかかる」「何をすればよいかわからない」がそれぞれ15.0%となっている。「その他」の内容としては、“乳幼児がいるから”“電力会社が電力供給の最大限の努力をしていない”“もともと電力をあまり使用しない”などの回答があった。(図表2-5)

性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表2-6)

図表2-6 節電対策への取り組みが十分にできない理由(性/年齢別)

性/年齢 (n)		必要性がわからない	時間・手間がかかる	何をすればよいかわからない	経済的に難しい	その他	無回答
全体 (40)		27.5	15.0	15.0	7.5	50.0	-
男性	20歳代 (2)	-	-	-	-	100.0	-
	30歳代 (7)	42.9	14.3	-	-	42.9	-
	40歳代 (4)	-	25.0	50.0	25.0	50.0	-
	50歳代 (3)	66.7	-	-	-	33.3	-
	60歳代 (1)	100.0	-	-	-	-	-
	70歳以上 (2)	100.0	-	-	-	-	-
女性	20歳代 (4)	25.0	-	25.0	-	50.0	-
	30歳代 (4)	-	50.0	50.0	-	50.0	-
	40歳代 (7)	14.3	28.6	14.3	-	57.1	-
	50歳代 (1)	-	-	-	-	100.0	-
	60歳代 (1)	100.0	-	-	-	100.0	-
	70歳以上 (-)	-	-	-	-	-	-

2-4 個人や家庭での節電対策の取り組みについて

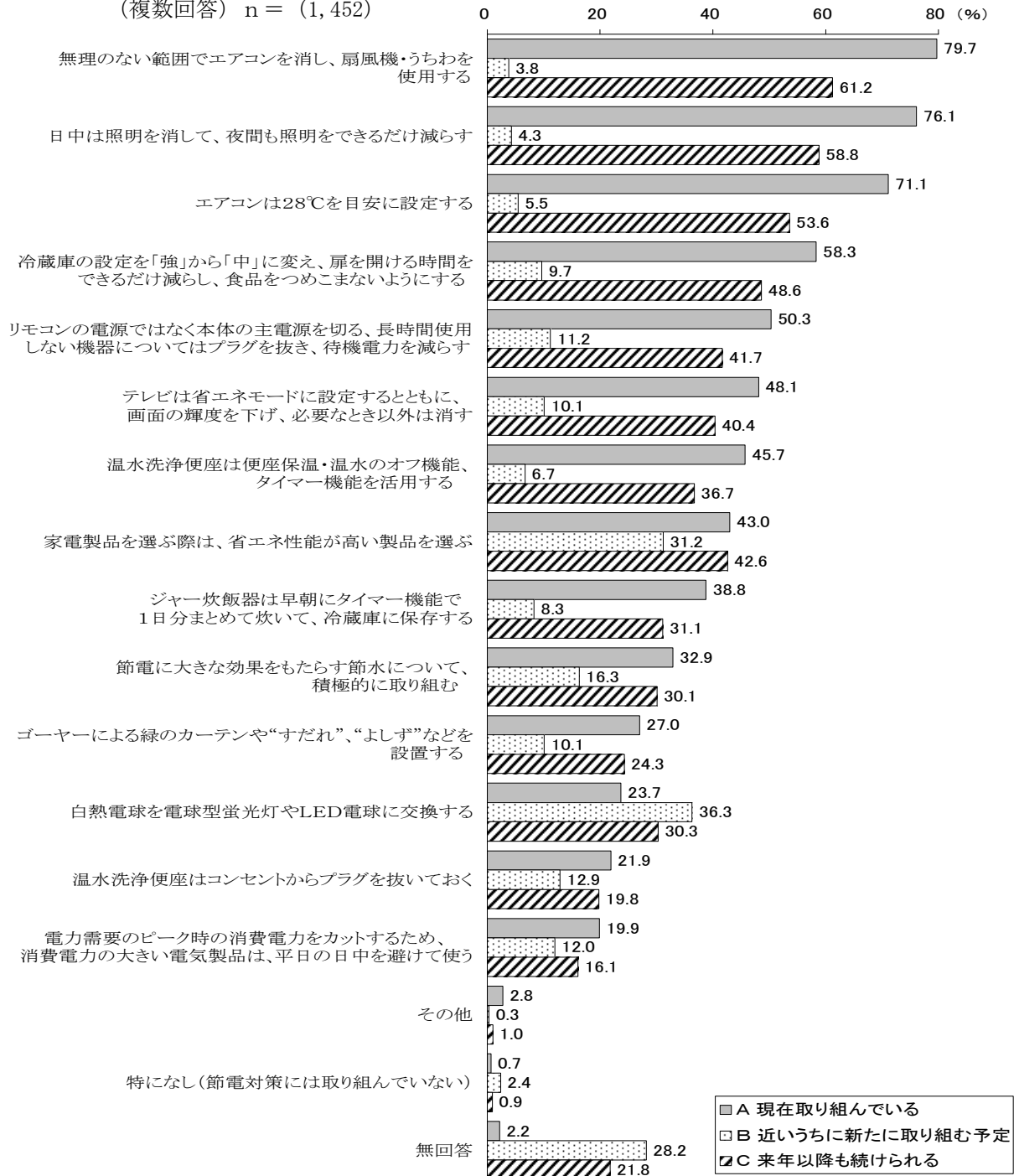
◎「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機・うちわを使用する」が79.7%

問8 節電対策は、地球温暖化対策としても有効な取り組みになっています。

- A 現在、個人や家庭でどのような節電対策の取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)
- B 近いうちに新たに取組もうと思っている節電対策はありますか。(Aで選択した項目を除き、すべてに○)
- C A・Bで選択した中で、今夏だけでなく来年以降もずっと続けることができる取り組みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表2-7 個人や家庭での節電対策の取り組みについて

(複数回答) n = (1,452)



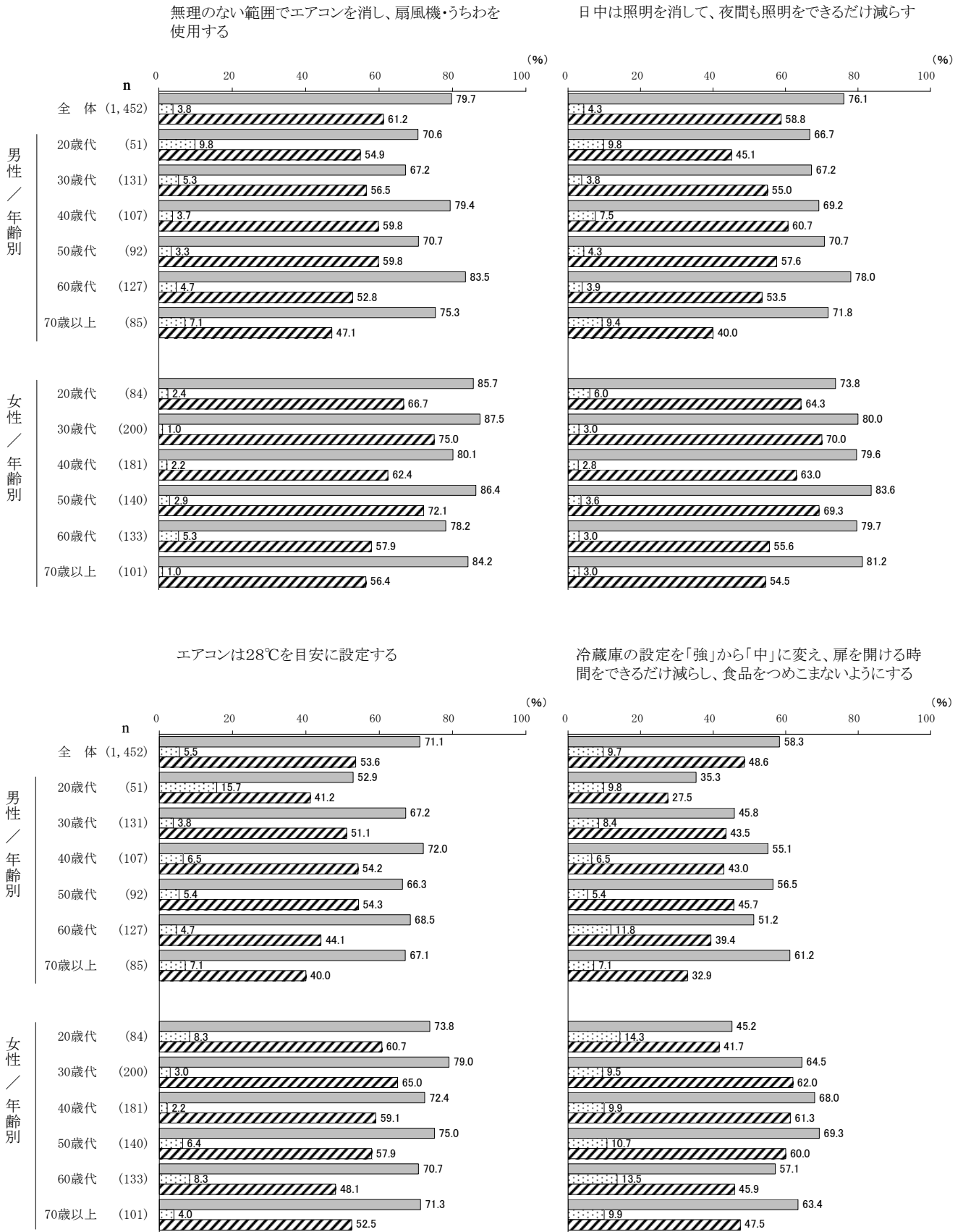
個人や家庭での節電対策について現在行っている取り組みは、「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機・うちわを使用する」(79.7%)が最も多くなっている。次いで、「日中は照明を消して、夜間も照明をできるだけ減らす」(76.1%)、「エアコンは28℃を目安に設定する」(71.1%)の順となっており、以上の上位3項目が7割台となっている。

近いうちに新たに取り組む予定については、「白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する」(36.3%)、「家電製品を選ぶ際は、省エネ性能が高い製品を選ぶ」(31.2%)が多くなっており、それぞれ3割台となっている。次いで、「節電に大きな効果をもたらす節水について、積極的に取り組む」(16.3%)、「温水洗浄便座はコンセントからプラグを抜いておく」(12.9%)の順となっている。

来年以降も続けられる取り組みについては、「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機・うちわを使用する」(61.2%)が最も多くなっている。次いで、「日中は照明を消して、夜間も照明をできるだけ減らす」(58.8%)、「エアコンは28℃を目安に設定する」(53.6%)の順となっている。

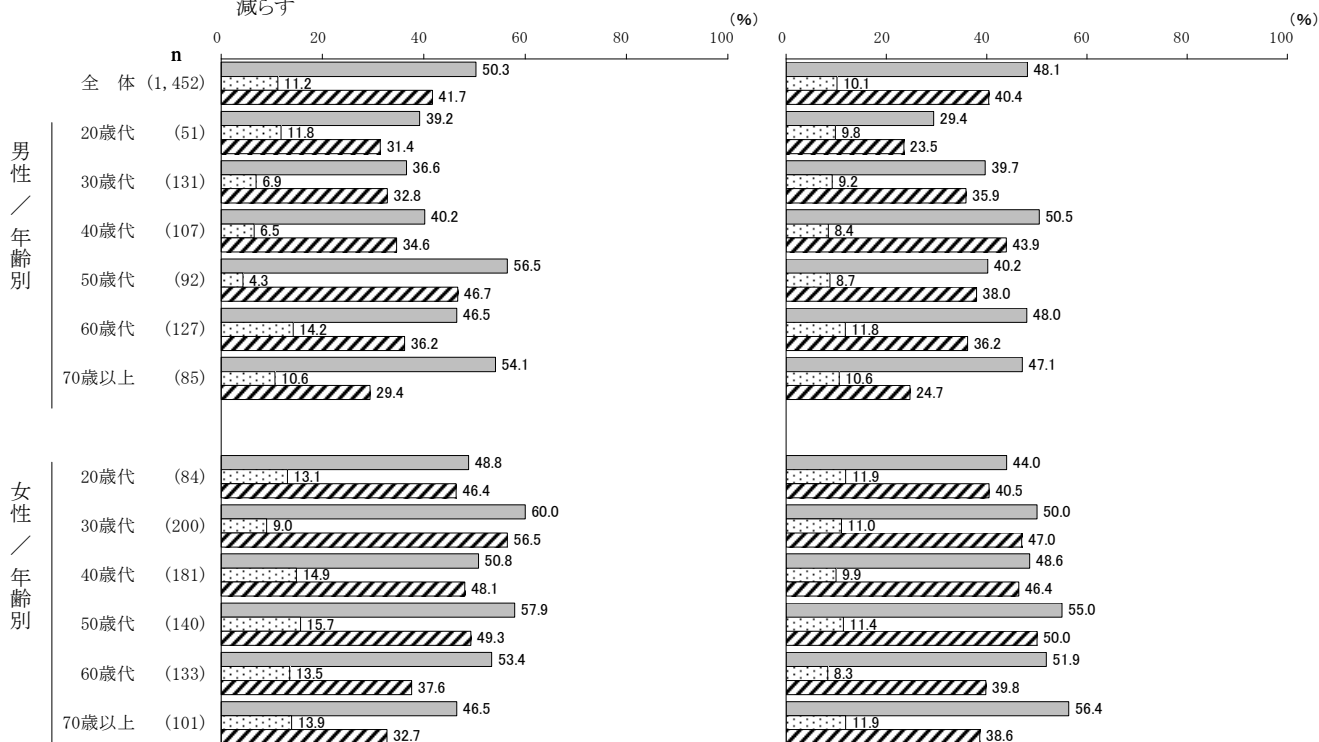
(図表2-7)

図表2-8 個人や家庭での節電対策の取り組みについて(性/年齢別)



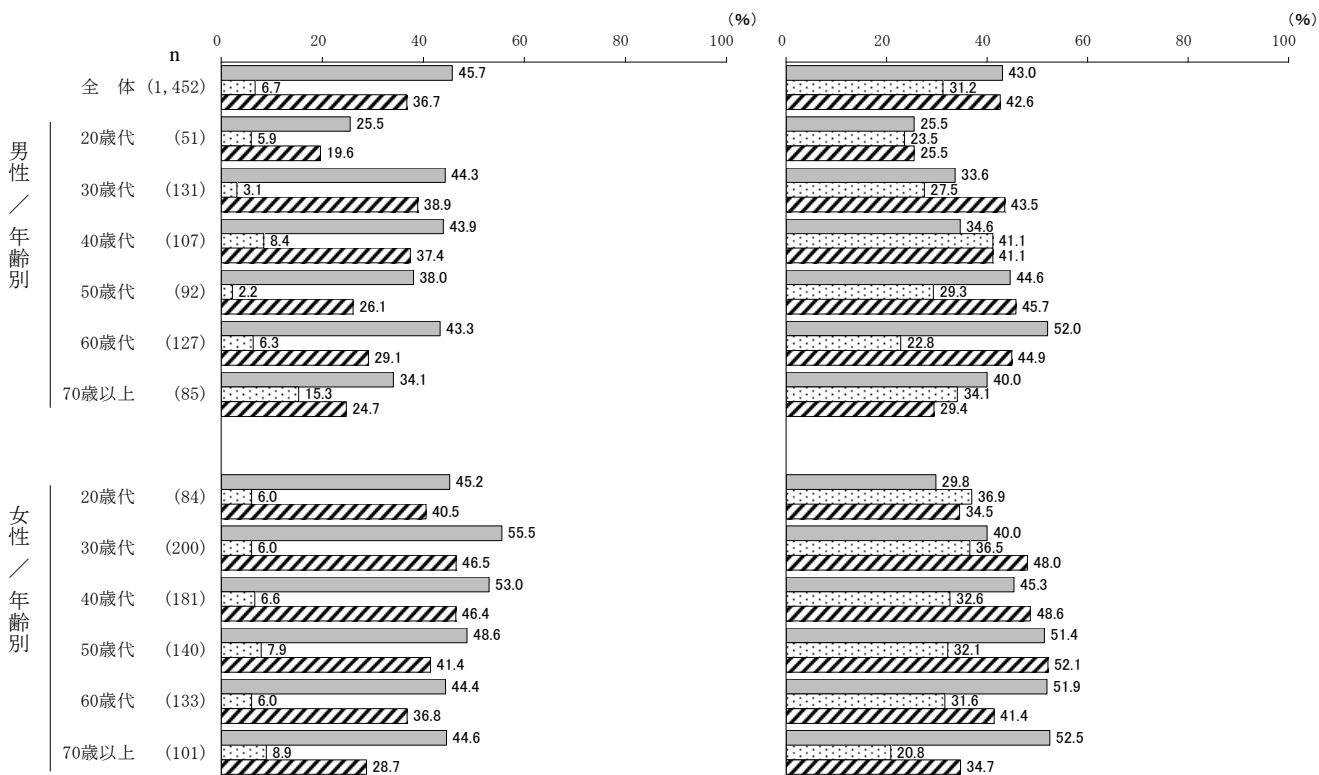
リモコンの電源ではなく本体の主電源を切る、長時間使用しない機器についてはプラグを抜き、待機電力を減らす

テレビは省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げ、必要とき以外は消す



温水洗浄便座は便座保温・温水のオフ機能、タイマー機能を活用する

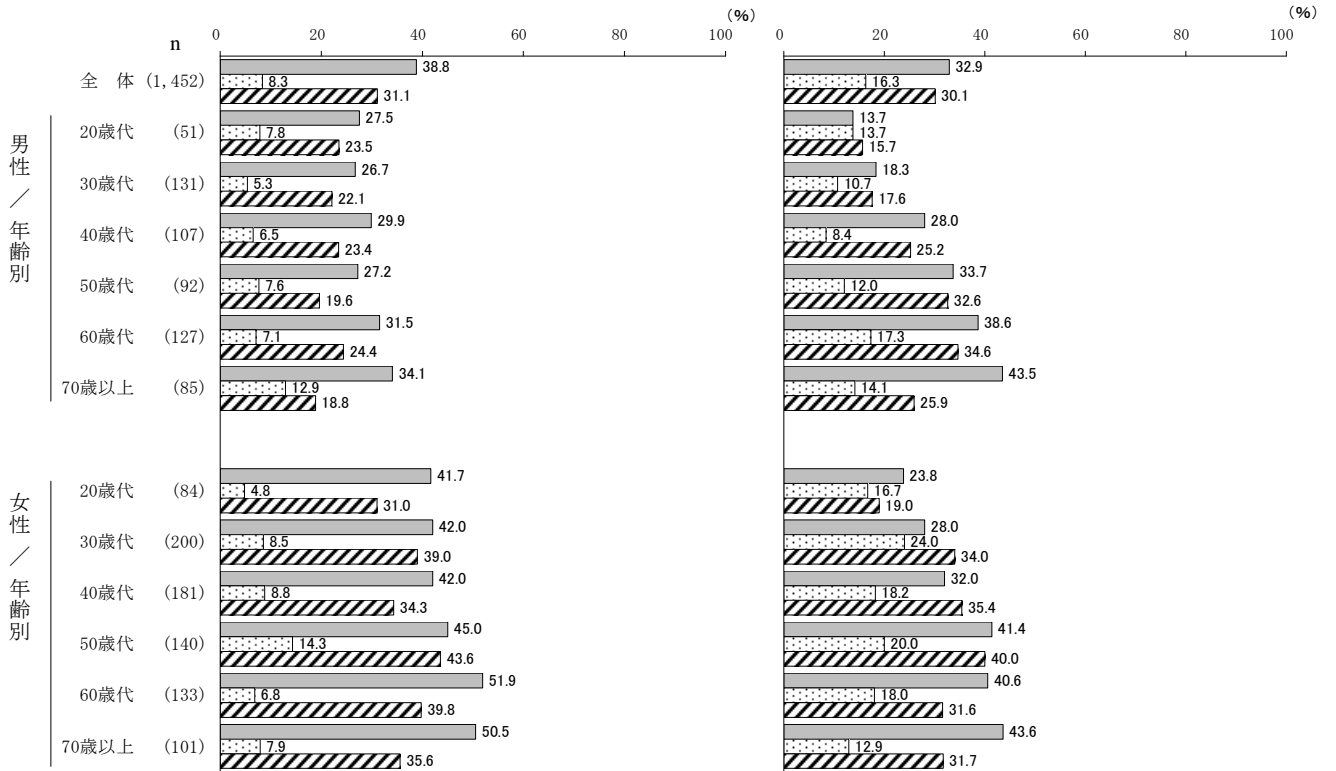
家電製品を選ぶ際は、省エネ性能が高い製品を選ぶ



(第1回アンケート)

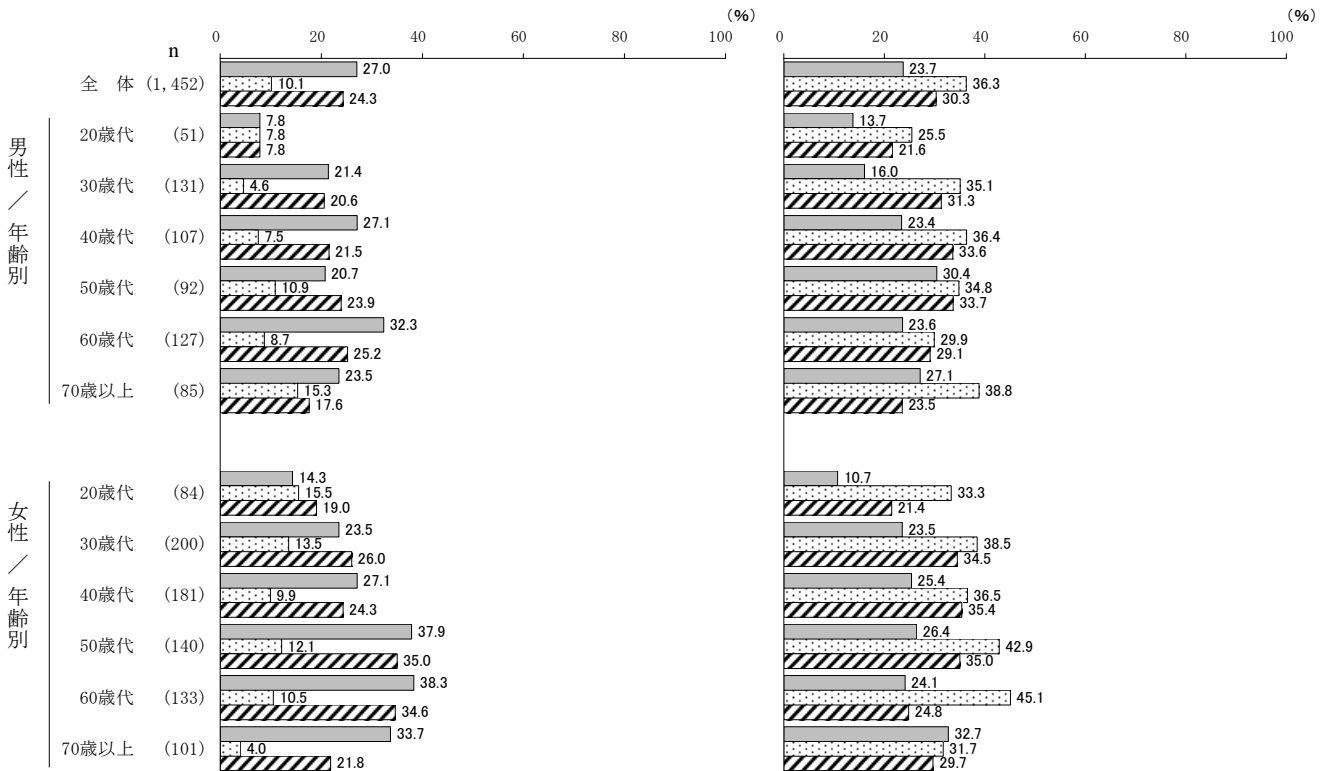
ジャー炊飯器は早朝にタイマー機能で1日分
まとめて炊いて、冷蔵庫に保存する

節電に大きな効果をもたらす節水について、積極的に
取り組む



ゴーヤーによる緑のカーテンや“すだれ”、“よしず”な
どを設置する

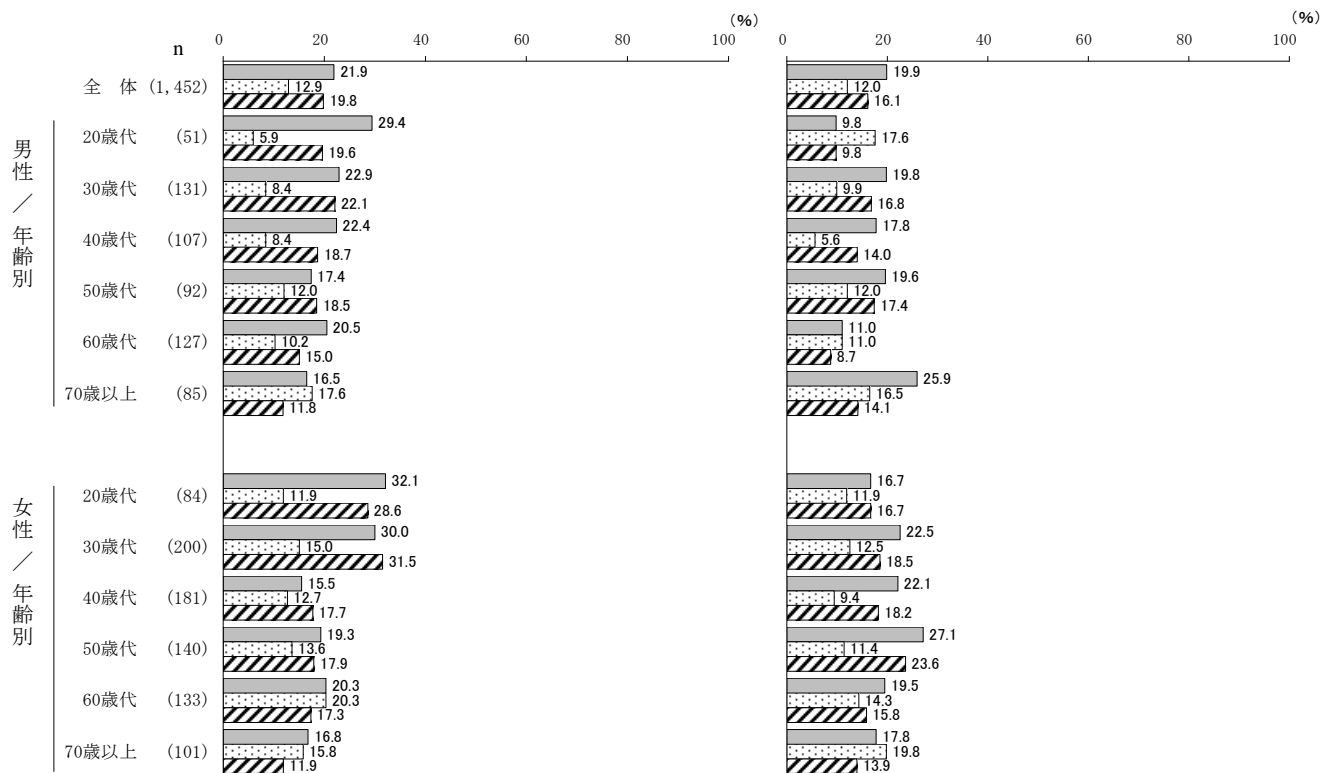
白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する



(第1回アンケート)

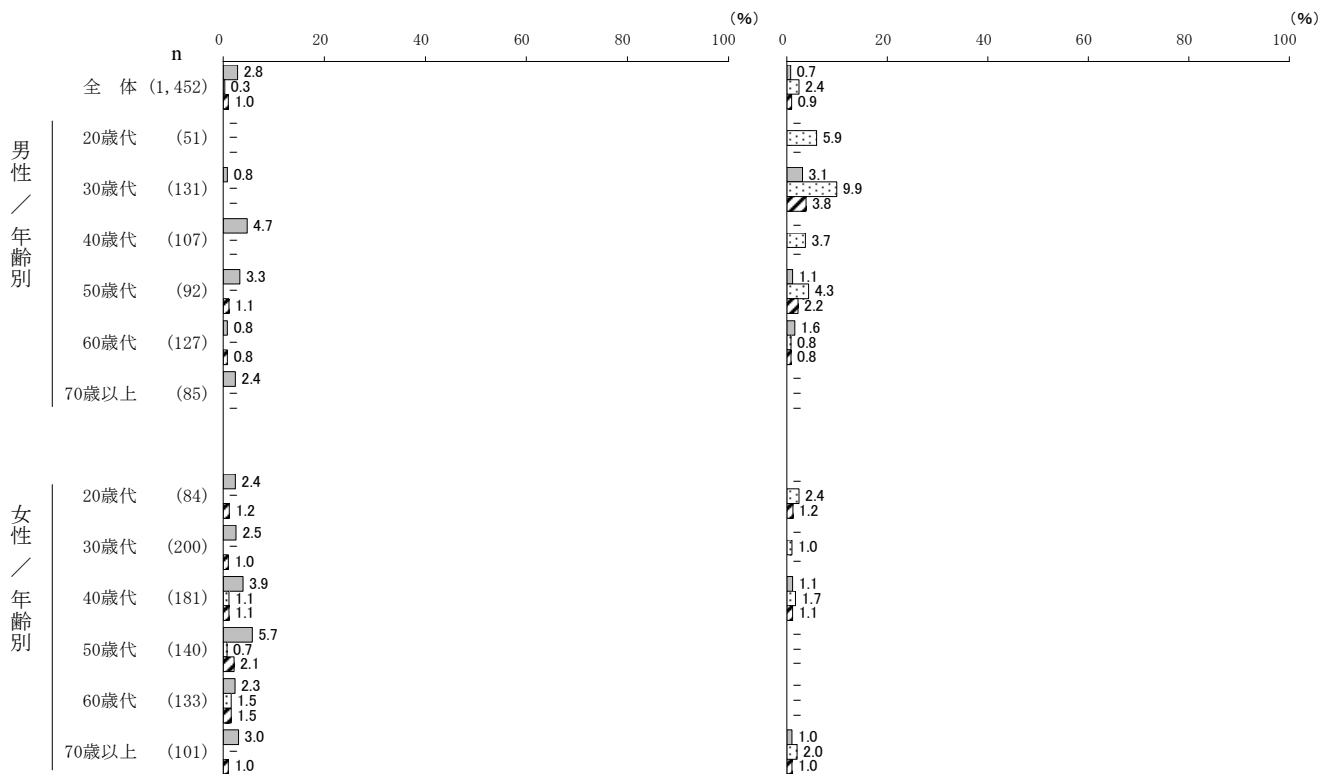
温水洗浄便座はコンセントからプラグを抜いておく

電力需要のピーク時の消費電力をカットするため、消費電力の大きい電気製品は、平日の日中を避けて使う



その他

特になし(節電対策には取り組んでいない)



(第1回アンケート)

性／年齢別では、個人や家庭での節電対策について現在行っている取り組みは、「エアコンは28℃を目安に設定する」は、男性30歳代以上と女性の全年代で6割台後半から7割台後半となっているが、男性20歳代(52.9%)は5割台前半と最も少なくなっている。

近いうちに新たにに取り組む予定については、「白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する」は、女性50歳代(42.9%)、女性60歳代(45.1%)がそれぞれ4割台で多くなっている。

「家電製品を選ぶ際は、省エネ性能が高い製品を選ぶ」は、男性40歳代(41.1%)が最も多くなっている。

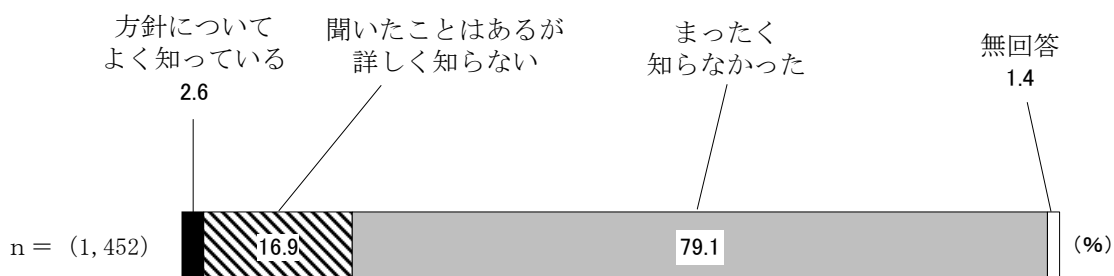
来年以降も続けられる取り組みについては、「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機・うちわを使用する」は、男性では40歳代、50歳代がそれぞれ59.8%で最も多く、70歳以上(47.1%)が最も少なくなっている。女性では、30歳代(75.0%)が最も多く、70歳以上(56.4%)が最も少なくなっている。来年以降も続けられる取り組みの上位3項目(「無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機・うちわを使用する」「日中は照明を消して、夜間も照明をできるだけ減らす」「エアコンは28℃を目安に設定する」)については、60歳代・70歳以上の男女、および男性20歳代でおおむね少なくなる傾向となっている。(図表2-8)

2-5 「川崎市電力不足対策基本方針」～KAWASAKI 電力使用削減大作戦～の認知度

◎「まったく知らなかった」が79.1%

問9 川崎市では、節電対策を推進するため、「川崎市電力不足対策基本方針」～KAWASAKI 電力使用削減大作戦～※を平成23年5月17日に策定しました。あなたはこの方針について知っていましたか。(〇は1つだけ)

図表2-9 「川崎市電力不足対策基本方針」～KAWASAKI 電力使用削減大作戦～の認知度

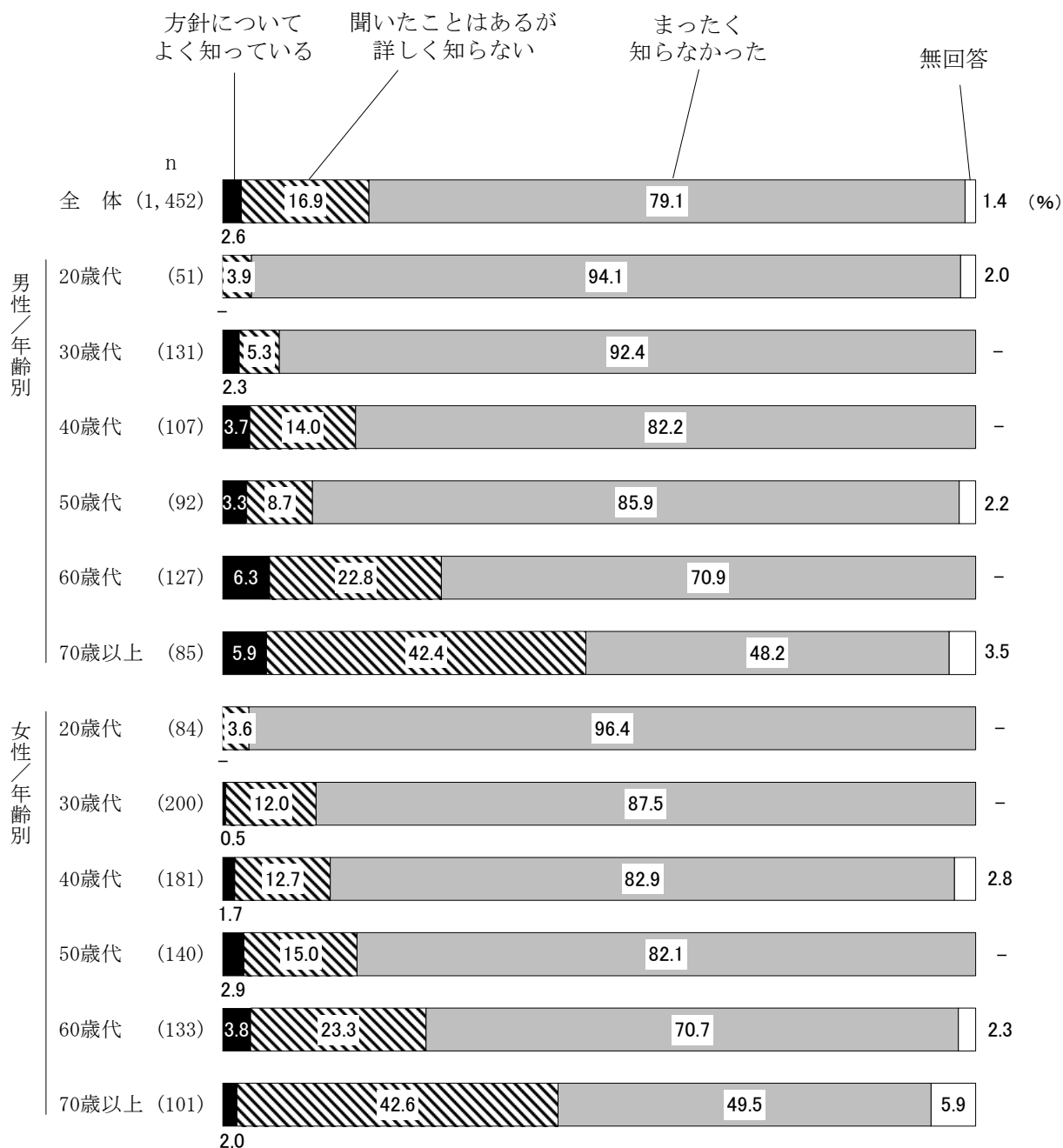


※「川崎市電力不足対策基本方針」～KAWASAKI 電力使用削減大作戦～は、首都圏における電力不足に対応し、安全・安心な市民生活や安定的な経済活動を確保するとともに行政サービスを安定的に提供しながら、計画停電の実施等を回避するため、「市民・事業者と行政が一体」となって、計画的に節電等の取り組みを実施することを目的として策定しました。

「川崎市電力不足対策基本方針」～KAWASAKI 電力使用削減大作戦～の認知度は、「まったく知らなかった」(79.1%)が約8割となっている。一方、「聞いたことはあるが詳しく知らない」は16.9%、「方針についてよく知っている」は2.6%となっている。(図表2-9)

(第1回アンケート)

図表2-10 「川崎市電力不足対策基本方針」～KAWASAKI電力使用削減大作戦～の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、「まったく知らなかった」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。70歳以上では男女ともに「まったく知らなかった」が4割台後半と最も少なくなっており、「聞いたことはあるが詳しく知らない」が男女ともに4割台前半と最も多くなっている。(図表2-10)

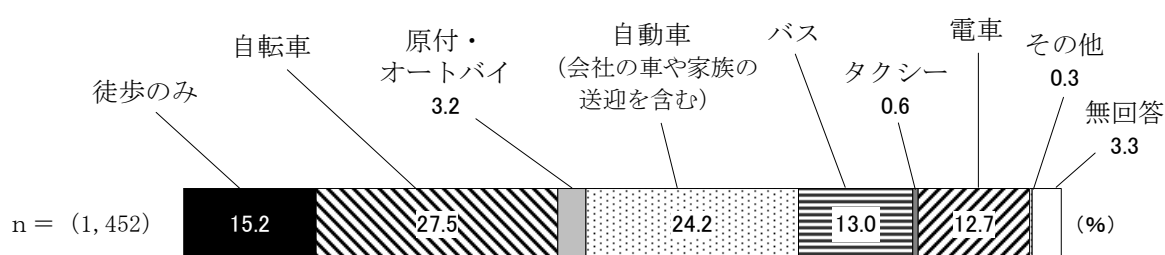
3 市役所・区役所等の駐車場の利用について

3-1 市役所・区役所等へ行く際の主な交通手段

◎「自転車」が27.5%、「自動車（会社の車や家族の送迎を含む）」は24.2%

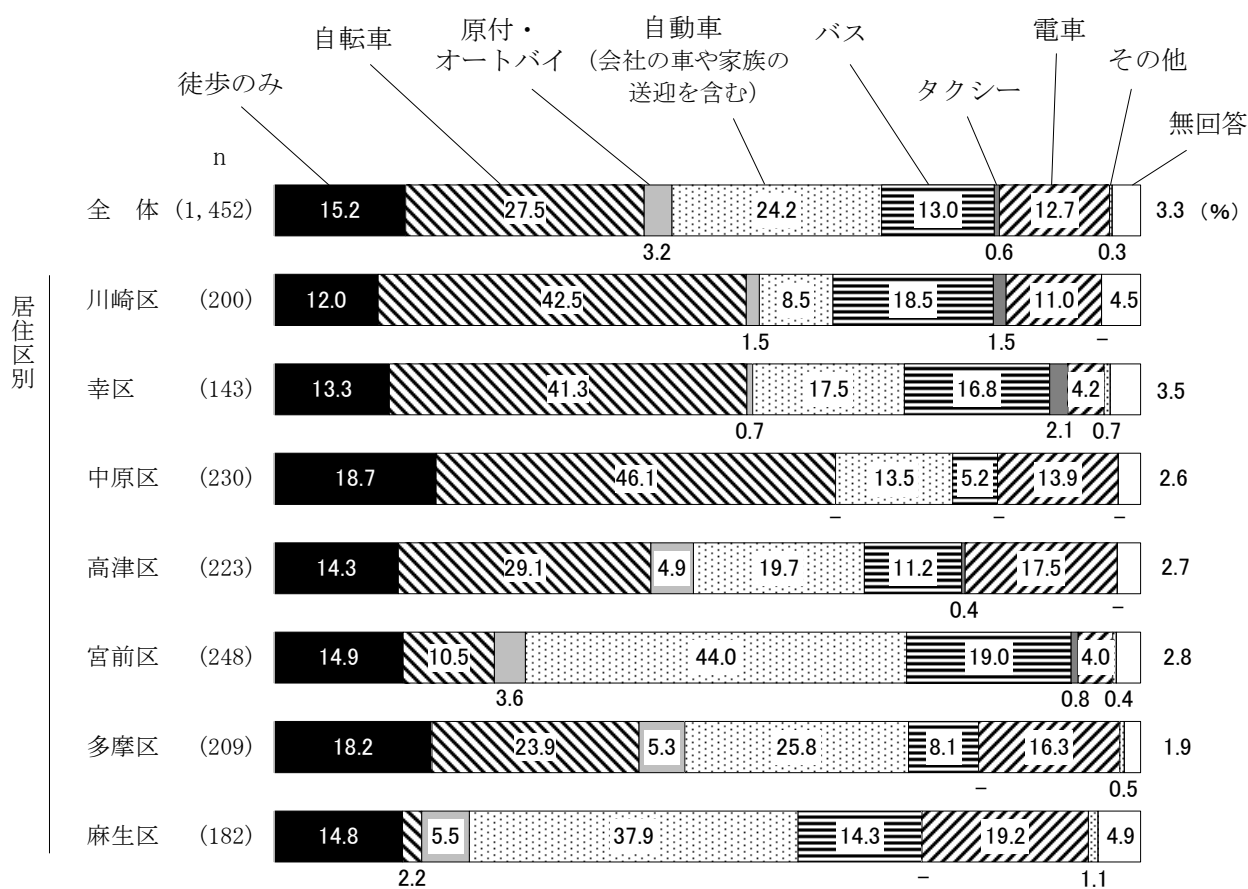
問10 市役所・区役所にお越しになる際の主な交通手段は何ですか。(○は1つだけ)

図表3-1 市役所・区役所等へ行く際の主な交通手段



市役所・区役所等へ行く際の主な交通手段は、「自転車」(27.5%)が最も多くなっている。次いで、「自動車(会社の車や家族の送迎を含む)」(24.2%)、「徒歩のみ」(15.2%)、「バス」(13.0%)、「電車」(12.7%)の順となっている。(図表3-1)

図表3-2 市役所・区役所等へ行く際の主な交通手段（居住区別）



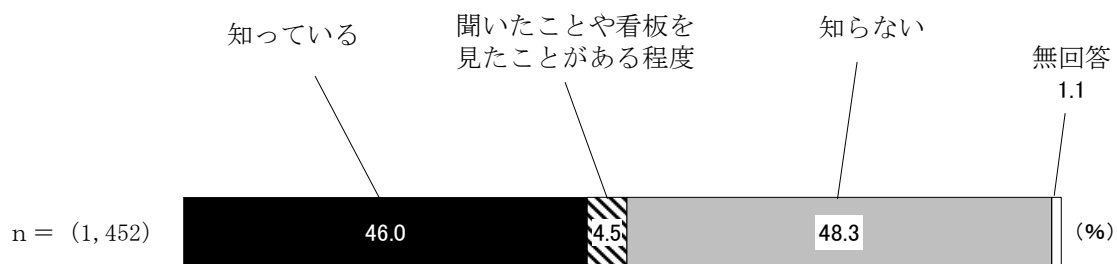
居住区別では、「自転車」は、中原区（46.1%）、川崎区（42.5%）、幸区（41.3%）が4割台で多くなっており、麻生区（2.2%）が最も少なくなっている。「自動車（会社の車や家族の送迎を含む）」は、宮前区（44.0%）が最も多く、川崎区（8.5%）が最も少なくなっている。「バス」は、宮前区（19.0%）、川崎区（18.5%）、幸区（16.8%）が1割台後半で多くっており、中原区（5.2%）が最も少なくなっている。「電車」は、麻生区（19.2%）、高津区（17.5%）、多摩区（16.3%）が1割台後半で多くっており、宮前区（4.0%）、幸区（4.2%）が少なくなっている。（図表3-2）

3-2 市役所・区役所の駐車場が有料化されていることについての認知度

◎「知らない」が48.3%、「知っている」は46.0%

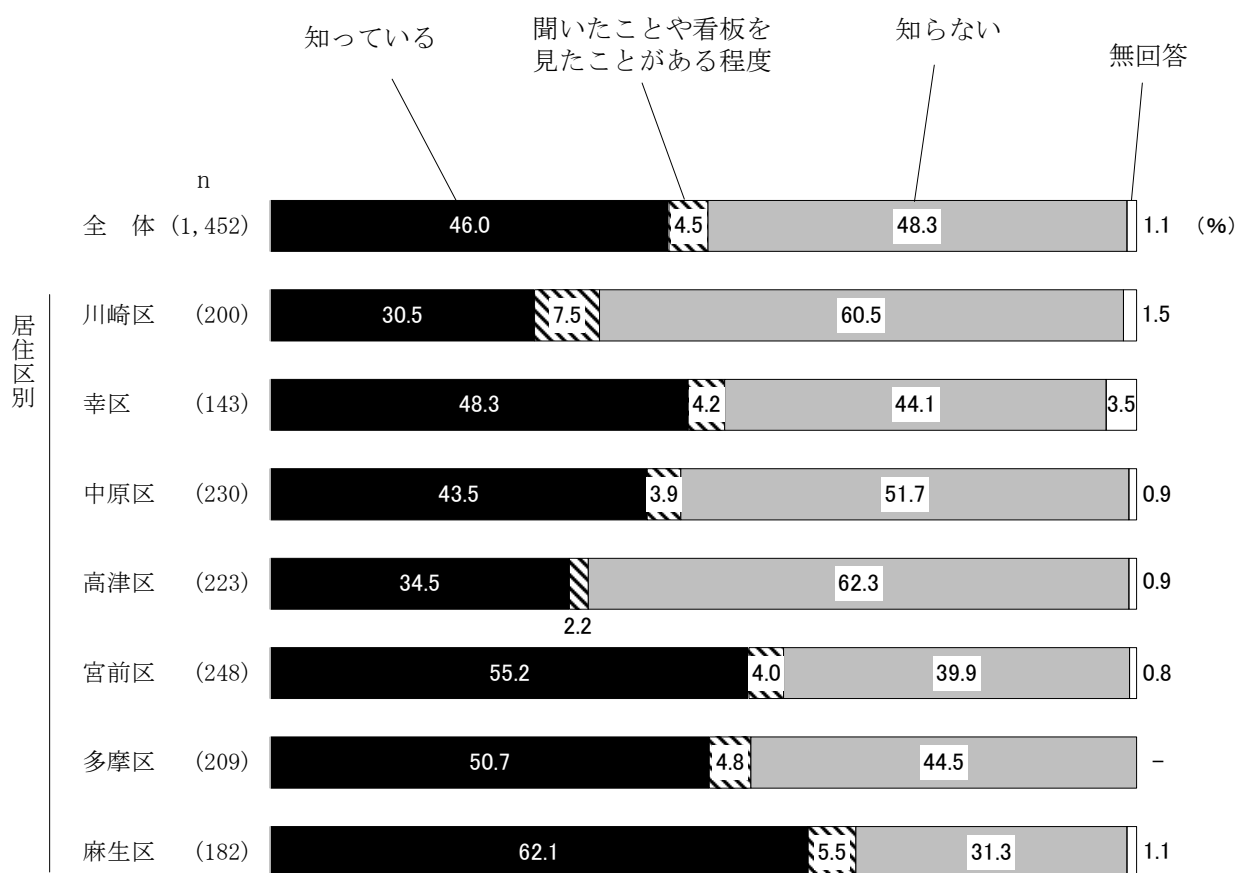
問11 市役所・区役所の駐車場が有料化されていることを知っていますか。(○は1つだけ)

図表3-3 市役所・区役所の駐車場が有料化されていることについての認知度



市役所・区役所の駐車場が有料化されていることについての認知度は、「知らない」が48.3%、「知っている」が46.0%となっている。「聞いたことや看板を見たことがある程度」は4.5%となっている。(図表3-3)

図表3-4 市役所・区役所の駐車場が有料化されていることについての認知度（居住区別）



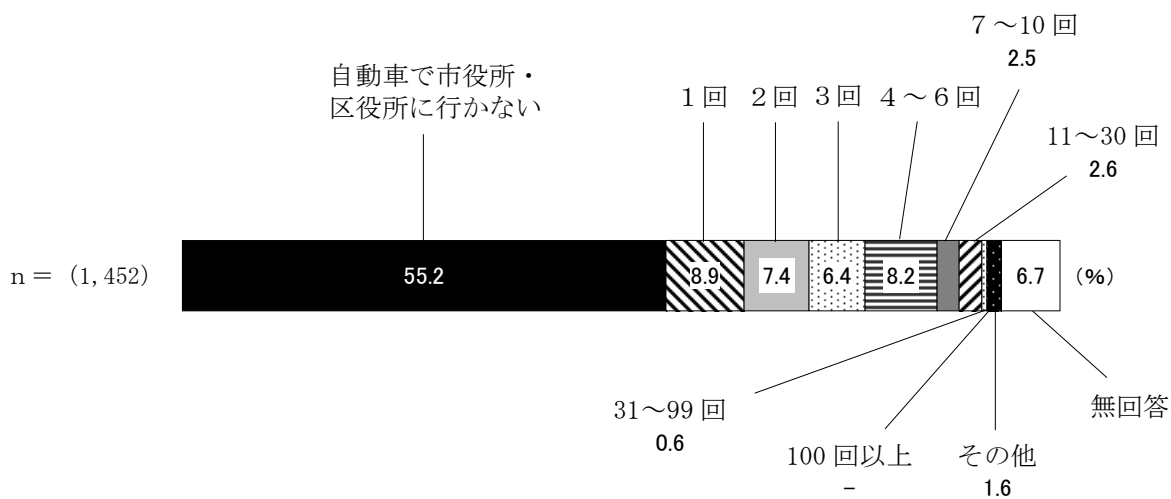
居住区別では、「知っている」は麻生区（62.1%）が最も多く、次いで宮前区（55.2%）となっている。川崎区（30.5%）、高津区（34.5%）はそれぞれ3割台と少なくなっている。（図表3-4）

3-3 市役所・区役所まで自動車を利用する頻度

◎「自動車で市役所・区役所に行かない」が55.2%、＜1～3回＞が22.7%

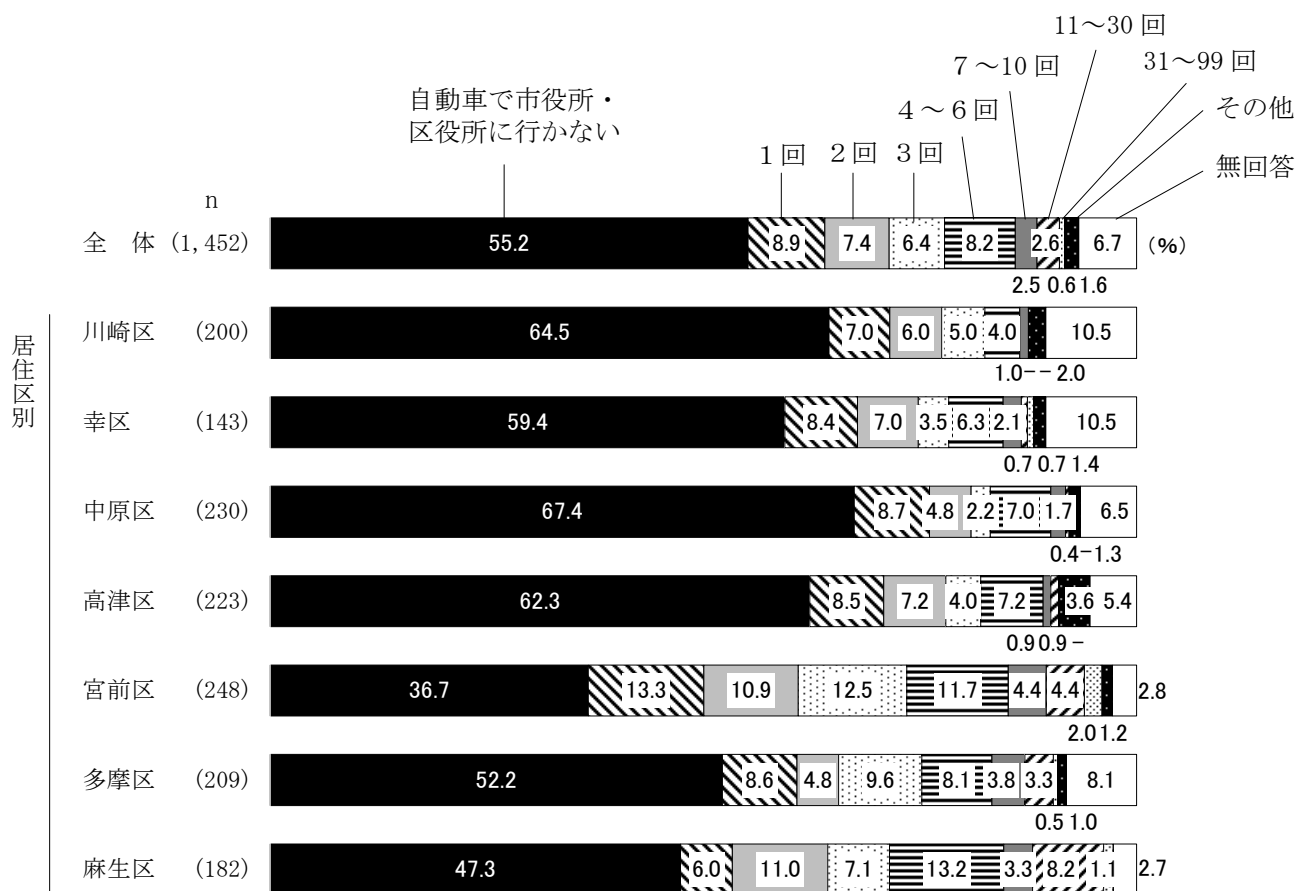
問12 市役所・区役所まで自動車を利用する頻度（年間当たり）をお答えください。（○は1つだけ）

図表3-5 市役所・区役所まで自動車を利用する頻度



市役所・区役所まで自動車を利用する頻度については、「自動車で市役所・区役所に行かない」(55.2%)が5割台で最も多く、次いで「1回」(8.9%)となっている。「1回」(8.9%)、「2回」(7.4%)、「3回」(6.4%)をあわせた＜1～3回＞は22.7%となっている。(図表3-5)

図表3-6 市役所・区役所まで自動車を利用する頻度（居住区別）



※「100回以上」は回答がなかったため、本グラフに表記していない。

居住区別では、「自動車で行かない」は、中原区（67.4%）が最も多く、宮前区（36.7%）が最も少なくなっている。宮前区は、「1回」（13.3%）、「2回」（10.9%）、「3回」（12.5%）をあわせて＜1～3回＞は36.7%となっており、最も多くなっている。（図表3-6）

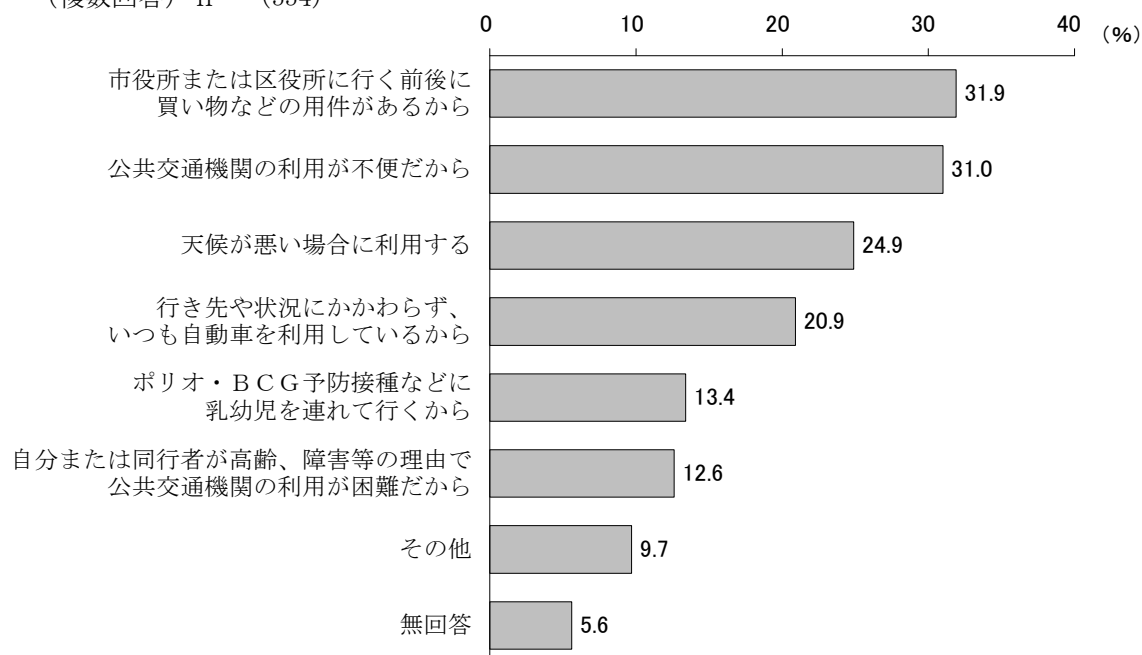
3-4 市役所・区役所まで自動車を利用する理由

◎「市役所または区役所に行く前後に買い物などの用件があるから」が31.9%

問12-1 (問12で自動車の利用頻度を「1回以上」(選択肢2~10)と回答した方にうかがいます。)
市役所・区役所まで自動車を利用される理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

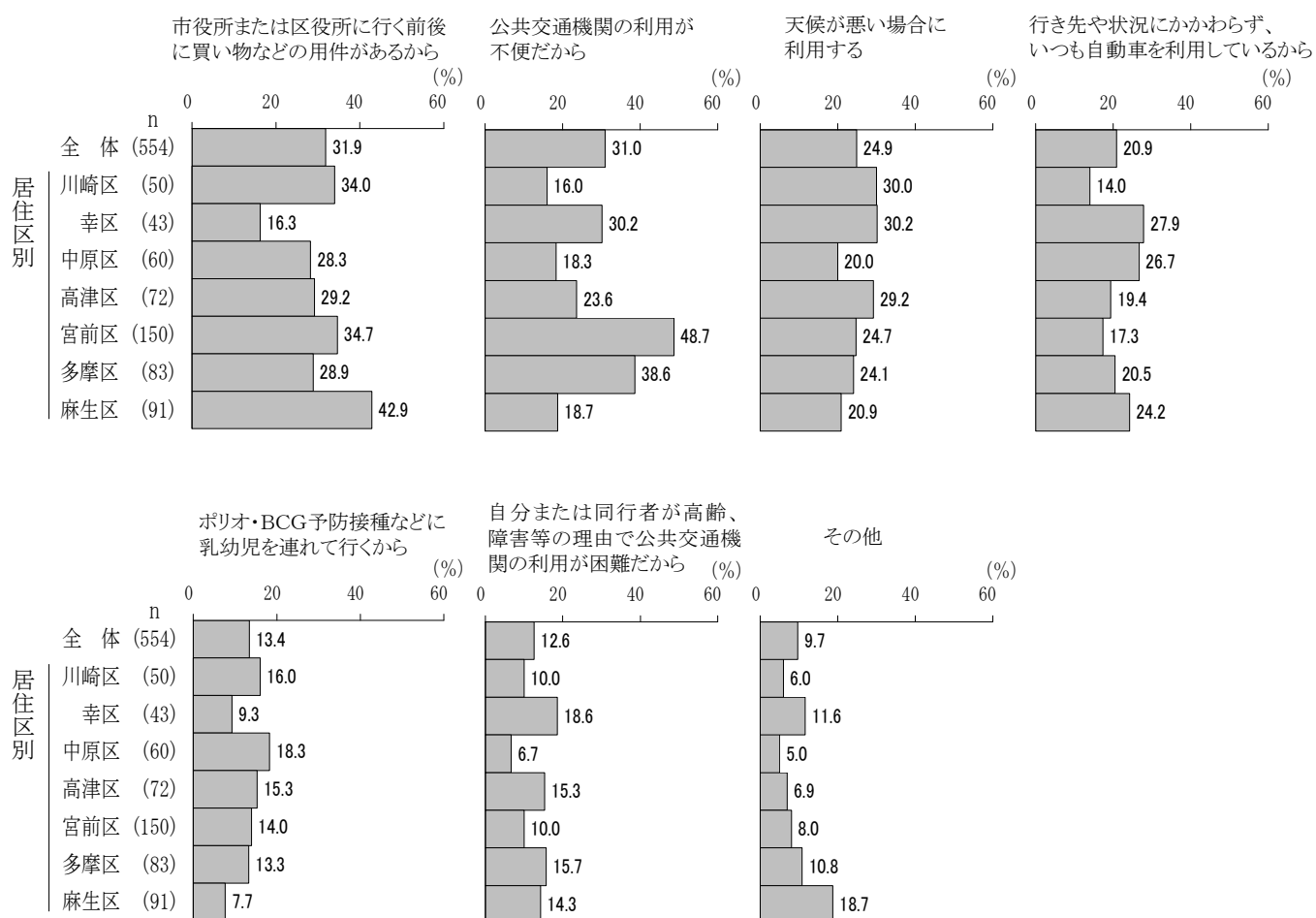
図表3-7 市役所・区役所まで自動車を利用する理由

(複数回答) n = (554)



市役所・区役所まで自動車を利用する理由は、「市役所または区役所に行く前後に買い物などの用件があるから」(31.9%)、「公共交通機関の利用が不便だから」(31.0%)がそれぞれ3割台で多くなっている。次いで、「天候が悪い場合に利用する」(24.9%)、「行き先や状況にかかわらず、いつも自動車を利用しているから」(20.9%)の順となっている。(図表3-7)

図表3-8 市役所・区役所まで自動車を利用する理由（居住区別）



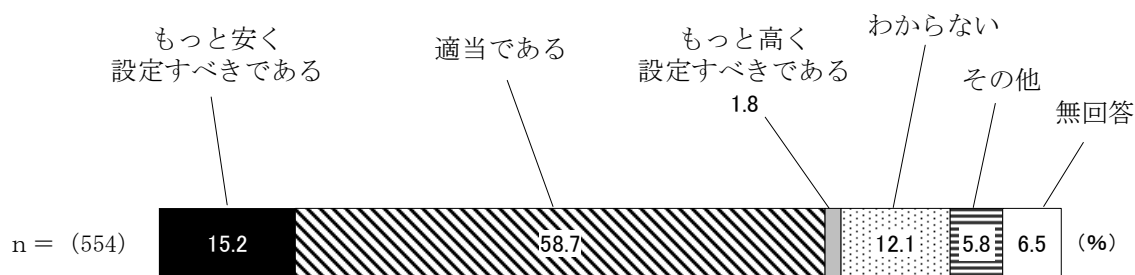
居住区別では、「市役所または区役所に行く前後に買い物などの用件があるから」は、麻生区（42.9%）が最も多く、幸区（16.3%）が最も少なくなっている。「公共交通機関の利用が不便だから」は、宮前区（48.7%）が最も多く、川崎区（16.0%）、中原区（18.3%）、麻生区（18.7%）が1割台と少なくなっている。（図表3-8）

3-5 市役所・区役所駐車場の利用料金についてどう思うか

◎「適当である」が58.7%

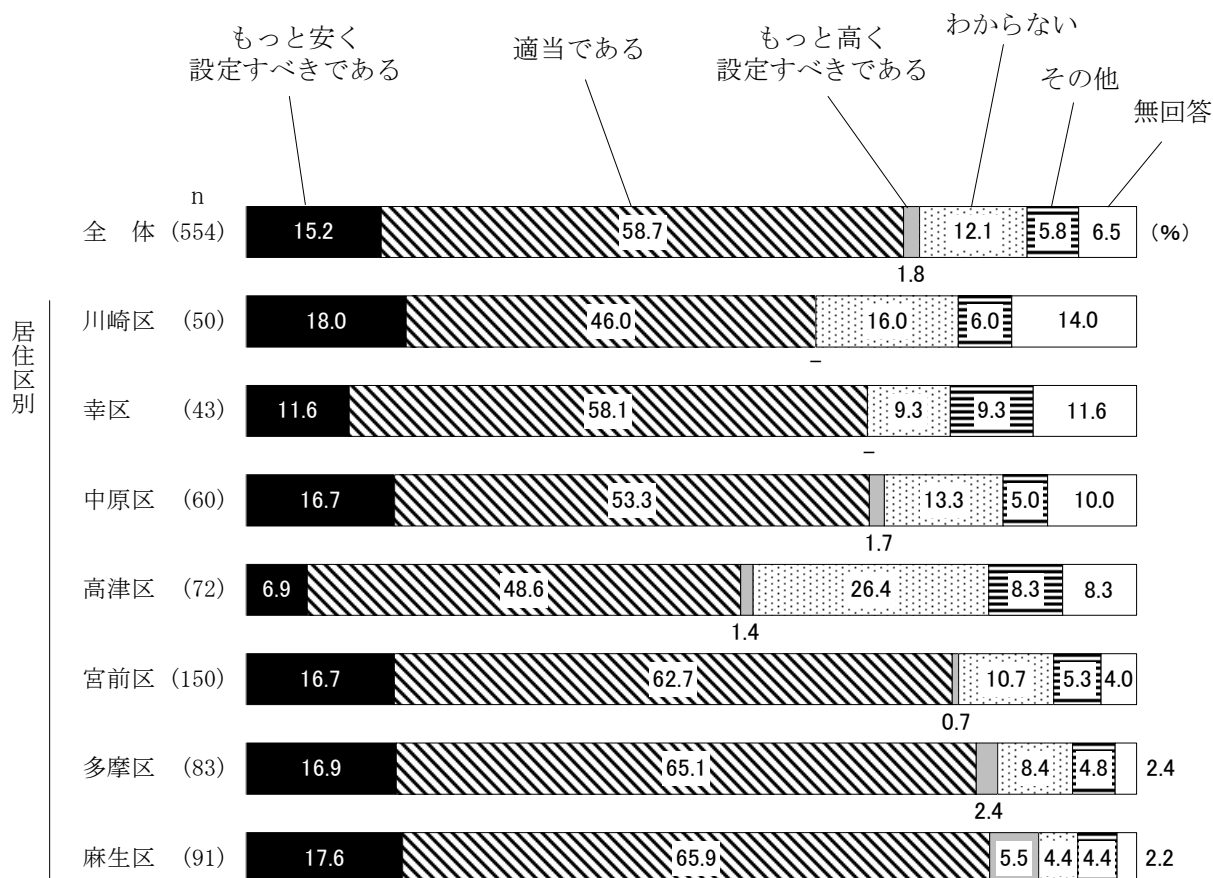
問12-2 (問12で自動車の利用頻度を「1回以上」(選択肢2~10)と回答した方にうかがいます。)
市役所・区役所駐車場の利用料金についてどう思いますか。(○は1つだけ)

図表3-9 市役所・区役所駐車場の利用料金についてどう思うか



市役所・区役所駐車場の利用料金についてどう思うかについては、「適当である」が58.7%と最も多くなっている。「もっと安く設定すべきである」は15.2%、「もっと高く設定すべきである」は1.8%、「わからない」は12.1%となっている。(図表3-9)

図表3-10 市役所・区役所駐車場の利用料金についてどう思うか（居住区別）



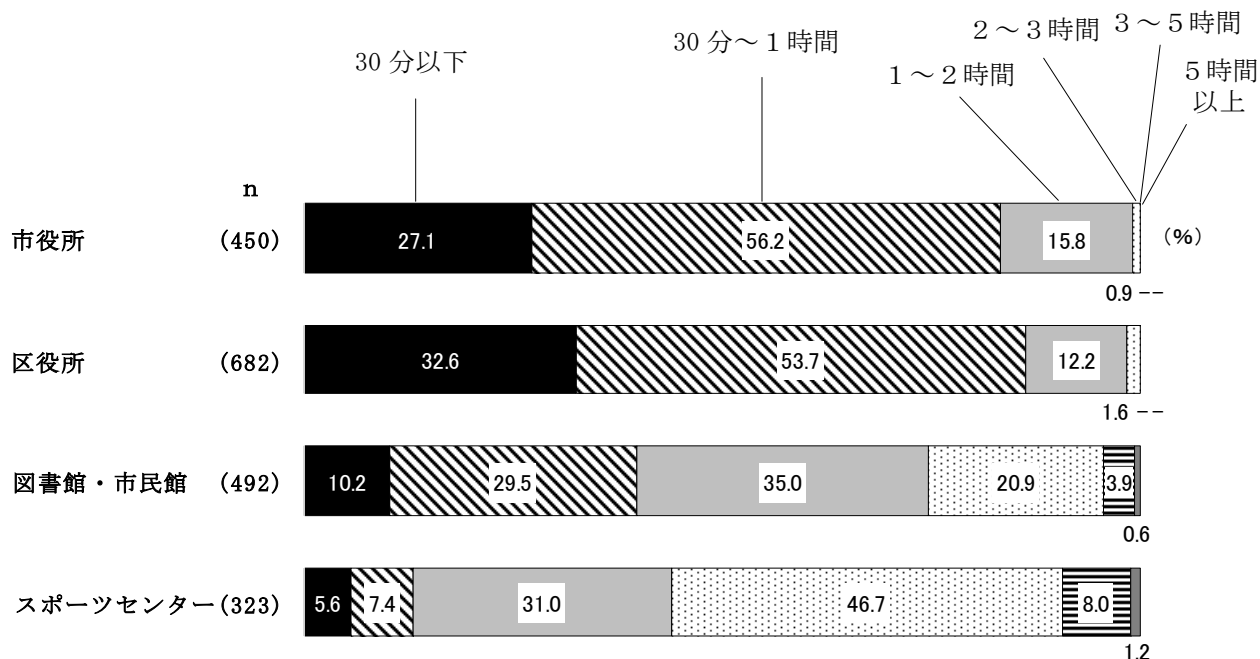
居住区別では、「もっと安く設定すべきである」は、高津区（6.9%）、幸区（11.6%）が少なくなっている。「適当である」は、麻生区（65.9%）、多摩区（65.1%）、宮前区（62.7%）が6割台と多くなっており、川崎区（46.0%）、高津区（48.6%）が4割台と少なくなっている。「わからない」は、高津区（26.4%）が最も多くなっている。（図表3-10）

3-6 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間について

◎<1時間以下>が市役所 83.3%、区役所 86.3%

問13 ①市役所、②区役所、③図書館・市民館、④スポーツセンターに用件があって、駐車場を利用する際、通常の駐車時間は何時間(分)ですか。近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表3-11 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間 [※「利用しない」「無回答」を除く集計結果]



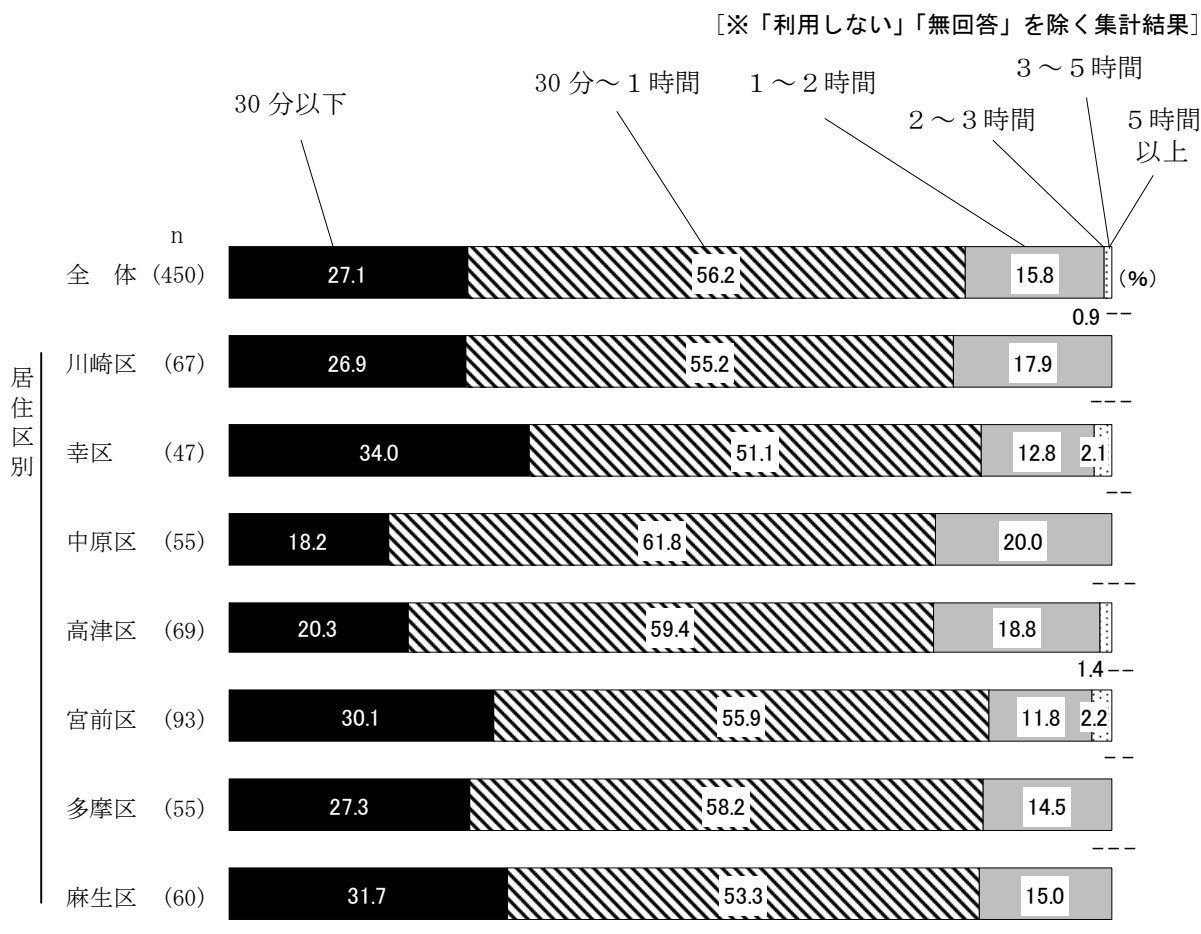
市役所・区役所等を利用する際の駐車時間（「利用しない」「無回答」を除く）については、市役所は「30分以下」が27.1%、「30分~1時間」が56.2%となっており、「30分以下」と「30分~1時間」をあわせた<1時間以下>は83.3%と多くなっている。区役所は、「30分以下」が32.6%、「30分~1時間」が53.7%となっており、「30分以下」と「30分~1時間」をあわせた<1時間以下>は86.3%と多くなっている。図書館・市民館は、「1~2時間」が35.0%、「30分~1時間」が29.5%と多くなっている。スポーツセンターは、「2~3時間」が46.7%、「1~2時間」が31.0%と多くなっている。(図表3-11)

なお、「利用しない」「無回答」を含めた集計結果は、下表の通りとなっている。(図表3-12)

図表3-12 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間 [※「利用しない」「無回答」を含む] (%)

n=(1,452)	30分以下	30分~1時間	1~2時間	2~3時間	3~5時間	5時間以上	利用しない	無回答
市役所	8.4	17.4	4.9	0.3	-	-	37.3	31.7
区役所	15.3	25.2	5.7	0.8	-	-	28.0	25.1
図書館・市民館	3.4	10.0	11.8	7.1	1.3	0.2	35.3	30.8
スポーツセンター	1.2	1.7	6.9	10.4	1.8	0.3	42.8	35.0

図表3-13 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<①市役所> (居住区別)



市役所を利用する際の駐車時間（「利用しない」「無回答」を除く）について、居住区別では、「30分以下」は、幸区（34.0%）が最も多く、中原区（18.2%）、高津区（20.3%）が少なくなっている。「30分以下」と「30分～1時間」をあわせて<1時間以下>は、全ての居住区でおよそ8割以上となっており大きな差はみられない。（図表3-13）

なお、「利用しない」「無回答」を含めた集計結果は、下表の通りとなっている。（図表3-14）

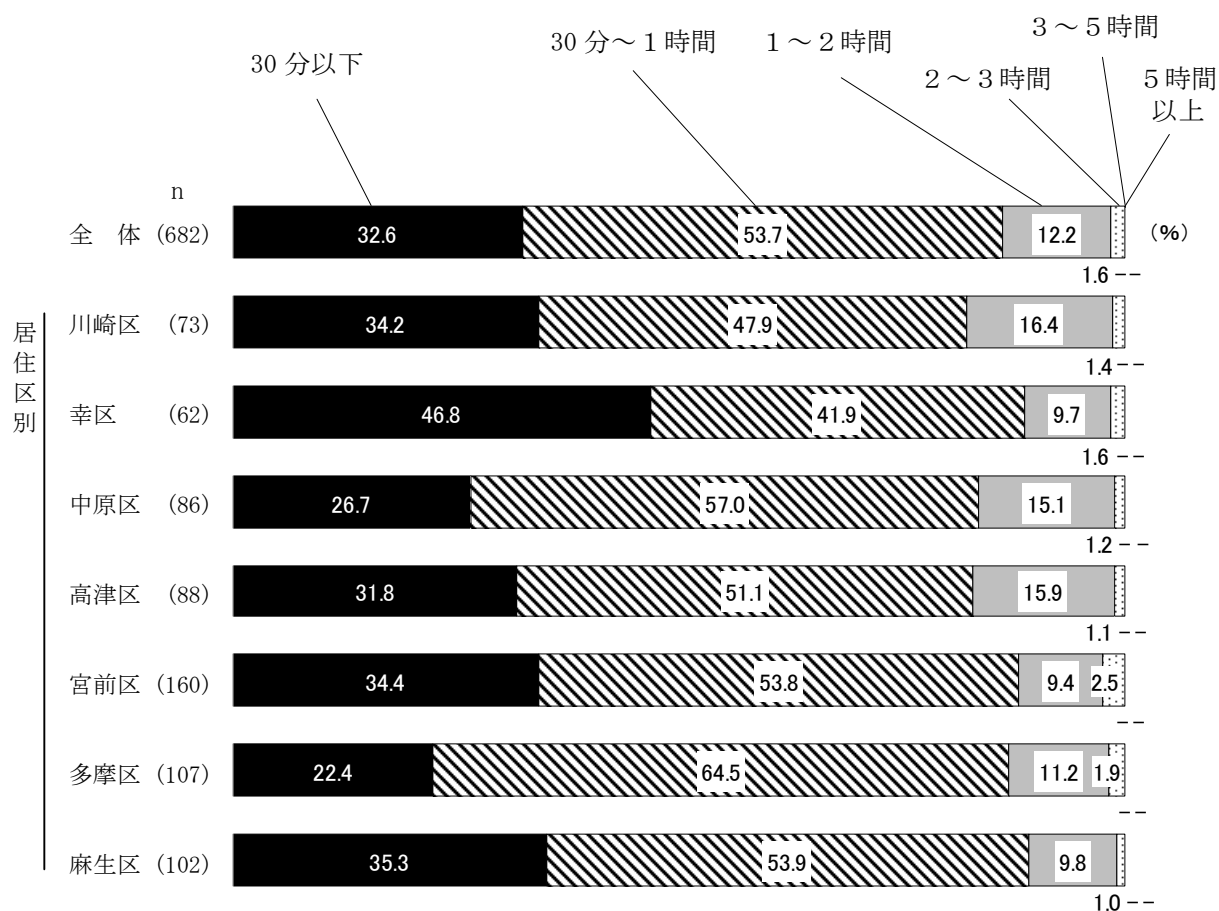
図表3-14 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<①市役所> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を含む]

居住区 (n)	駐車時間 (%)						その他 (%)	
	30分以下	30分~1時間	1~2時間	2~3時間	3~5時間	5時間以上	利用しない	無回答
全体 (1,452)	8.4	17.4	4.9	0.3	-	-	37.3	31.7
川崎区 (200)	9.0	18.5	6.0	-	-	-	36.5	30.0
幸区 (143)	11.2	16.8	4.2	0.7	-	-	35.7	31.5
中原区 (230)	4.3	14.8	4.8	-	-	-	42.6	33.5
高津区 (223)	6.3	18.4	5.8	0.4	-	-	43.5	25.6
宮前区 (248)	11.3	21.0	4.4	0.8	-	-	34.7	27.8
多摩区 (209)	7.2	15.3	3.8	-	-	-	36.4	37.3
麻生区 (182)	10.4	17.6	4.9	-	-	-	30.8	36.3

図表3-15 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<②区役所> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を除く集計結果]



区役所を利用する際の駐車時間（「利用しない」「無回答」を除く）について、居住区別では、「30分以下」は、幸区（46.8%）が最も多く、多摩区（22.4%）、中原区（26.7%）が少なくなっている。「30分以下」と「30分～1時間」をあわせた<1時間以下>は、全ての居住区で8割以上となっており大きな差はみられない。（図表3-15）

なお、「利用しない」「無回答」を含めた集計結果は、下表の通りとなっている。（図表3-16）

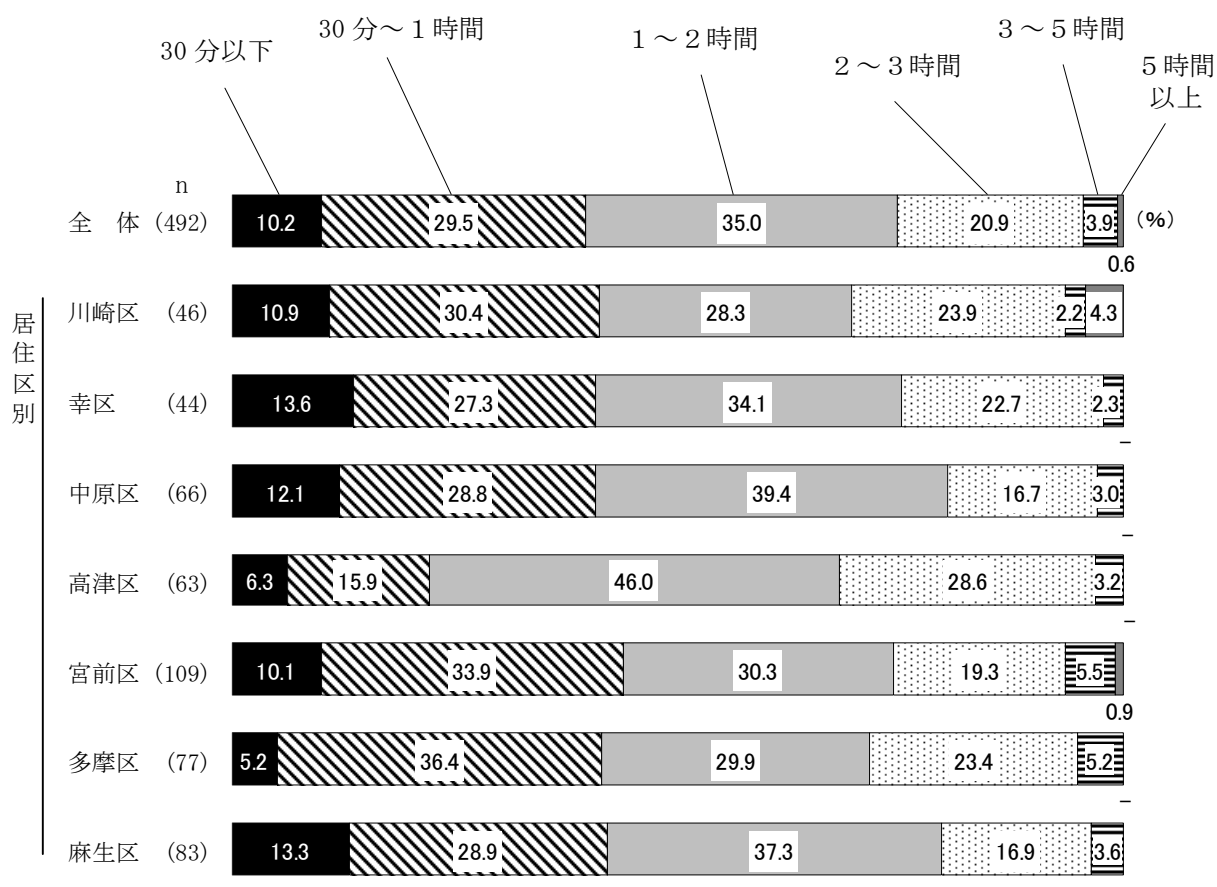
図表3-16 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<②区役所> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を含む]

居住区 (n)	30分以下 (%)	30分～1時間 (%)	1～2時間 (%)	2～3時間 (%)	3～5時間 (%)	5時間以上 (%)	利用しない (%)	無回答 (%)
全体 (1,452)	15.3	25.2	5.7	0.8	-	-	28.0	25.1
川崎区 (200)	12.5	17.5	6.0	0.5	-	-	34.5	29.0
幸区 (143)	20.3	18.2	4.2	0.7	-	-	29.4	27.3
中原区 (230)	10.0	21.3	5.7	0.4	-	-	33.9	28.7
高津区 (223)	12.6	20.2	6.3	0.4	-	-	36.8	23.8
宮前区 (248)	22.2	34.7	6.0	1.6	-	-	18.1	17.3
多摩区 (209)	11.5	33.0	5.7	1.0	-	-	24.4	24.4
麻生区 (182)	19.8	30.2	5.5	0.5	-	-	19.2	24.7

図表3-17 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<③図書館・市民館> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を除く集計結果]



図書館・市民館を利用する際の駐車時間（「利用しない」「無回答」を除く）について、居住区別では、「30分以下」と「30分～1時間」をあわせて<1時間以下>は、高津区（22.2%）が2割台前半と最も少なくなっており、他の居住区では4割台前半となっている。一方、「1～2時間」「2～3時間」「3～5時間」「5時間以上」をあわせて<1時間以上>は、高津区（77.8%）が最も多くなっている。（図表3-17）

なお、「利用しない」「無回答」を含めた集計結果は、下表の通りとなっている。（図表3-18）

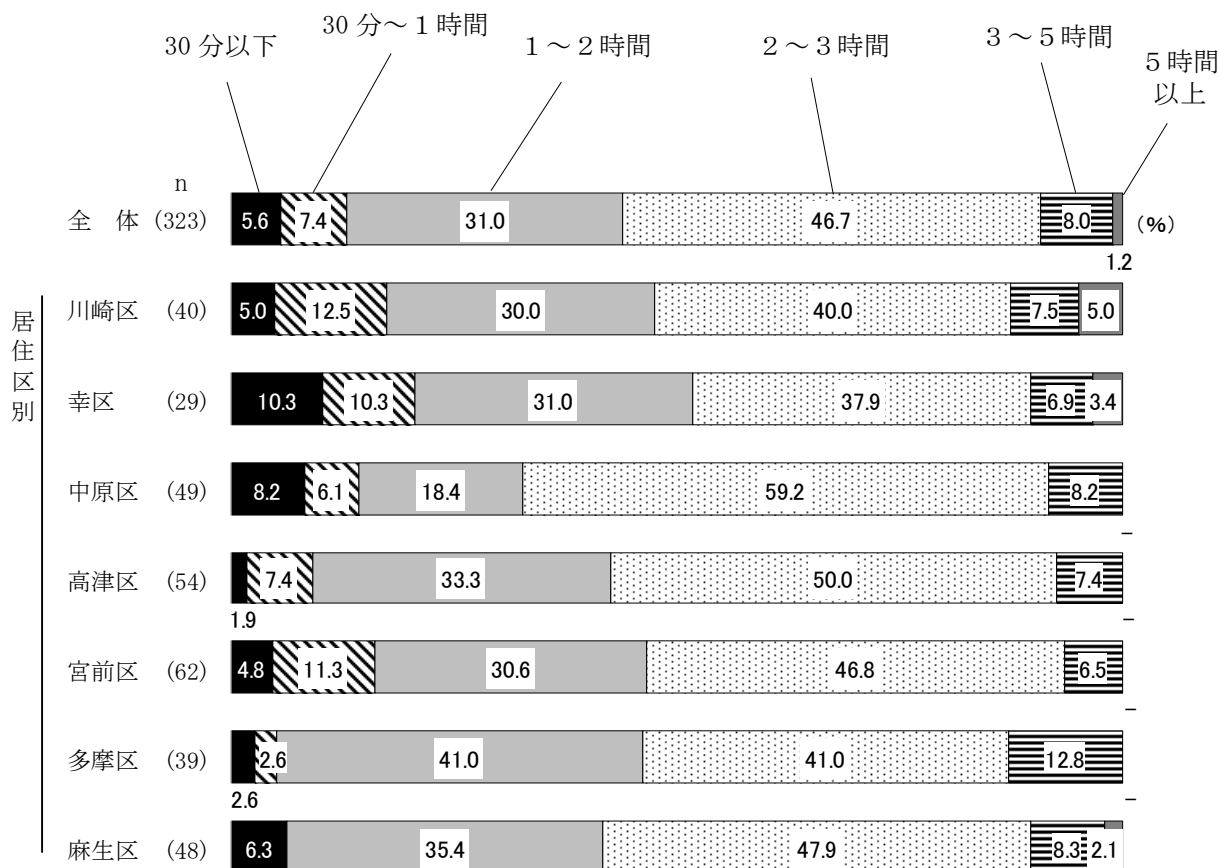
図表3-18 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<③図書館・市民館> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を含む]
(%)

居住区 (n)	30分以下	30分~1時間	1~2時間	2~3時間	3~5時間	5時間以上	利用しない	無回答
全体 (1,452)	3.4	10.0	11.8	7.1	1.3	0.2	35.3	30.8
川崎区 (200)	2.5	7.0	6.5	5.5	0.5	1.0	44.0	33.0
幸区 (143)	4.2	8.4	10.5	7.0	0.7	-	37.1	32.2
中原区 (230)	3.5	8.3	11.3	4.8	0.9	-	38.3	33.0
高津区 (223)	1.8	4.5	13.0	8.1	0.9	-	42.6	29.1
宮前区 (248)	4.4	14.9	13.3	8.5	2.4	0.4	30.2	25.8
多摩区 (209)	1.9	13.4	11.0	8.6	1.9	-	30.6	32.5
麻生区 (182)	6.0	13.2	17.0	7.7	1.6	-	25.3	29.1

図表3-19 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<④スポーツセンター> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を除く集計結果]



スポーツセンターを利用する際の駐車時間（「利用しない」「無回答」を除く）について、居住区別では、「2～3時間」「3～5時間」「5時間以上」をあわせた<2時間以上>は、中原区(67.4%)最も多く、幸区(48.2%)が最も少なくなっている。(図表3-19)

なお、「利用しない」「無回答」を含めた集計結果は、下表の通りとなっている。(図表3-20)

図表3-20 市役所・区役所等を利用する際の駐車時間<④スポーツセンター> (居住区別)

[※「利用しない」「無回答」を含む]

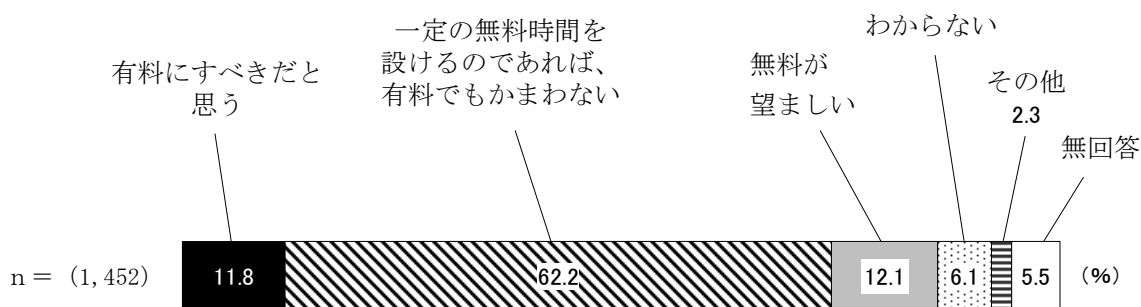
居住区 (n)	%							%	
	30分以下	30分~1時間	1~2時間	2~3時間	3~5時間	5時間以上	利用しない	無回答	
全体 (1,452)	1.2	1.7	6.9	10.4	1.8	0.3	42.8	35.0	
川崎区 (200)	1.0	2.5	6.0	8.0	1.5	1.0	45.5	34.5	
幸区 (143)	2.1	2.1	6.3	7.7	1.4	0.7	44.1	35.7	
中原区 (230)	1.7	1.3	3.9	12.6	1.7	-	43.5	35.2	
高津区 (223)	0.4	1.8	8.1	12.1	1.8	-	45.7	30.0	
宮前区 (248)	1.2	2.8	7.7	11.7	1.6	-	42.7	32.3	
多摩区 (209)	0.5	0.5	7.7	7.7	2.4	-	43.1	38.3	
麻生区 (182)	1.6	-	9.3	12.6	2.2	0.5	35.2	38.5	

3-7 市役所・区役所以外の公共施設の駐車場のあり方について

◎「一定の無料時間を設けるのであれば、有料でもかまわない」が62.2%

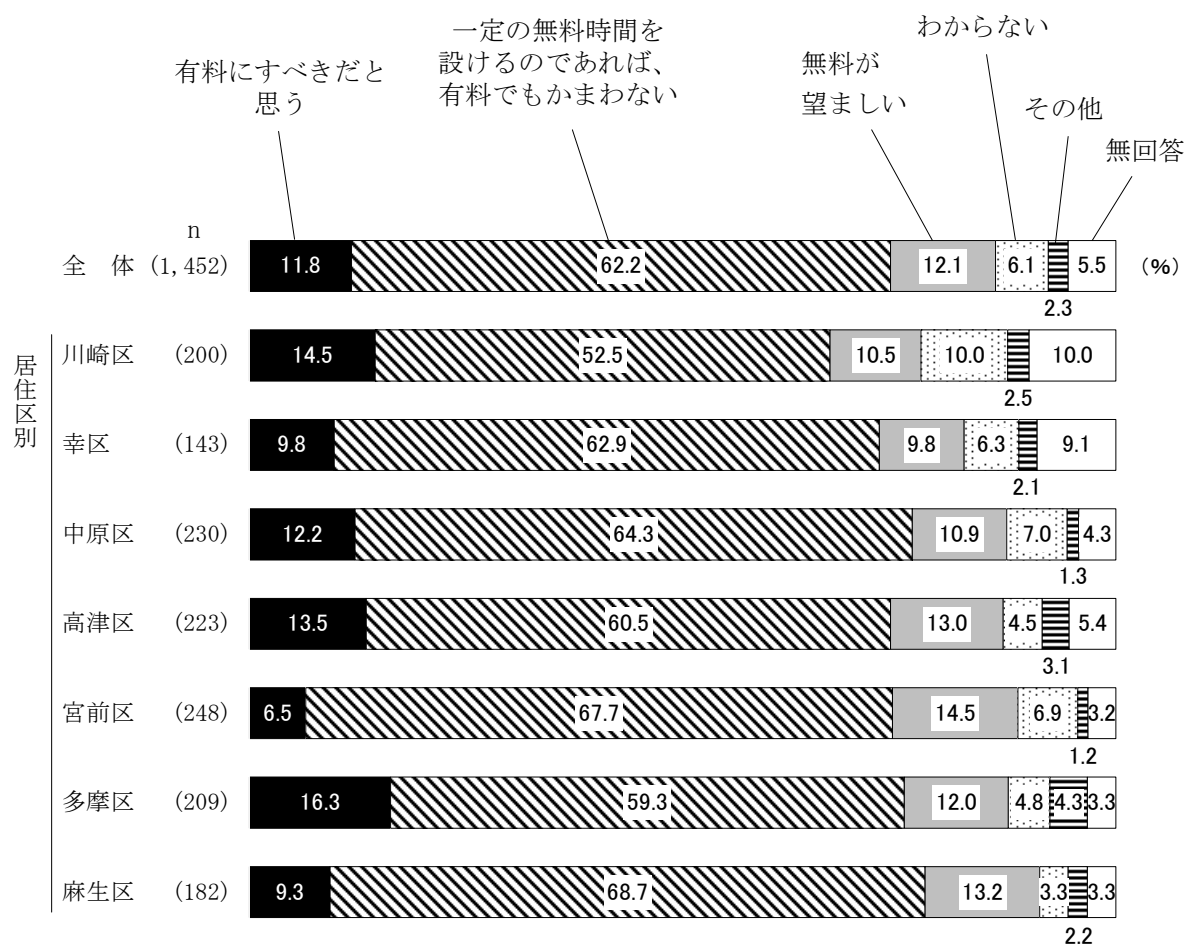
問14 市役所・区役所以外の公共施設の駐車場のあり方（有料・無料）について、どのように考えますか。（○は1つだけ）

図表3-21 市役所・区役所以外の公共施設の駐車場のあり方について



市役所・区役所以外の公共施設の駐車場のあり方については、「一定の無料時間を設けるのであれば、有料でもかまわない」（62.2%）が6割台と多くっており、「有料にすべきだと思う」（11.8%）をあわせた＜有料容認＞は74.0%となっている。一方、「無料が望ましい」は、12.1%となっている。（図表3-21）

図表3-22 市役所・区役所以外の公共施設の駐車場のあり方について（居住区別）



居住区別では、「有料にすべきだと思う」は、多摩区（16.3%）が最も多く、宮前区（6.5%）が最も少なくなっている。（図表3-22）

4 住宅用火災警報器の設置について

4-1 火災予防の広報について

◎実際に見たり聞いたりしたもの「市政だより」が49.7%

問15 火災予防については、住宅用火災警報器の他にも、放火防止対策、コンロ火災防止等、様々な広報を行っています。

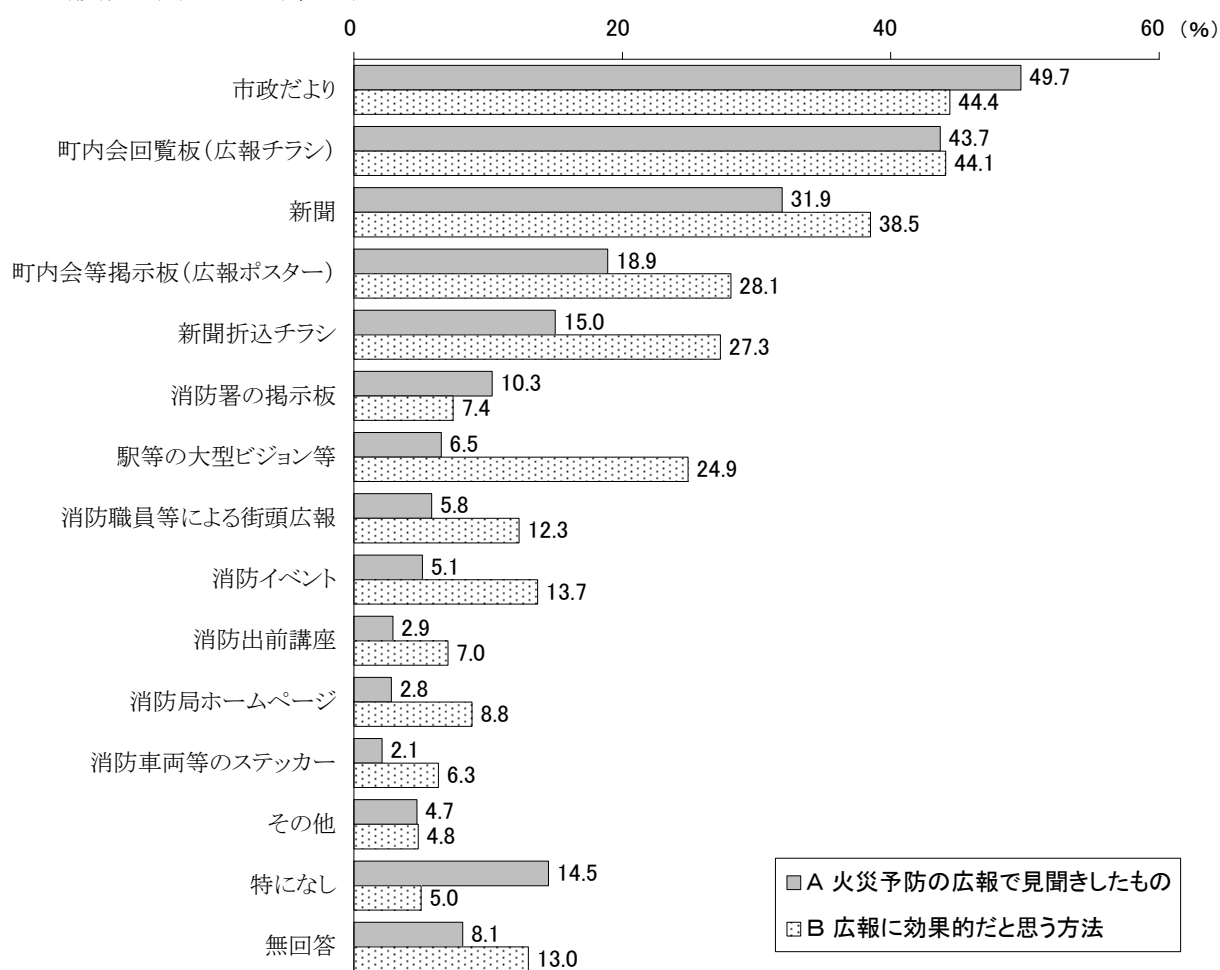
A. 火災予防の広報で、実際に見たり聞いたりしたものは何ですか。

B. 火災予防を広報するため、どのような方法が効果が高いとお考えですか。

(それぞれ、あてはまるものすべてに○)

図表4-1 火災予防の広報について

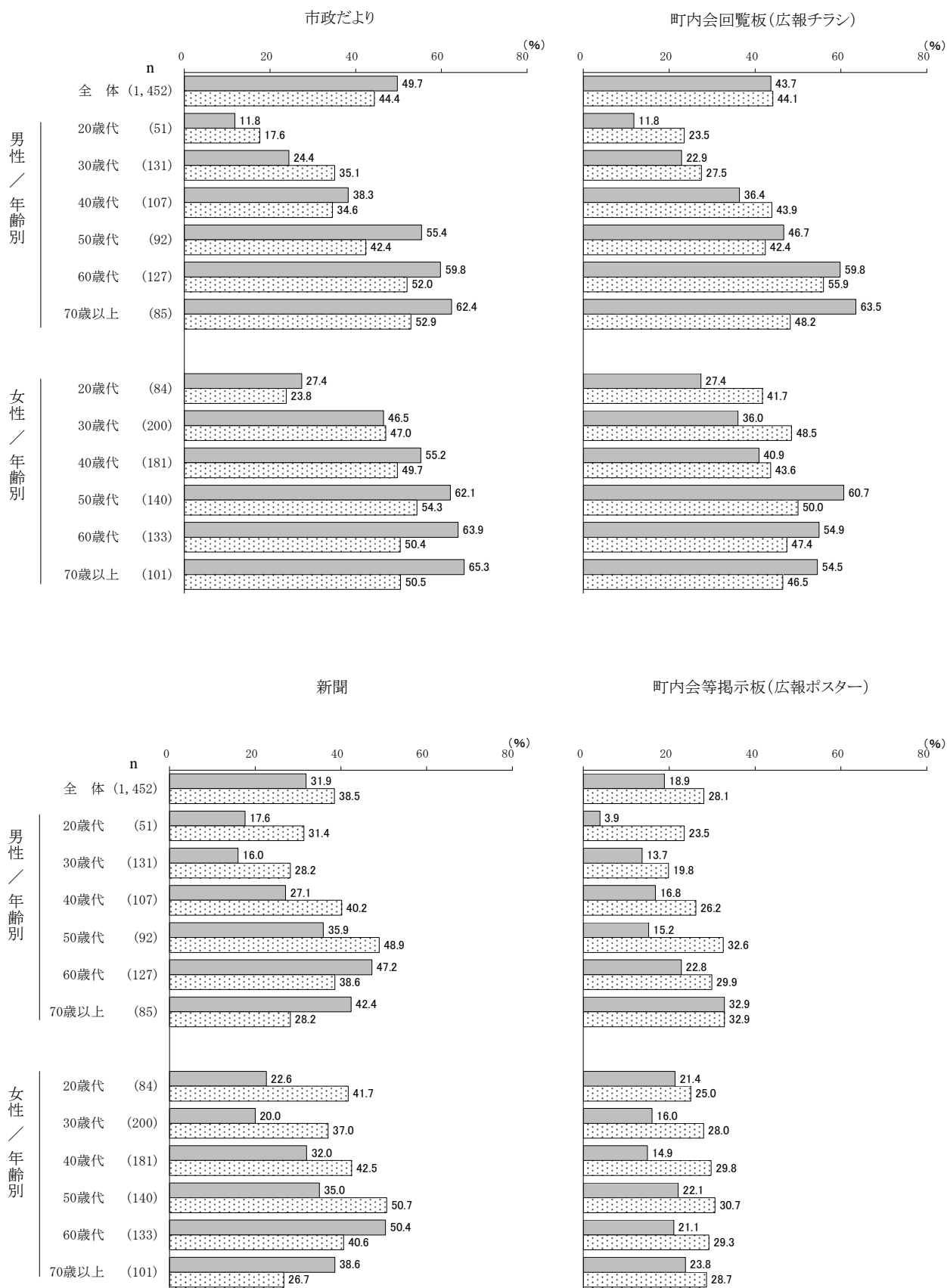
(複数回答) n = (1,452)



火災予防の広報で見聞きしたものについては、「市政だより」(49.7%)が最も多くなっている。次いで、「町内会回覧板(広報チラシ)」(43.7%)、「新聞」(31.9%)の順となっている。

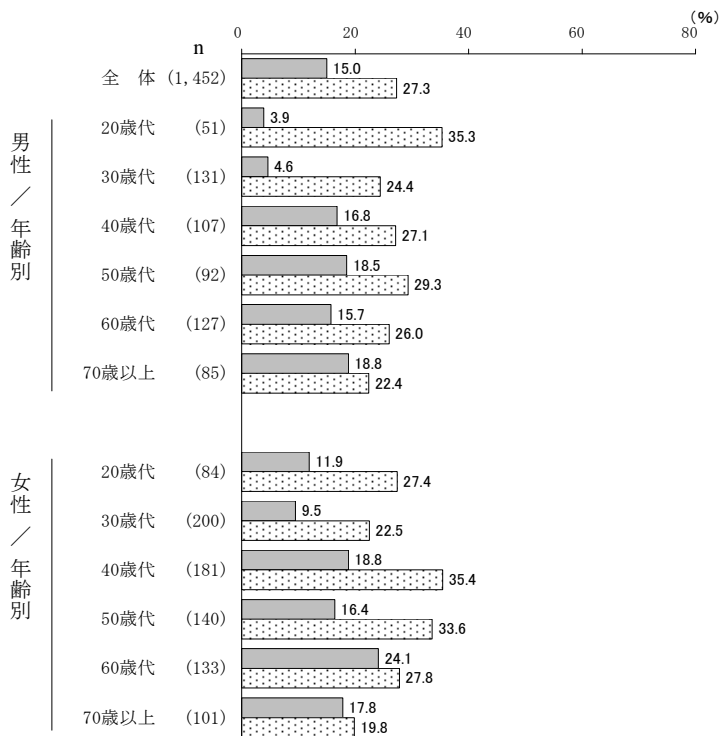
広報に効果的だと思う方法についても、「市政だより」(44.4%)、「町内会回覧板(広報チラシ)」(44.1%)、「新聞」(38.5%)の順となっている。(図表4-1)

図表4-2 火災予防の広報について(性/年齢別)

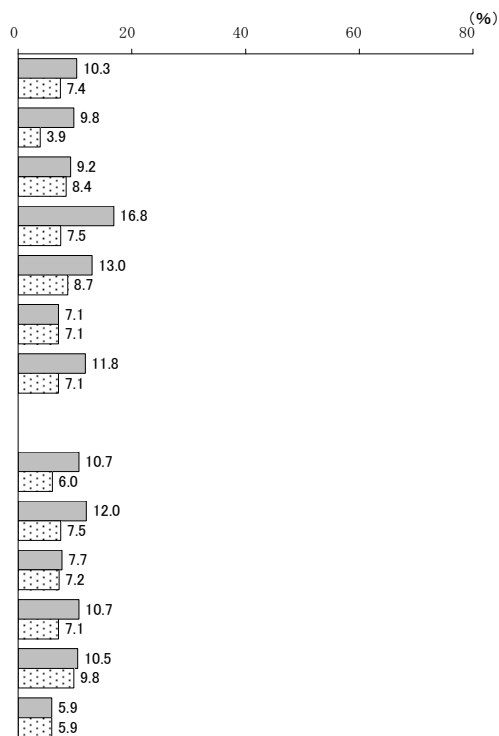


(第1回アンケート)

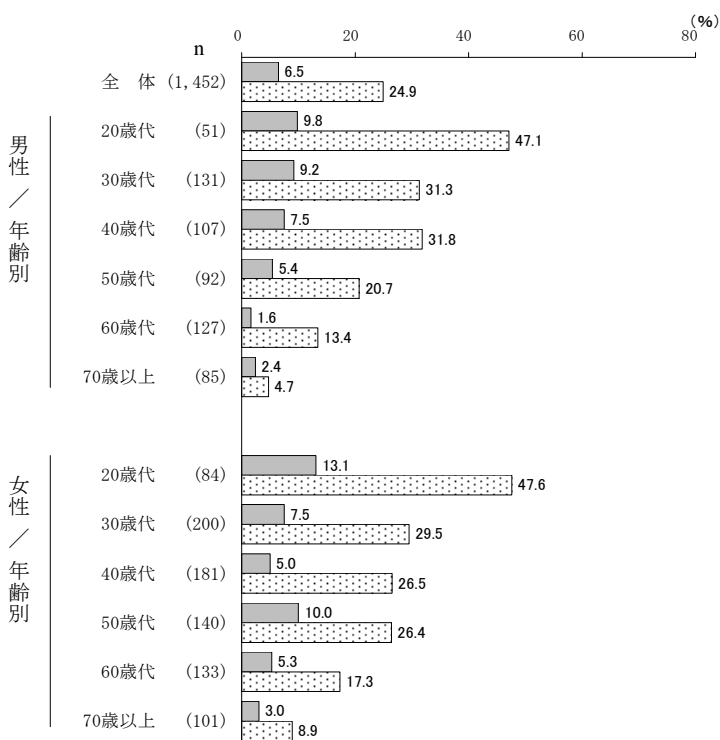
新聞折込チラシ



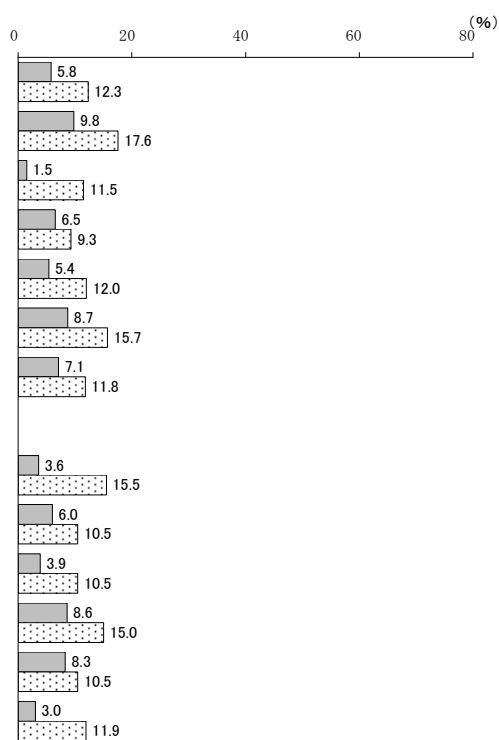
消防署の掲示板



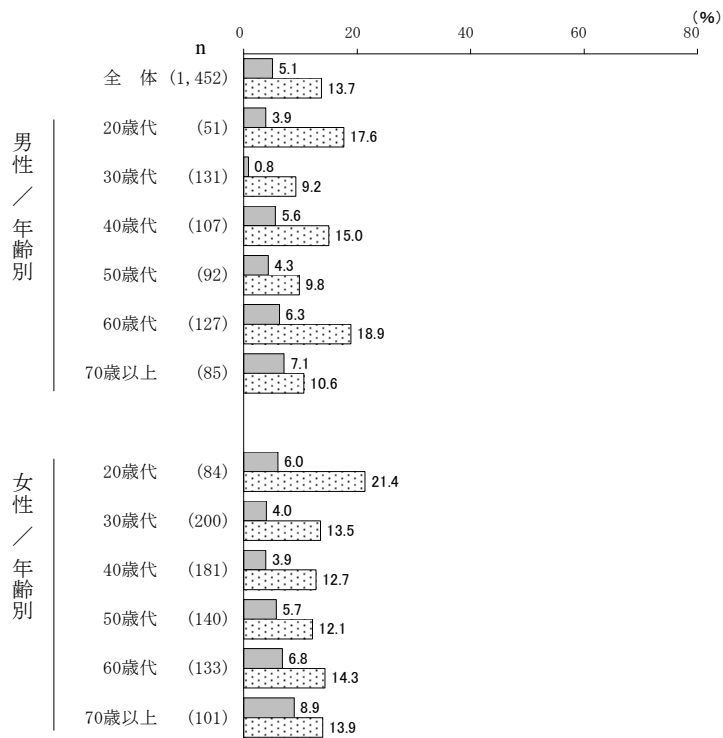
駅等の大型ビジョン等



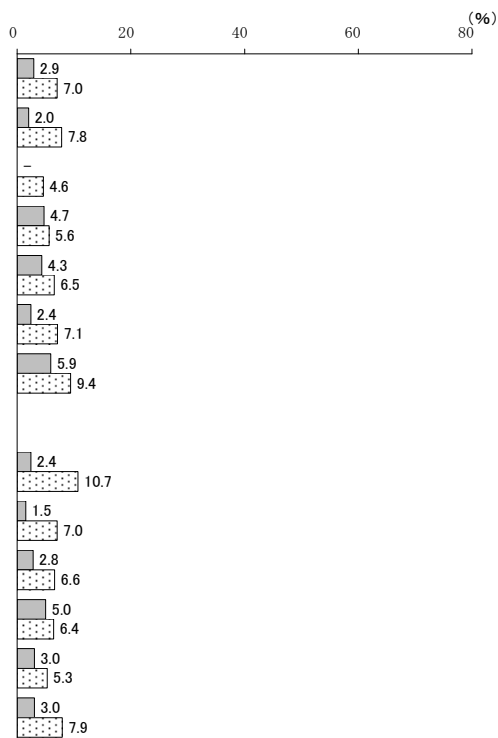
消防職員等による街頭広報



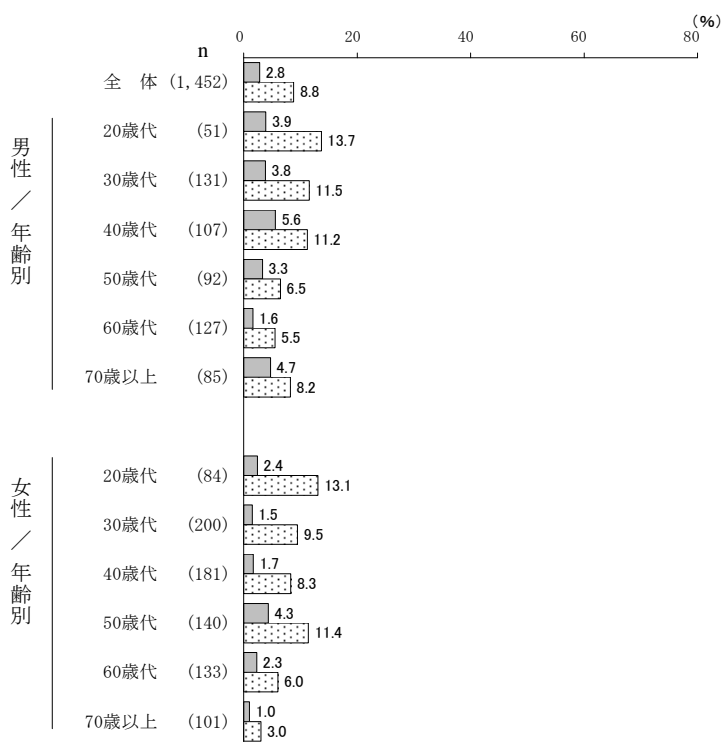
消防イベント



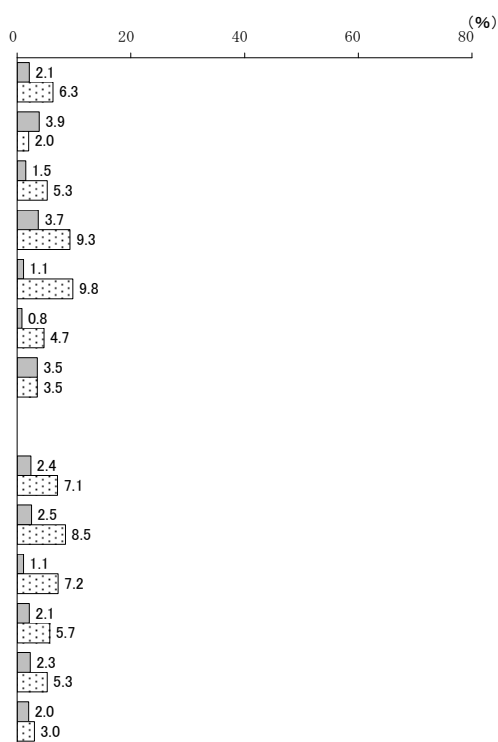
消防出前講座



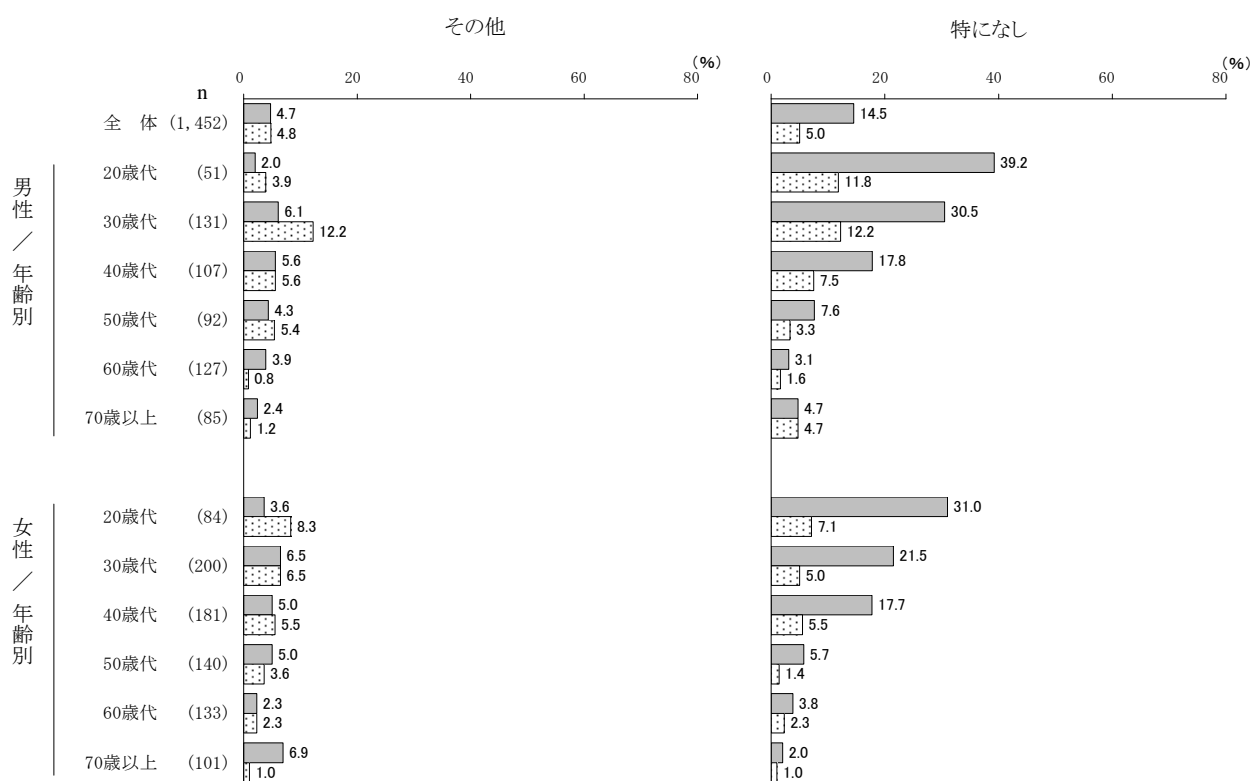
消防局ホームページ



消防車両等のステッカー



(第1回アンケート)



性別／年齢別では、火災予防の広報で見聞きしたものについて、「市政だより」は、男女ともに70歳以上(男性:62.4%、女性:65.3%)が最も多くなっており、20歳代(男性:11.8%、女性:27.4%)が最も少なくなっている。「町内会回覧板(広報チラシ)」は、男性では70歳以上(63.5%)が最も多く、20歳代(11.8%)が最も少なくなっている。女性では、50歳代(60.7%)が最も多く、20歳代(27.4%)が最も少なくなっている。「新聞」は、男性では60歳代(47.2%)が最も多く、20歳代(17.6%)、30歳代(16.0%)が1割台と少なくなっている。女性では、60歳代(50.4%)が最も多く、20歳代(22.6%)、30歳代(20.0%)が2割台と少なくなっている。

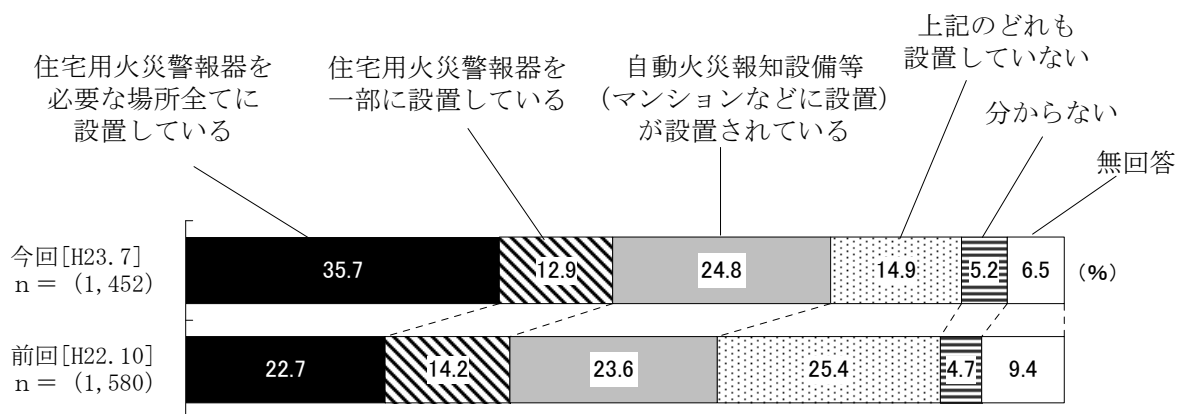
広報に効果的だと思う方法について、「市政だより」は、男性では60歳代(52.0%)、70歳以上(52.9%)が多くなっており、20歳代(17.6%)が最も少なくなっている。女性では、50歳代(54.3%)が最も多く、20歳代(23.8%)が最も少なくなっている。「町内会回覧板(広報チラシ)」は、男性では60歳代(55.9%)が最も多く、20歳代(23.5%)が最も少なくなっている。「新聞」は、男性では50歳代(48.9%)が最も多く、30歳代(28.2%)、70歳以上(28.2%)が少なくなっている。女性では、50歳代(50.7%)が最も多く、70歳以上(26.7%)が最も少なくなっている。(図表4-2)

4-2 住宅用火災警報器の設置

◎「住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」が35.7%

問 16 川崎市では、平成 23 年 6 月 1 日から、全ての住宅の寝室、台所、階段の上部（上階に寝室がある場合）に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。設置の有無をお答えください。（○は1つだけ）

図表 4-3 住宅用火災警報器の設置



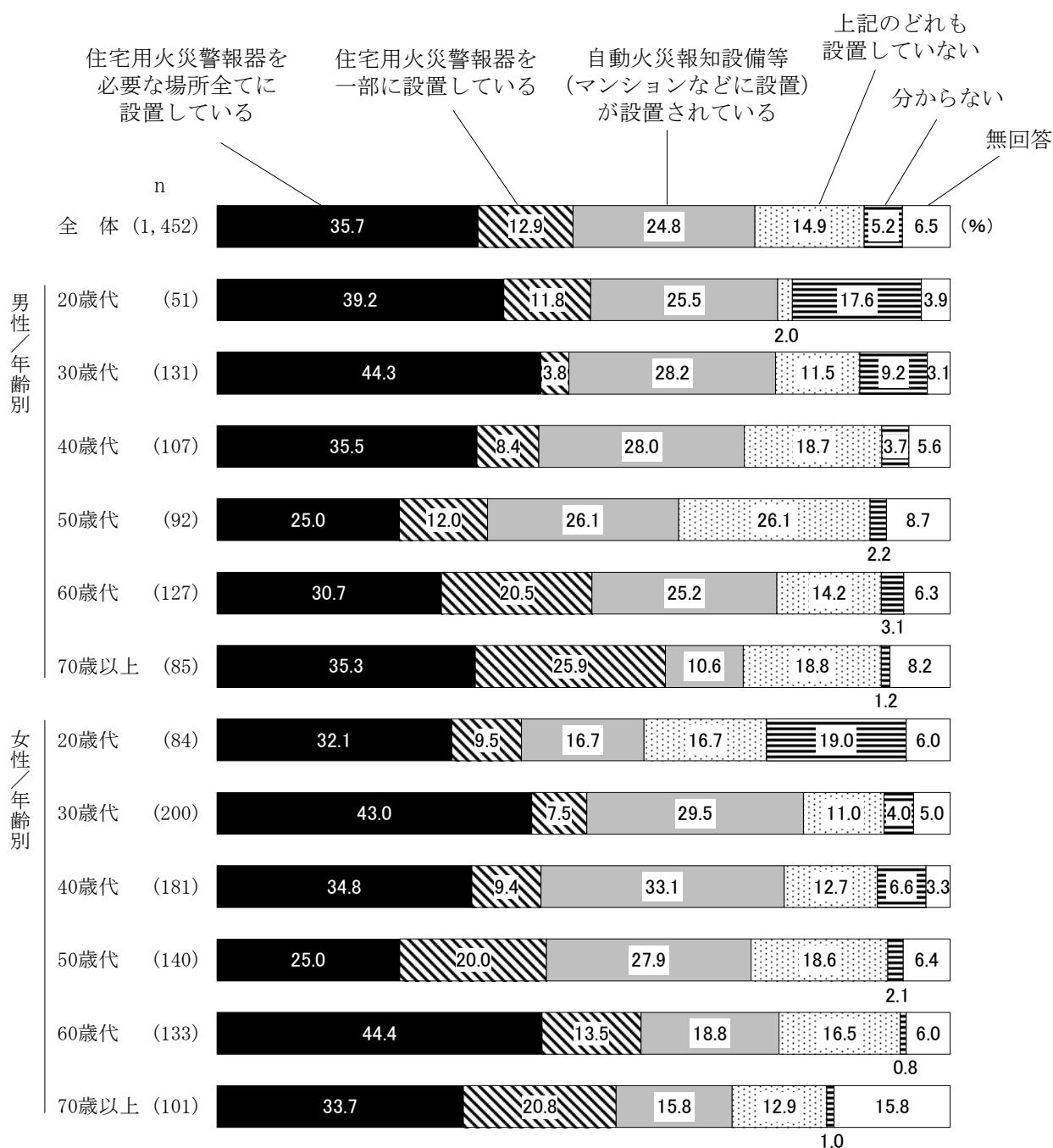
*前回調査時と選択肢表記が一部異なる（下記、前回調査時表記）

- *1 「住宅用火災警報器を寝室・台所・階段のすべてに設置している」
- *2 「住宅用火災警報器を寝室・台所・階段の一部に設置している」
- *3 「寝室・台所・階段のどこにも設置していない」

住宅用火災警報器の設置については、「住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」が35.7%と最も多く、次いで「自動火災報知設備等（マンションなどに設置）が設置されている」が24.8%となっている。一方、「上記のどれも設置していない」は14.9%となっている。

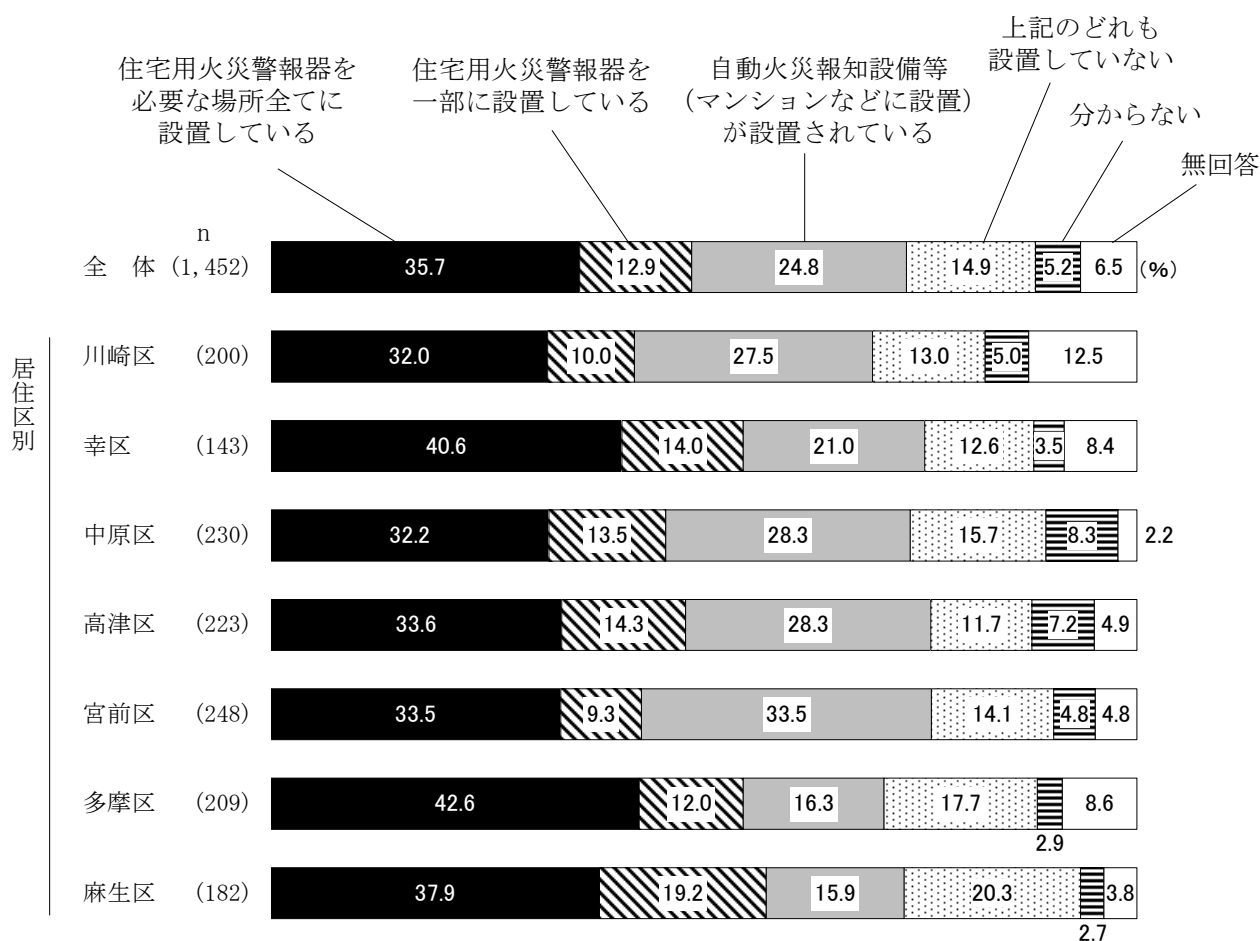
前回調査（平成 22 年 10 月）と比較すると、「住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」が13.0ポイント上回っており、「上記のどれも設置していない」は10.5ポイント下回っている。（図表 4-3）

図表4-4 住宅用火災警報器の設置（性／年齢別）



性／年齢別では、「住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」は、男性では30歳代（44.3%）、女性では30歳代（43.0%）、60歳代（44.4%）が4割台と多くなっている。一方、「上記のどれも設置していない」は、男女ともに50歳代（男性：26.1%、女性：18.6%）が最も多くなっている。（図表4-4）

図表4-5 住宅用火災警報器の設置（居住区別）



居住区別では、「住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」は、多摩区（42.6%）、幸区（40.6%）が4割台と多くなっている。一方、「上記のどれも設置していない」は、麻生区（20.3%）が多くなっている。（図表4-5）

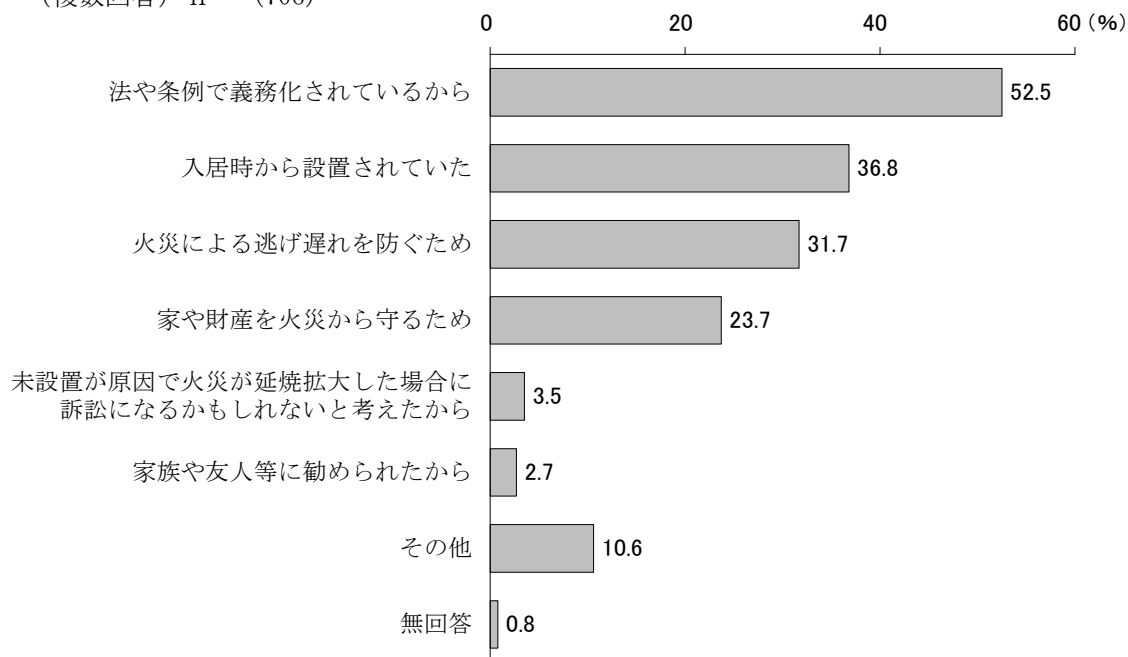
4-3 住宅用火災警報器を設置したきっかけ

◎「法や条例で義務化されているから」が52.5%

問16-1 (問16で、「1 住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」または「2 住宅用火災警報器を一部に設置している」と回答した方にかがいます。) 設置したきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

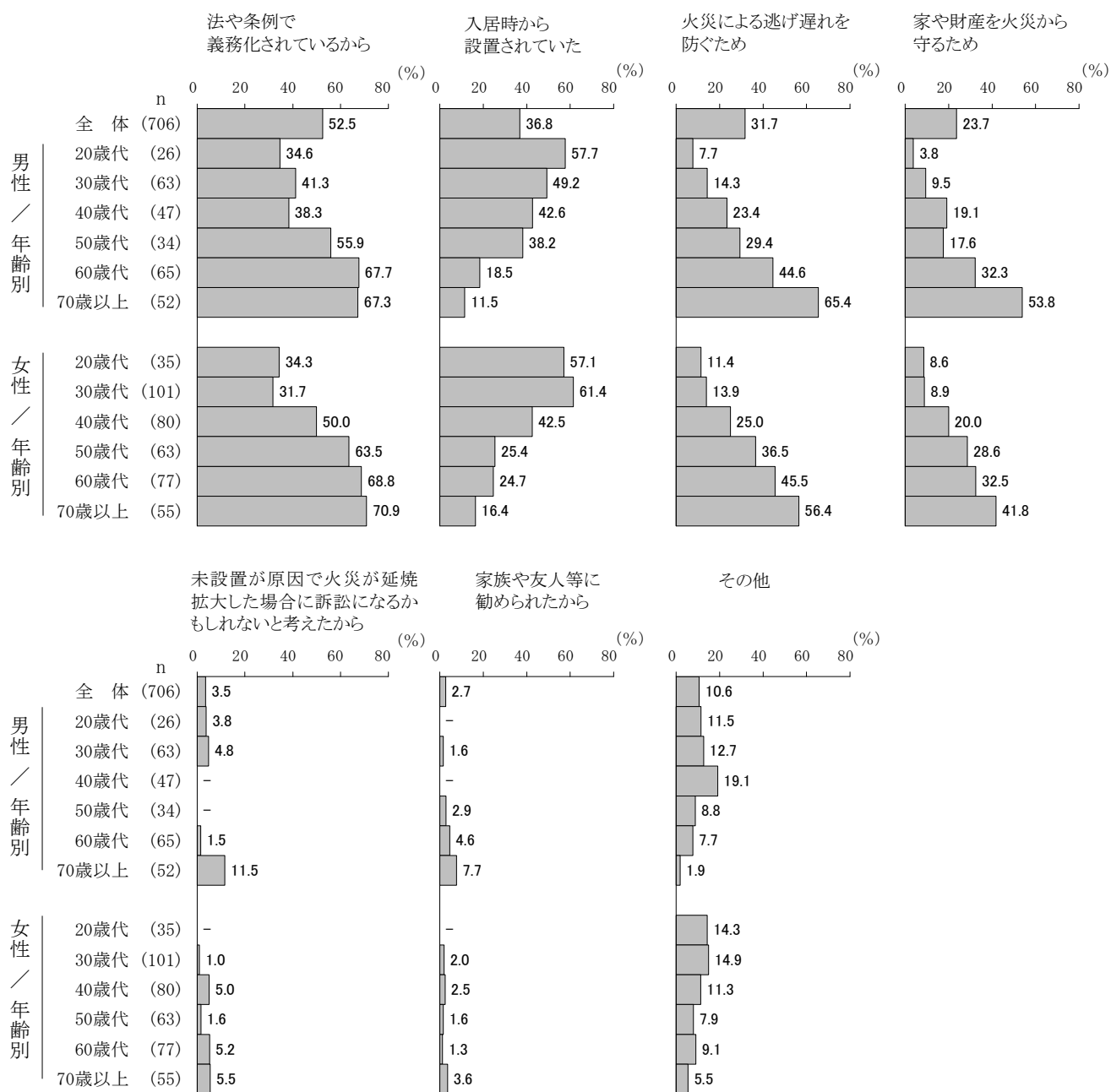
図表4-6 住宅用火災警報器を設置したきっかけ

(複数回答) n = (706)



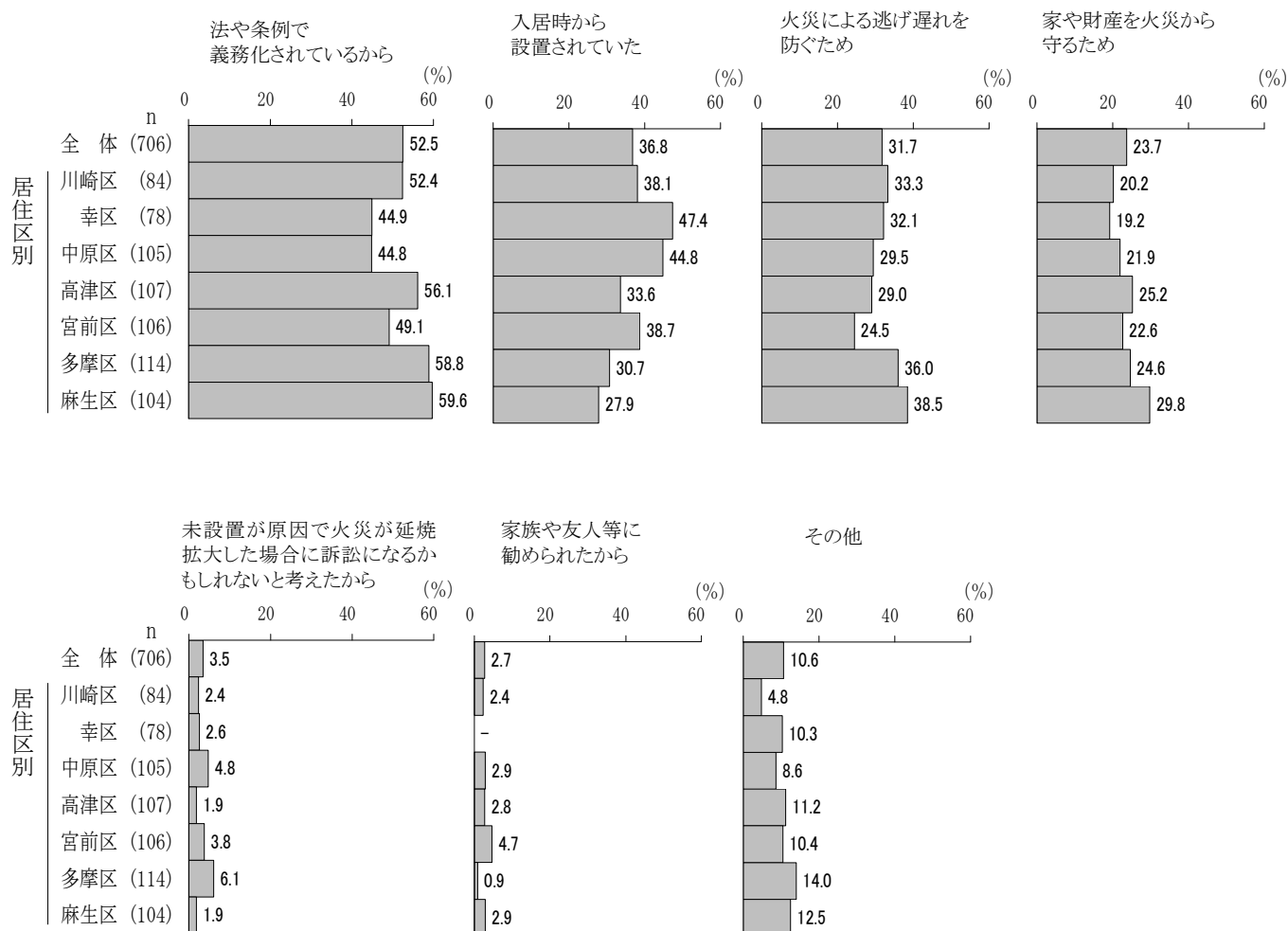
住宅用火災警報器を設置したきっかけは、「法や条例で義務化されているから」(52.5%)が最も多くなっている。次いで、「入居時から設置されていた」(36.8%)、「火災による逃げ遅れを防ぐため」(31.7%)、「家や財産を火災から守るため」(23.7%)の順となっている。(図表4-6)

図表4-7 住宅用火災警報器を設置したきっかけ（性／年齢別）



性／年齢別では、「法や条例で義務化されているから」は、男性では60歳代(67.7%)、70歳以上(67.3%)が6割台後半と多くなっており、20歳代(34.6%)が3割台半ばと少なくなっている。女性では、50歳代(63.5%)、60歳代(68.8%)、70歳以上(70.9%)が6割台から7割台と多くなっており、20歳代(34.3%)、30歳代(31.7%)が3割台と少なくなっている。「入居時から設置されていた」は、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。一方、「火災による逃げ遅れを防ぐため」、「家や財産を火災から守るため」は、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。(図表4-7)

図表4-8 住宅用火災警報器を設置したきっかけ(居住区別)



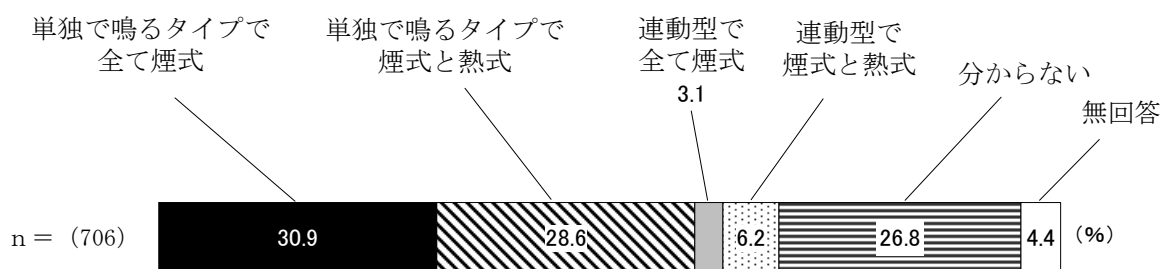
居住区別では、「法や条例で義務化されているから」は、麻生区(59.6%)、多摩区(58.8%)が多くなっており、中原区(44.8%)、幸区(44.9%)が少なくなっている。「入居時から設置されていた」は、幸区(47.4%)が最も多く、麻生区(27.9%)が最も少なくなっている。「火災による逃げ遅れを防ぐため」は、麻生区(38.5%)が最も多く、宮前区(24.5%)が最も少なくなっている。(図表4-8)

4-4 設置した住宅用火災警報器の種類

◎「単独で鳴るタイプで全て煙式」が30.9%

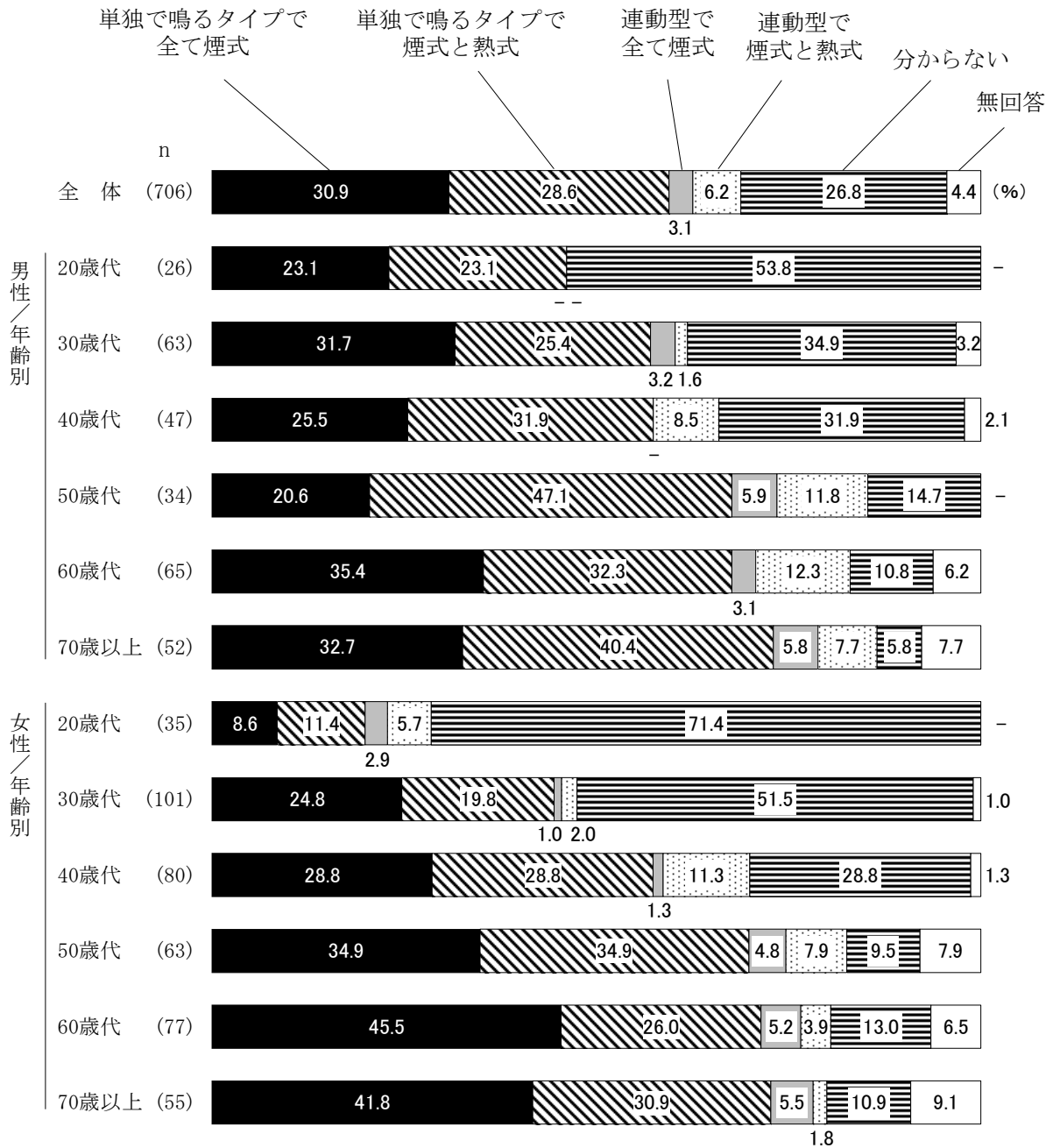
問16-2 (問16で、「1 住宅用火災警報器を必要な場所全てに設置している」または川崎市では、「2 住宅用火災警報器を一部に設置している」と回答した方にかがいます。) 設置した住宅用火災警報器の種類は何ですか。(○は1つだけ)

図表4-9 設置した住宅用火災警報器の種類



設置した住宅用火災警報器の種類は、「単独で鳴るタイプで全て煙式」(30.9%)と「単独で鳴るタイプで煙式と熱式」(28.6%)をあわせた<単独型>が59.5%となっている。「連動型で全て煙式」(3.1%)と「連動型で煙式と熱式」(6.2%)をあわせた<連動型>は9.3%となっている。一方、「分からない」は、26.8%となっている。(図表4-9)

図表4-10 設置した住宅用火災警報器の種類(性/年齢別)



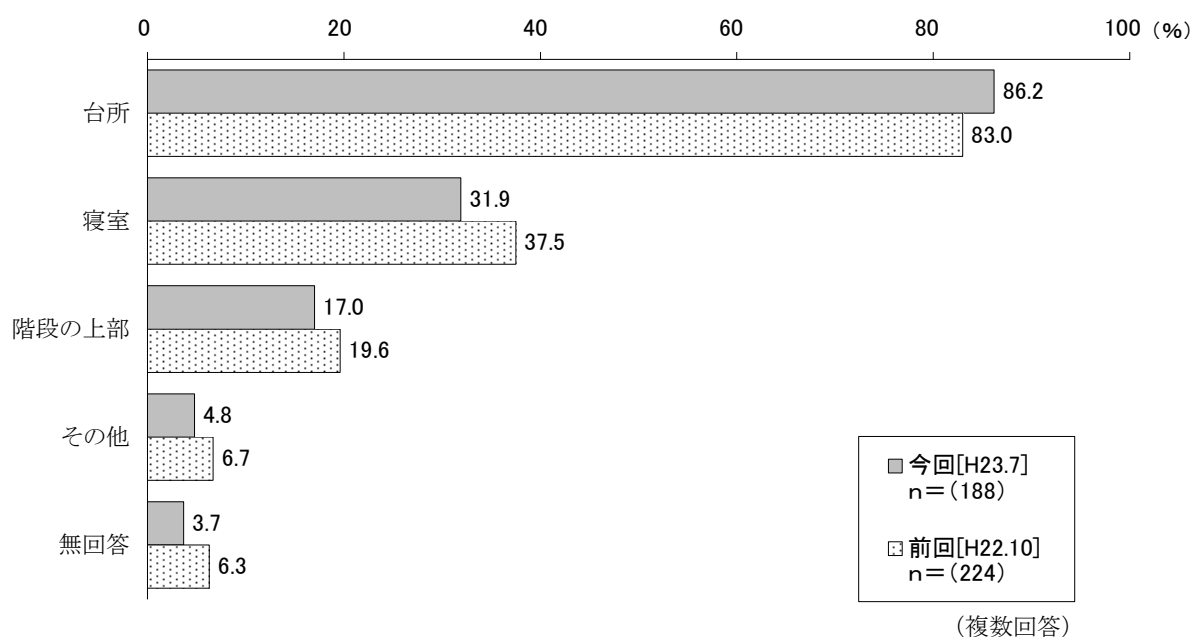
性/年齢別では、「分からない」は、男性では、20歳代(53.8%)が5割台と最も多く、70歳以上(5.8%)が最も少なくなっている。女性では、20歳代(71.4%)が7割台と最も多く、50歳代(9.5%)が最も少なくなっている。(図表4-10)

4-5 住宅用火災警報器を設置した場所

◎「台所」が86.2%

問16-3 (問16で、「2 住宅用火災警報器を一部に設置している」と回答した方にうかがいます。)
設置した場所をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図表4-11 住宅用火災警報器を設置した場所

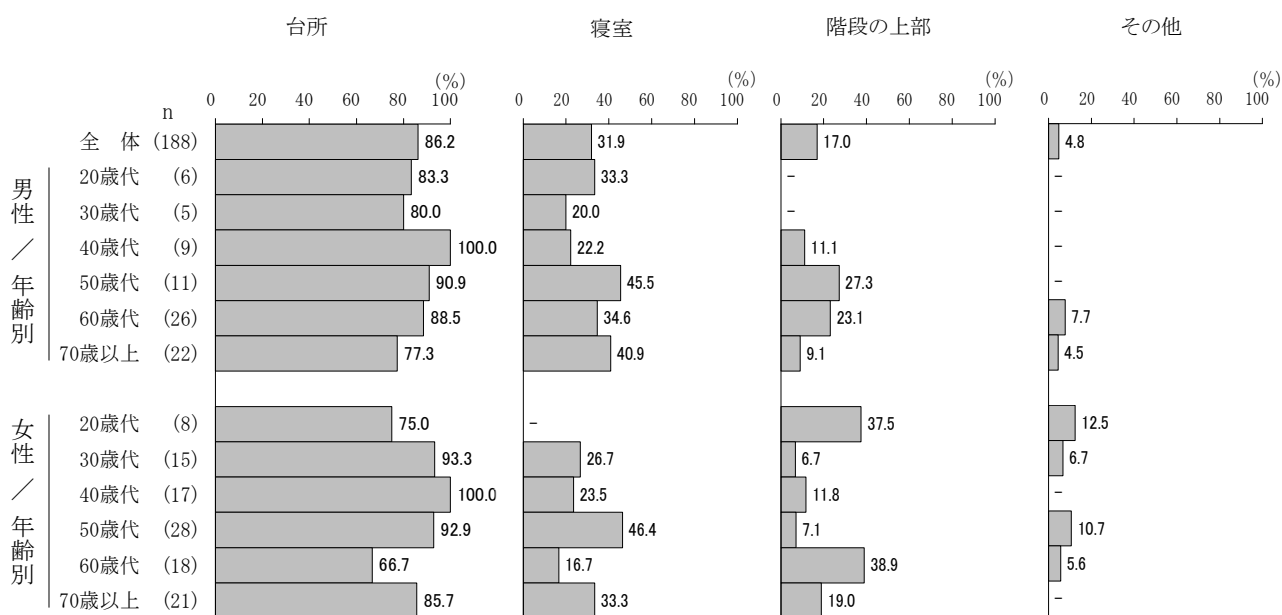


住宅用火災警報器を設置した場所は、「台所」(86.2%)が8割台と最も多くなっている。次いで、「寝室」(31.9%)、「階段の上部」(17.0%)の順となっている。

前回調査(平成22年10月)と比較すると、「台所」が3.2ポイント上回っており、「寝室」が5.6ポイント下回っている。「階段の上部」は、2.6ポイント下回っている。(図表4-11)

(第1回アンケート)

図表4-12 住宅用火災警報器を設置した場所(性/年齢別)



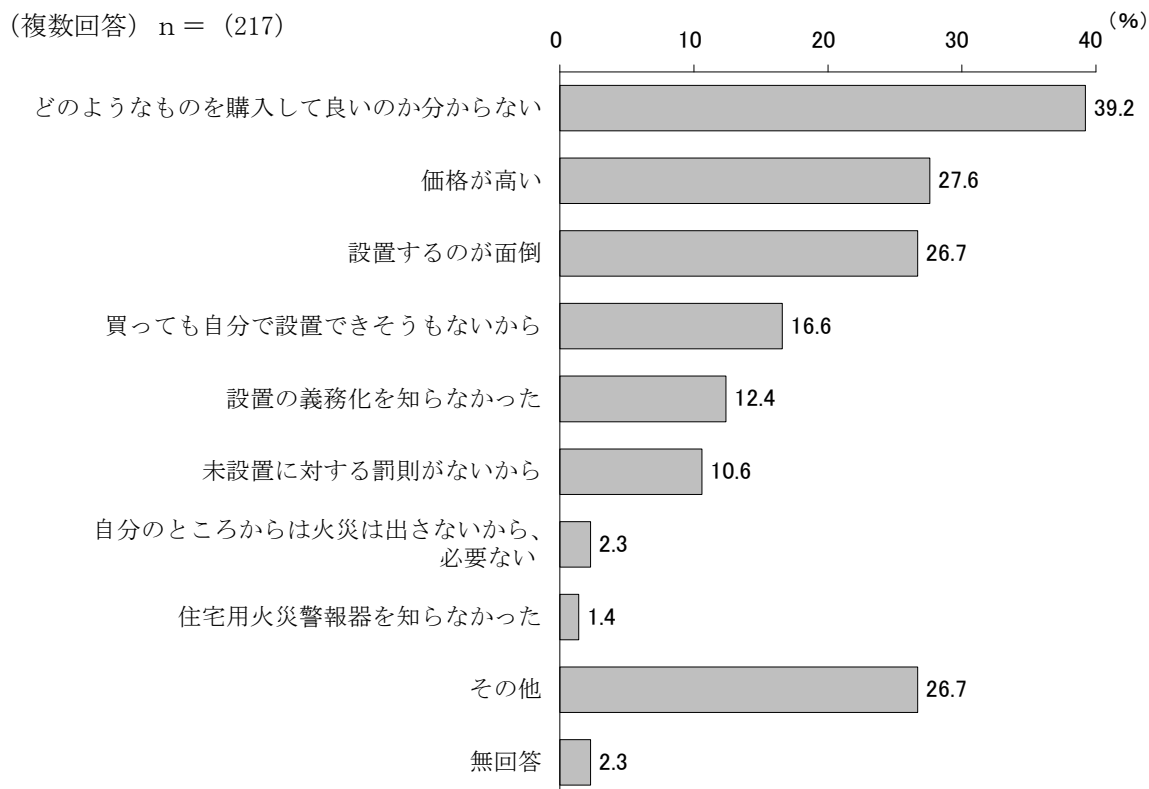
性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表4-12)

4-6 住宅用火災警報器を設置していない理由

◎「どのようなものを購入して良いのか分からない」が39.2%

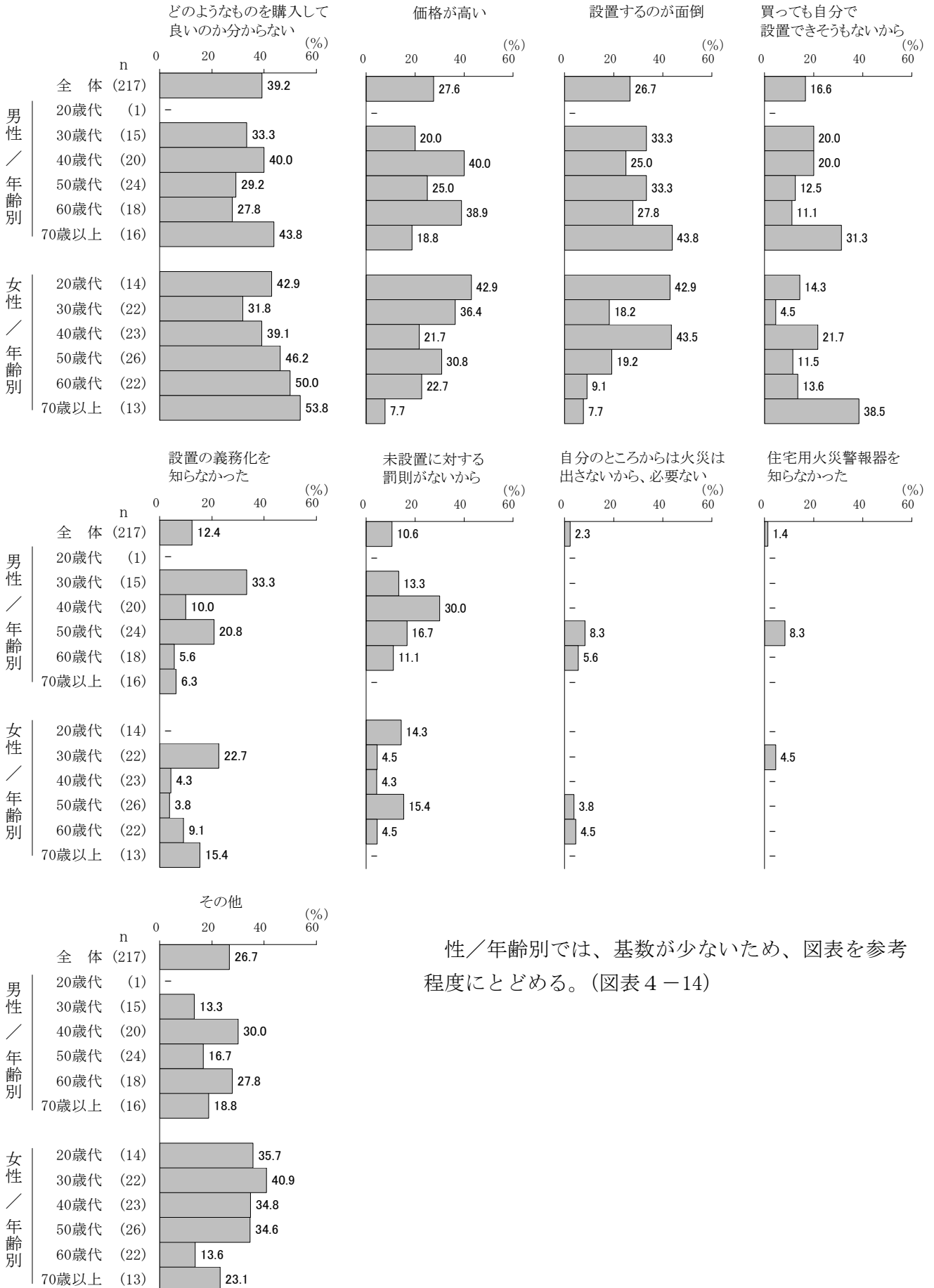
問16-4 (問16で、「4 上記のどれも設置していない」と回答した方にうかがいます。) 設置していない理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図表4-13 住宅用火災警報器を設置していない理由



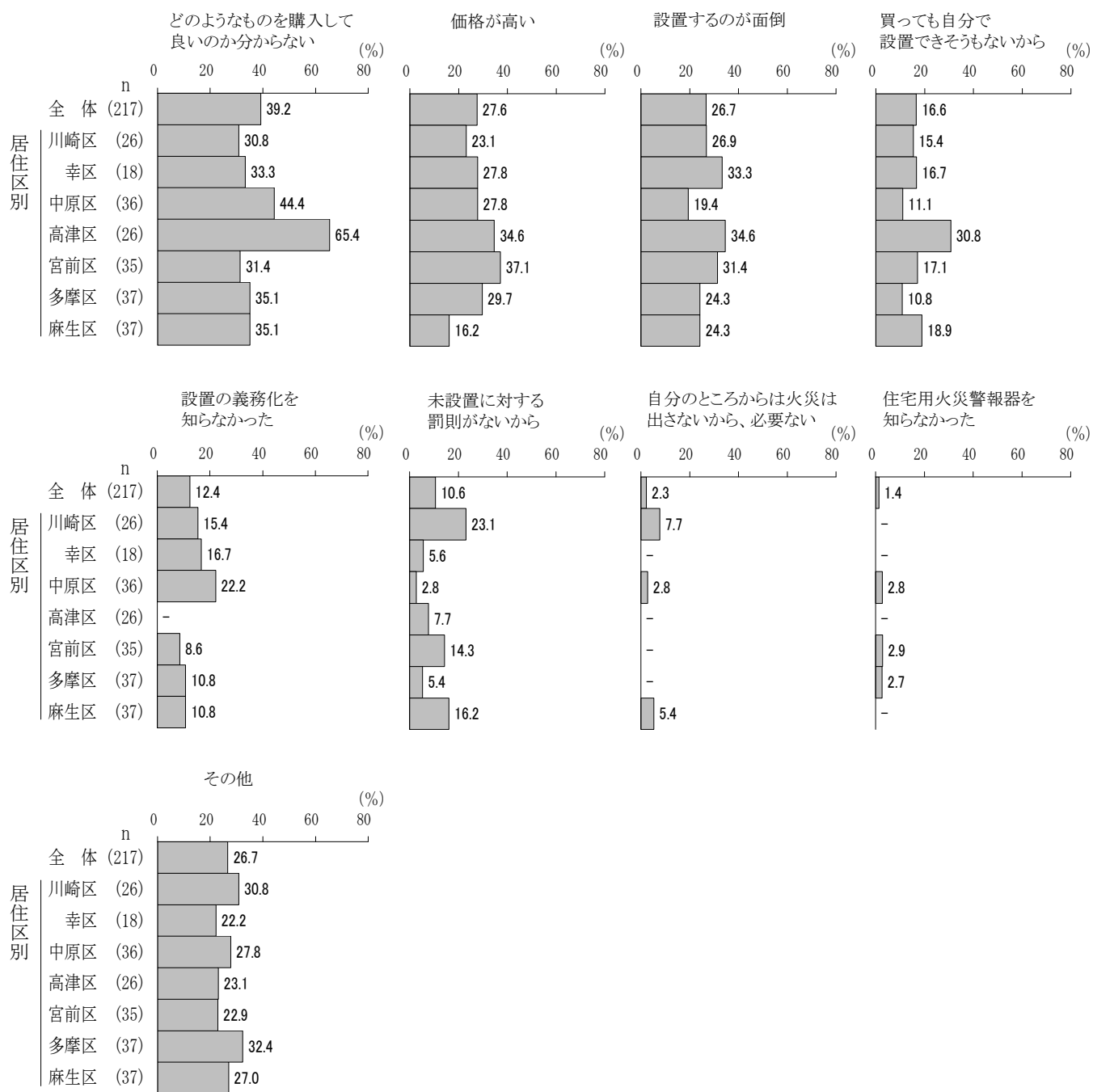
住宅用火災警報器を設置していない理由は、「どのようなものを購入して良いのか分からない」(39.2%)が最も多くなっている。次いで、「価格が高い」(27.6%)、「設置するのが面倒」(26.7%)の順となっている。(図表4-13)

図表4-14 住宅用火災警報器を設置していない理由(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表4-14)

図表4-15 住宅用火災警報器を設置していない理由(居住区別)



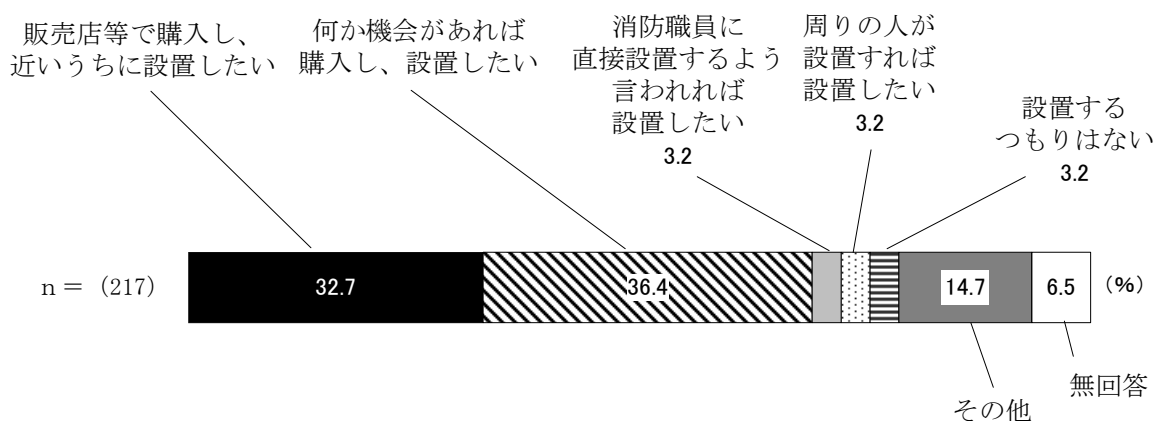
居住区別では、「どのようなものを買って良いのか分からない」は、高津区(65.4%)が最も多くなっている。「価格が高い」は、宮前区(37.1%)、高津区(34.6%)が多くなっており、麻生区(16.2%)が少なくなっている。(図表4-15)

4-7 今後の住宅用火災警報器の設置予定

◎「何か機会があれば購入し、設置したい」が36.4%

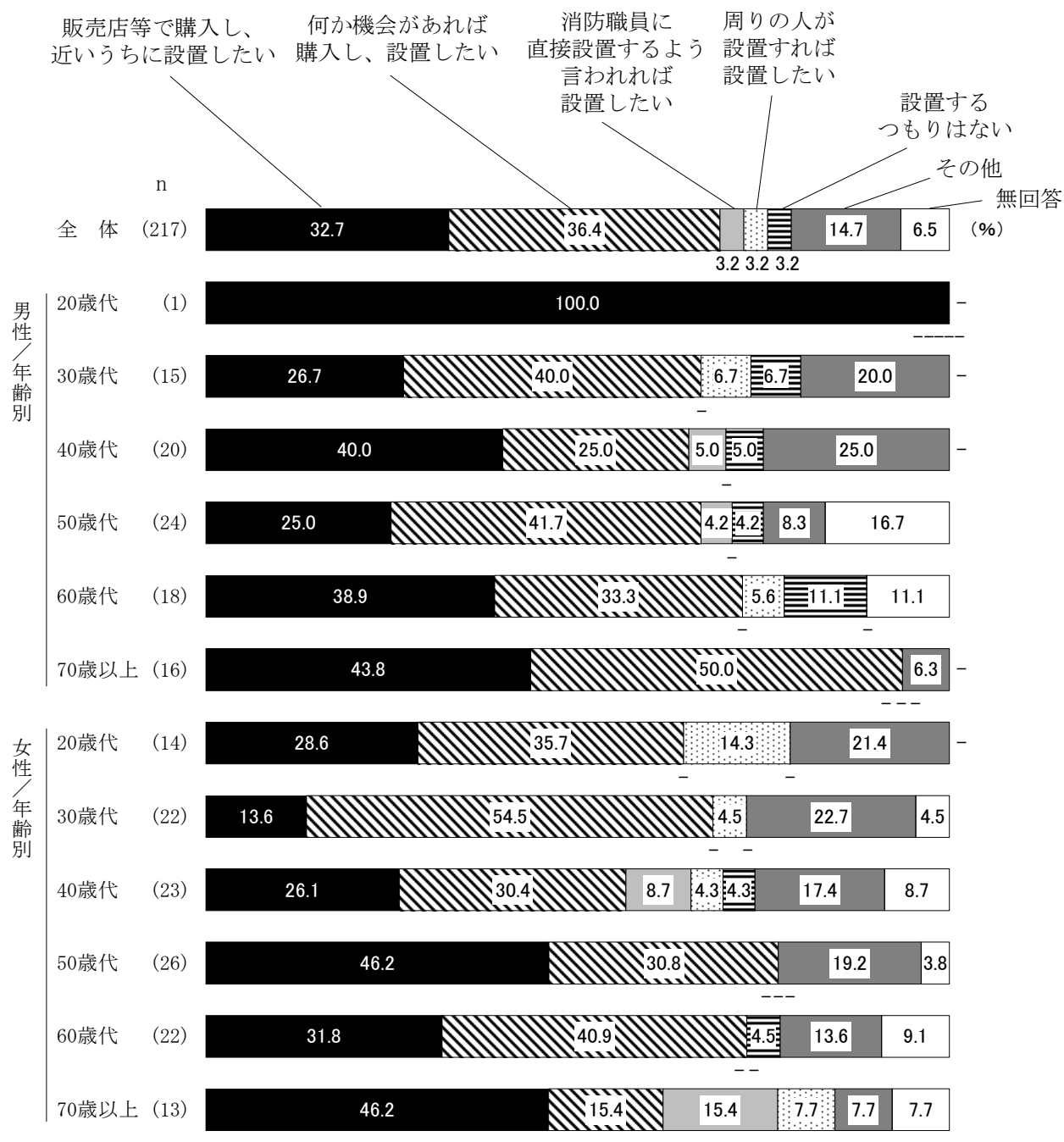
問16-5 (問16で、「4 上記のどれも設置していない」と回答した方にうかがいます。) 今後の設置の予定をお答えください。(〇は1つだけ)

図表4-16 今後の住宅用火災警報器の設置予定



今後の住宅用火災警報器の設置予定は、「何か機会があれば購入し、設置したい」が36.4%、「販売店等で購入し、近いうちに設置したい」が32.7%などとなっている。一方、「設置するつもりはない」は、3.2%となっている。(図表4-16)

図表4-17 今後の住宅用火災警報器の設置予定 (性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表4-17)